

2019 Study Guide

スタディガイド

[学校教育系]

平成 31 年度入学生用



東京学芸大学

「2019 スタディガイド [学校教育系]」は、入学から卒業まで、どのように学修するのが望ましいか4年間の学修を概観できるよう編集しています。

この「スタディガイド」及び時間割・シラバスが掲載されている「授業ガイド」を参照して授業科目を履修してください。

「授業ガイド」は「東京学芸大学ホームページ」から閲覧できます。

なお、履修基準、履修方法は入学時に定められていますので、その後の変更はありません。ただし、授業科目名等に変更が生じる場合もありますので、その際は掲示等でお知らせします。

また、教育職員免許状及び資格又は受験資格取得に必要な事項についても記載してあります。

「スタディガイド [学校教育系]」は、入学時のみ配付しますので、卒業まで大切にしてください。

目 次

1 東京学芸大学の概要	1
2 カリキュラム用語集	3
3 課程及び授業科目区分の略称	4
4 カリキュラムの特色	5
5 教育組織	7
6 学群・教室一覧	8
7 授業時間割及び履修上の注意事項	9
8 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価	13
9 教育実習とインターンシップ,多摩地区国立5大学単位互換制度	14
10 介護等体験について	18
11 教員養成高度化プロジェクトについて	19
12 指導教員制度と指導体制	20
13 オフィスアワーについて	20
14 学生による授業アンケート	21
15 履修基準	22
16 卒業要件	26
17 開設授業科目一覧の見方	27
18 教養科目	29
① 総合学芸領域 (CA)	37
② 健康・スポーツ領域 (CH)	41
③ 語学領域 (CL)	42
19 教育基礎科目	
① 教職の意義等(EW)	45
② 教育の基礎理論(EF)	45
③ 教育課程及び指導法に関する科目(ET)	45
④ 生徒指導及び教育相談(EC)	48
⑤ 教職実践演習(EE)	49
⑥ 教職に関する科目〔選択〕	49
⑦ 教育実習・養護実習(EP)	50
20 専攻科目	
① 共通SE	55
② 小学校の教科に関する専門的事項(SP)	56
初等教育教員養成課程(A類)	
中等教育教員養成課程(B類)	

③ 国語 (A・B類)	58
④ 社会 (A・B類)	62
⑤ 数学 (A・B類)	71
⑥ 理科 (A・B類)	75
⑦ 音楽 (A・B類)	83
⑧ 美術 (A・B類)	89
⑨ 保健体育 (A・B類)	95
⑩ 家庭 (A・B類)	99
⑪ 英語 (A・B類)	103
⑫ 学校教育 (A類)	107
⑬ 学校心理 (A類)	109
⑭ 国際教育 (A類)	111
⑮ 情報教育 (A類)	113
⑯ 環境教育 (A類)	115
⑰ ものづくり技術 (A類)	117
⑱ 幼児教育 (A類)	119
⑲ 技術 (B類)	121
⑳ 書道 (B類)	124
特別支援教育教員養成課程 (C類)	126
養護教育教員養成課程 (D類)	130

21 学校教育系学生のための教員免許状の取得方法

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	134
(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	136
(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	138
(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	139
(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」、 「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法	140
(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について	165
(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法	170
(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法	172

22 資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法(諸資格)

1. 司書教諭	173
2. 保育士	173
3. 司書	174
4. 学校司書	175
5. 社会教育主事(社会教育士)	176
6. 学芸員	177
7. その他	178

1 東京学芸大学の概要

－ 教育への情熱 知の創造 －

本学は、日本の教育系大学の中心に位置し、優れた人材を社会に送り出してきました。この標語は、教育と文化の世紀といわれる21世紀において教育と知の創造者であり、開拓者であろうとする本学の姿勢を端的に表現したものです。

【大学の目的】

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的としています。

【教育理念】

東京学芸大学は、我が国の教員養成の基幹大学として、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力と実践力に富む有為の教育者を養成することを目的としています。

【基本目標】

- 1 創造力と実践力を身につけ、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員を養成する。
- 2 精深な知性と高邁な精神を身につけ、広く生涯学習社会において指導的な役割を担う人材を養成する。
- 3 我が国の教育実践を先導する研究活動を推進し、その研究成果に立脚した独創的な教育を行う。
- 4 学校教育と教員養成・研修に関する情報を幅広く収集・整理し、国内外に向けて発信する体制を構築する。
- 5 社会に開かれた大学として、社会貢献活動や国際交流活動を積極的に推進する。

【ディプロマ・ポリシー】(学位授与の方針)

東京学芸大学所定の単位を修得し、深い教養と豊かな知性を身につけた上で、さらに高度な専門性と優れた実践力を兼ね備えた教員となりうる能力を有すると認められる者、または、教育の基礎理論と教育支援の専門知識、ならびに協働力・ネットワーク力・マネジメント力を習得し、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援する人材となりうる能力を有すると認められる者に学位を授与します。

【カリキュラム・ポリシー】(教育課程編成・実施の方針)

東京学芸大学は、教員養成を主目的とした学校教育系4課程と、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成する教育支援課程の計5課程で構成されており、大学全体として、以下のような特徴をもったカリキュラム構成となっています。

なお、学修の成果の評価にあたっては、客観性、厳格性を確保するため、学生に対し評価基準をあらかじめ明示し、その基準に従って適切に行っています。

1. 本学の「教養教育」は、人権を尊重し、国際的視野を基盤とした共生社会の実現に貢献できるよう、深い教養と豊かな知性を身につけることを目的に、「総合学芸領域」、「健康・スポーツ領域」、「語学領域」の3領域にわたって学修します。
特に本学は、人権教育を重視しており、「人権教育」を全学必修科目に加えています。
2. 学校教育系4課程においては現代的な教育課題に関連する科目群、教育支援課程においては広く教育支援人材養成を行うことに関連する科目群を中心に、それぞれに選修・専攻・コースの枠を超えて共通に履修する科目群を設けています。
3. 専門性を深める「専攻科目」は、課程、選修・専攻ごとに開設されています。
特に「卒業研究」は4年間の学びの集大成として位置づけ全学必修科目となっています。
4. 全学的に、選修・専攻・コースごとに初年次向けの専門基礎科目（入門セミナー）を開設するなどして、新入生が大学における学修に円滑・効果的に取り組めるようにしています。

【特色】

（総合的な学問の府）

本学は、教育系の単科大学でありながら、学校教育系4課程、教育支援系1課程があり、総合大学に匹敵する総合性を有しています。附属図書館の教育系図書80万冊は全国最大級です。

（伝統ある教員養成の基幹大学）

本学の創立は明治6年。創立から140年以上の長い伝統を持ち、21世紀の日本の教育を幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの附属学校と共に担っています。

（ふれあい溢れる学生生活）

本学には、数多くの自主ゼミナールが組織され、それぞれ専門的に興味深いテーマを追究しています。また、特色ある文化サークル・体育サークルが学内外を舞台に活躍しています。どちらも東京学芸大学らしいふれあい溢れる場となっています。

2 カリキュラム用語集

- 1 教養科目** 教養科目は、大学生として社会の中に生きる人間として必要な教養を身に付けたり、教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い観点から学ぶ科目群です。
- 2 教育基礎科目** 教育職員免許状取得に必要な科目を中心に構成された科目群です。
- 3 専攻科目** 所属している専攻・選修・コースについて学習する科目群です。
- 4 必修科目** 卒業するために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。
- 5 選択科目** 指定された科目群の中から科目を選択し、所定の単位数を修得する必要のある科目です。
- 6 自由選択** 自由選択は、自分の専攻・選修・コースの分野を超えて、幅広い知識や技術を身に付けてもらうために、他の課程や専攻・選修・コースで開設している授業科目を履修できるようにしたものです。
- 7 卒業研究** 卒業研究は、大学生活を締めくくる最後の授業科目です。卒業年次に指導教員の指導を受けながら研究を行います。
- 8 年 次** 入学してからの年数のことです。
- 9 開設学期** 授業科目が標準に開設される学期を示しています。Ⅰ期(1年次春学期)～Ⅷ期(4年次秋学期)まであります。授業科目は、標準開設学期に履修し単位を修得することが望まれます。
- 10 集中授業** 授業を一定期間にまとめて行う授業形態のことです。
- 11 単 位** 「単位」とは「信頼(trust)」を意味する「クレジット(credit)」のことであって、単位制は大学における教育の基本であるだけに、単位を充足することは、きわめて重要です。
本学においては、各授業科目の単位数を45時間の学修を必要とする内容を持って1単位し、次のとおり単位を計算しています。
1 講義及び演習については、1週1時限、15週又は30週の授業をもって2単位とする。
2 実験・実習及び実技については、1週1時限、30週又は45週の授業をもって2単位とする。
ただし、特定の授業科目、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位としています。
- 12 シラバス** 講義の摘要又は講義要目。
学年あるいは学期中の授業・講義の計画や内容の概略を記したものです。
- 13 履修カルテシステム** 「教職実践演習」の履修に伴い、4年間の教職関連科目の履修状況において、どのような能力が養われたかを、学生自身が履修履歴や達成度合い及び自己診断結果などを確認できるものです。このシステムは、学芸ポータルからアクセスすることができます。
- 14 CAP制** 半期及び年間の履修登録単位数を制限する制度です。

3 課程及び授業科目区分の略称

1 課程の略称

本学では教育組織（課程）は、以下の略称を一般的に使用しています。これは本学独自の略称であり、公には使用しませんので注意してください。

A類＝ 初等教育教員養成課程

B類＝ 中等教育教員養成課程

C類＝ 特別支援教育教員養成課程

D類＝ 養護教育教員養成課程

E類＝ 教育支援課程

2 授業科目区分及び略称

授業科目区分について、本学では略称を用いることがあります。これも本学独自の略称です。

○教養科目

・CA＝総合学芸領域

・CH＝健康・スポーツ領域

・CL＝語学領域

○教育基礎科目

・EW＝教職の意義等

・EF＝教育の基礎理論

・ET＝教育課程及び指導法に関する科目

・EC＝生徒指導及び教育相談に関する科目

・EE＝教職実践演習

・EP＝教育実習・養護実習

○専攻科目

・**専攻 SE, 共通 SE**＝教科[養護]・教職に関する科目(学校教育系のみ)

・**SS**＝課程共通科目(教育支援系のみ)

・**S**＝必修科目

・**SA**＝選択科目A

・**SB**＝選択科目B

・**SZ**＝卒業研究

4 カリキュラムの特色

本学では、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員と広く生涯学習社会において指導的な役割を担う人材を養成することを目的としています。そのために必要な社会的教養と教育に対する深い理解を在学中に体得してもらい、また、多様な資質と履修歴を持つ学生に対して、その個性が伸ばせるように柔軟に対応する力を身に付けてもらえるようなカリキュラムになっています。

本学のカリキュラムの特色は、①現代的教育課題に対応できる実践的な能力をもった教員養成のための実践的・開発的なカリキュラム、②教育界を中心に広く生涯学習社会において活躍する人材を養成するためのカリキュラム、③明確なキャリア(職業)意識をもって学習できるカリキュラム、④学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成できる実践的なカリキュラム、が挙げられます。

【学校教育系】

学校教育系のカリキュラムは、子どもたちの「生きる力」を育むことのできる、資質と能力を持った教員の養成を目的としたカリキュラムです。「ピーク制」を維持しつつ、同時に学校教育における諸課題及び教科内容の総合性に対応したカリキュラムを特色とし、創造力・探究力等を含む実践的指導力を有する教員の養成を目的としています。

(カリキュラムの基本構造)

- ・学校教育系のカリキュラムは、「教養科目」、「教育基礎科目」及び「専攻科目」の3科目区分からなっています。
- ・授業科目は、原則として半期で完結するセメスター制となっています。

(教養科目)

教養科目は教員としての深い教養と基礎的技能を獲得することを目的としており、総合学芸領域、健康・スポーツ領域、語学領域から構成されています。

① 総合学芸領域(CA)

- ・総合学芸領域は、現代社会に生き、将来の日本・世界を創造する役割を担う学生のために、多様な視点から学習の素材を提供しようとするものです。「日本国憲法」、「人権教育」、「情報」が必修です。

② 健康・スポーツ領域(CH)

- ・健康・スポーツ領域では、「スポーツ・フィットネス実習」と「ウェルネス概論」が必修です。

③ 語学領域(CL)

- ・語学領域には、「英語コミュニケーションA・B」、「初習語学」、「専門基礎外国語」、「選択外国語」の科目があります。

(教育基礎科目)

「教育基礎科目」は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」など、教職に関する基本的な事項を学習します。

- ・「教育実地研究Ⅱ」は必修ではありませんが、教員になることを強く志望する方はできる限り受講してください。

(専攻科目)

「専攻科目」は教科に関する専門的なことがらを学習します。

① 教科・教職に関する科目(共通 SE)

- ・教育基礎科目で学習した教職に関する理論等と教科専門とを橋渡しする科目です。
学校教育系の学生全員が履修可能な横断的な内容の科目となっています。

② 教科・教職に関する科目(専攻 SE)

- ・教育基礎科目で学習した教職に関する理論等と教科専門とを橋渡しする科目であり、所属する課程の専攻・選修で専門とする分野を中心とした内容の科目となっています。

③ 専攻に関する科目

- ・それぞれの専攻・選修の専門に関することを学習します。

④ 卒業研究(SZ)

- ・卒業研究は、4年間の学習の総まとめです。
所属する課程・専攻・選修の履修方法に従って履修してください。

(自由選択)

所属する課程・専攻・選修の履修基準で定められている単位数を履修してください。自分の関心や問題意識に従って計画的に履修して、自分の得意分野を作れるように工夫すると良いでしょう。

たとえば、以下のような場合が自由選択の単位となります。

- 1) 他の課程・専攻・選修・コースでのみ開設している授業科目の単位を修得した場合
- 2) 教養科目について、履修基準で定めている22単位を超えた単位
- 3) 自専攻・選修・コースの専攻科目の履修基準を超えて修得した単位
自由選択は、原則的にはどの科目も授業担当教員の許可が得られれば選択可能ですが、特定の授業科目については履修制限を行っていますので注意してください。
- 4) 多摩地区国立5大学単位互換協定により他大学で履修した単位

5 教 育 組 織

1 学校教育系

学校教育系は、次の課程,専攻・選修から成っています。

初等教育教員養成課程(A類)

国語選修	社会選修	数学選修
理科選修	音楽選修	美術選修
保健体育選修	家庭選修	英語選修
学校教育選修	学校心理選修	国際教育選修
情報教育選修	環境教育選修	ものづくり技術選修
幼児教育選修		

中等教育教員養成課程(B類)

国語専攻	社会専攻	数学専攻
理科専攻	音楽専攻	美術専攻
保健体育専攻	家庭専攻	技術専攻
英語専攻	書道専攻	

特別支援教育教員養成課程(C類)

聴覚障害教育専攻	言語障害教育専攻	発達障害教育専攻
学習障害教育専攻		

養護教育教員養成課程(D類)

養護教育専攻

2 教育支援系

教育支援系は、次の課程,専攻・コース・サブコースから成っています。

教育支援課程(E類)

教育支援専攻

生涯学習コース	生涯学習サブコース
	文化遺産教育サブコース
カウンセリングコース	
ソーシャルワークコース	
多文化共生教育コース	多言語多文化サブコース
	地域研究サブコース
情報教育コース	
表現教育コース	
生涯スポーツコース	

6 学群・教室一覧

本学では、教育研究を円滑に運営するために学部を、課程及び専攻・選修・コース別に、**4つの学群(総合教育科学群, 人文社会科学群, 自然科学群, 芸術・スポーツ科学群)**に分けています。学生は各自の専攻・選修・コースにより、この4つの群のいずれかに所属します。

群	学 校 教 育 系		教 育 支 援 系	
	教 室	学生が所属する 課程(類)・専攻(選修)	教 室	学生が所属する 課程(類)・コース
総合教育科学群	学校教育	A類 学校教育	生涯学習	E類 生涯学習
	学校心理	A類 学校心理	カウンセリング	E類 カウンセリング
	幼児教育	A類 幼児教育		
	特別支援教育	C類 特別支援教育		
	家庭科	A・B類 家庭		
	国際教育	A類 国際教育		
	環境教育	A類 環境教育		
人文社会科学群	国語科	A・B類 国語	ソーシャルワーク	E類 ソーシャルワーク
	英語科	A・B類 英語	多文化共生教育	E類 多文化共生教育
	社会科	社会科教育学		
		地理学		
		歴史学		
		哲学		
		法学・政治学		
		経済学		
		社会学		
自然科学群	数学科	A・B類 数学	情報教育	E類 情報教育
	理 科	理科教育学		
		物理学		
		化学		
		生物学		
		地学		
	技術科	A類 ものづくり技術 B類 技術		
	情報教育	A類 情報教育		
芸術・スポーツ科学群	音楽科	A・B類 音楽	表現教育	E類 表現教育
	美術科	A・B類 美術	生涯スポーツ	E類 生涯スポーツ
	書道科	B類 書道		
	保健体育科	A・B類 保健体育		
	養護教育	D類 養護教育		

7 授業時間割及び履修上の注意事項

1 授業時間

授業時間は、次のとおりです。(春・秋学期共通)

第1時限	8：50～10：20
第2時限	10：30～12：00
第3時限	12：50～14：20
第4時限	14：30～16：00
第5時限	16：10～17：40

2 時間割編成上の区分

時間割は、原則として課程、専攻・選修・コースごとに編成されています。

3 履修上の注意

履修にあたっては、春学期開始時に授業の時間割やシラバスが公開されますが、カリキュラムには定められた規則があるので、これに十分注意して履修しなければなりません。特に必要な項目を抜粋して次に掲げておきます。また、履修上いろいろな制限があるので、卒業に支障のないよう、十分に注意してください。

1) 単位の認定

単位は、当該授業科目の単位数全体について認定するものとし、授業科目の単位数の一部を認定することはできません。ただし、学則第25条の規定により海外の大学等に留学する学生（以下「留学生」という。）の履修する授業科目については、この限りではありません。

2) 出席時数

学生は、公欠を含め授業の3分の2以上出席しなければなりません。(カリキュラム実施細則第6条)

3) 公欠制度

次の各号の事由によりやむを得ず正課（ただし集中講義を除く。）を欠席する場合は、これを公欠として取扱い、単位認定要件に係る欠席扱いとしないこととなります。

- (1) 感染症に罹患、あるいは罹患している疑いやおそれがあることにより、出席停止の措置を受けた場合
- (2) 親族（第3親等まで）が死亡した場合
- (3) 国、地方公共団体又は全国規模の団体からの要請により、行事等に大学が学生を派遣する場合
- (4) 大学が指定する事業（教育実習、介護等体験など）に参加する場合
- (5) その他学長が必要と認める場合

(公欠の具体的な基準及び手続きについては、学芸ポータル等で確認してください。)

4) 履修手続

- (1) 授業科目の履修に当たって、学生は、履修科目申告票を授業担当教員に各学期（通年編成にあつては春学期）開始後2週間以内に提出しなければなりません。
- (2) 学生は、履修する授業科目を各学期開始後3週間以内に登録しなければなりません。
- (3) 履修登録は、春学期において年間（春・秋学期）登録を行うことが望ましいです。
なお、秋学期開設授業科目については、秋学期になってからの修正は可能です。
- (4) **履修登録をしていない授業科目については、単位は与えられません。**
- (5) 学年ごとに履修登録の締切日を指定する場合があるので、その際は指示に従ってください。

5) 修得単位の取消し

既に修得した単位は、取り消すことができません。ただし、授業料若しくは入学料の未納を理由として除籍された場合又は試験における不正行為により懲戒処分を受けた場合は、この限りではありません。

6) 履修方法

- (1) 学生は、所属する課程、専攻・選修・コースに開設された授業科目を履修しなければなりません。
ただし、履修上必要と認められた科目については、この限りではありません。
- (2) **授業科目は、標準開設学期において履修することが原則です。**
- (3) 同一の曜日・時限において2つの授業科目を履修することはできません。
- (4) 自由選択として履修する場合、教養科目、教育基礎科目及び専攻科目（「卒業研究」を除く。）の授業科目から履修することができます。ただし、他の課程、専攻・選修・コースに開設された授業科目を履修する場合は、授業担当教員の承諾を得なければなりません。

7) 標準開設学期以外の履修

- (1) 授業科目は、標準開設学期において履修することを原則としていますが、**授業担当教員の承諾を得て**、1年次上位の標準開設学期に開設されている授業科目を履修することができます。（カリキュラム実施細則第10条）
- (2) 平成31年度入学生は上記(1)の規定に関係なく、1年次上位に開設されている授業科目を履修することはできません。

8) 履修登録単位数の上限

本学では学生の主体的で計画的な学習（それぞれの授業科目の予習・復習の時間を含む。）を促すため、履修登録単位数に制限を設けるCAP制を導入しています。

1～3年次は、各学期における履修登録単位数は28単位、年間では52単位(C類は56単位)が上限となります。

ただし、以下の科目についてはCAP制の除外対象とし、履修登録単位数の上限を計算する際は、単位数に含まれないものとします。

- (1) 集中授業（ただし、「スタディガイド」の「標準開設学期」で集中授業として定められている科目のみを除外対象とする。）
- (2) 教育実習・養護実習（EP）
- (3) 再履修科目（前学期以前の成績が「F」もしくは「失」の科目）
- (4) 諸資格科目（司書教諭、司書、社会教育主事、学芸員、社会福祉士、及びスクールソーシャルワーカーの資格取得のための科目）

なお、「学校司書」のみに必要な授業科目となっている以下の授業科目は、CAP制の除外対象とはなりません。〔履修登録単位数の上限を計算する際に含まれます。〕

「教育の理念と歴史」「教育心理学」「特別支援教育の理解」「初等教育の内容方法」「中等教育の内容と方法」（いずれも教育基礎科目）

「特別な教育的ニーズの理解と支援」（C類専攻SE）

また、4年次は、全ての授業科目をCAP制の対象外（履修登録単位数の制限無し）とします。

9) 受講条件

・「教育実地研究Ⅰ」、「教育実地研究Ⅱ」を履修するための受講条件

詳しくは p.52 ～ を参照。

・「教職実践演習」の受講条件

「教職実践演習」を履修する前年度末において、次の①②の条件を満たしていること。

① 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」を修得。

② ①を含み 99 単位以上を修得。

・卒業研究の受講条件

当該教室が指定した授業科目の単位修得を受講条件とする場合があります。

10) 履修制限

授業の教育効果を高めるために、以下の授業科目については、履修制限を行う場合があります。

(1) 標準履修年次での履修が望ましい授業科目

(2) 教室の収容人数等により履修制限が必要な授業科目

(3) 履修クラスが指定されている授業科目

11) 試験等

(1) 試験は、授業科目毎の授業期間内で次のとおり行うものとします。

① 学期毎に終了する授業科目にあつては、学期末とします。

② 通年編成の授業科目にあつては、学年末とします。

(2) 上記(1)にかかわらず、論文、作品等を課し、学年末又は学期末試験に代えることがあります。

12) 追試験

(1) 傷病、災害等やむを得ない事情のために試験等を欠いた者で、出席時数を充足している者に限り、願い出により追試験を行うことができます。

(2) 上記(1)により追試験を受けようとする者は、所定の追試験願に診断書等必要な証明書を添付し、授業終了後 1 週間以内に学務課を経て、授業科目担当教員の承認を得なければなりません。

(3) 追試験は、次学期開始後 1 ヶ月以内に実施するものとします。ただし、傷病、災害等やむを得ない事情が次学期開始後まで継続した場合は、その事情解消後 1 ヶ月以内に行います。

(4) 上記(3)にかかわらず、卒業年次の追試験の期間は都度定めます。

13) 再試験

不合格の認定を受けた授業科目の再試験は行いません。

14) 成績評価の方法

(1) 成績評価は、学期毎に終了する授業科目にあつては学期末、通年編成の授業科目にあつては学年末に行います。ただし、留学生（「留学」の許可を受けて海外の大学等に留学する学生）の履修する通年編成の授業科目の成績評価については、学期末に行います。

(2) 教育実習（A～C 類向け副免用の小・中学校教育実習及び選択科目は除く。）の成績評価（以下「総合評価」という。）は、学期ごとに行う評価（以下「中間評価」という。）を総合して行います。

(3) 中間評価に不合格があった場合、総合評価を合格とすることはできません。ただし、当該不合格の部分を履修し合格した場合は、総合評価を合格とします。

(4) 上記(1)による留学生が履修する、通年編成の授業科目の成績評価は、上記(3)を準用します。

15) 成績通知

学生への成績通知は、次学期開始までに行われます。

16) 評語及び配点基準

成績に関する評語及び配点基準は、次表のとおりとなります。

評 語	区 分	内 容
S・A・B・C 合	合 格	高点順にS・A・B・Cに区分する。 合は、学校及び総合インターンシップ科目について適用する。
F 否	不 合 格	試験等の成績が不合格と判定されたもの 否は、学校及び総合インターンシップ科目について適用する。
失	失 格	出席時数が3分の2に満たない者又は途中で授業を放棄した者(試験の無断欠席を含む。)試験における不正行為により懲戒処分を受けた者
追	追 試 験	出席時数が3分の2以上で、傷病、災害等やむを得ない事情のために学期末又は学年末試験等を欠いた者 4年次後学期の追試験
N(R)	認 定	学則第25条の規定による留学生の認定単位
N(G)		学則第6条の規定による既修得単位の認定
N(K)		学則第7条の規定による既修得単位の認定
N(T)		学則第23条の規定による既修得単位の認定

評 価	配点基準 (100点満点)	基 準
S	100～90	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を収めている。
A	89～80	到達目標を十分に達成している。
B	79～70	到達目標を達成している。
C	69～60	到達目標を最低限達成している。
F	59以下	到達目標を達成していない。

17) 学芸ポータルおよび学生情報トータルシステム

本学では、学生の皆さんにお知らせなどの学内の情報を発信するために、「学芸ポータル」というポータルサイトを用意しています。大学の行事、スケジュール、学生センターや授業担当教員からのお知らせは、学芸ポータルを使用してお伝えします。

(URL <https://portal.u-gakugei.ac.jp>)

また、皆さんの修学を支援するために「学生情報トータルシステム」を用意しています。学生情報トータルシステムには、履修登録、成績確認・印刷や、教育実習、介護等体験の登録、オフィスアワー、シラバス、休講情報の閲覧等の機能が搭載されています。

(URL <https://tgulc.u-gakugei.ac.jp>)

8 GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価

学生自身が学年の初めに1年間の学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで、履修する授業科目を選択させることを目的に平成15年度からGPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)による成績評価制度を導入しています。

GP(グレード・ポイント)とは、授業科目の成績(S・A・B・C・F)に与えられた点数(4・3・2・1・0)を意味し(表1を参照)、GPAとは、GPの単位当たりの平均値です。

GPAの算出方法は、各科目のGPにその科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位数で割ります。

履修した結果、「不合格(F)」あるいは履修登録した科目数が多すぎて途中で授業を放棄した結果、「失格(失)」となった科目が多いなど、成績評価が低ければ、GPAの値も低くなります。

GPAの値が4.0に近ければ、学習の到達度が高いと評価され、反対に1.0に近ければ、学習の到達度は低いと評価されます。

従って、学年の初めに学習計画を十分に立て、自分の学習目標をしっかりと定めたうえで履修する科目を選択してください。

なお、S・A・B・C・F・失の評価を行わない科目は、GPAの対象としません。

GPAは、各学期終了後に通知する成績通知表に記載されます。

GPAは指導教員にも通知され、学習の到達度が低いと判断された学生に対しては、学習指導や助言等を行ないます。

表1：GP(グレード・ポイント)

評価(グレード)	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
F	0
失	0

4.0・・・3.0・・・2.0・・・1.0・・・0.0
←高い <学習到達度> 低い→

【GPA(グレード・ポイント・アヴェレージ)の算出例】

算出方法：各科目のGPに、その科目の単位数を乗じた数の合計を、履修登録した科目の総単位で割ります。

(例)

日本国憲法＝S(4.0×2単位) 人権教育＝A(3.0×2単位) 情報処理＝B(2.0×2単位)
教育心理学＝B(2.0×2単位) 社会学＝C(1.0×2単位) 生物学＝F(0.0×2単位)
英語学＝失(0.0×2単位)

※履修登録単位数は、14単位

※取得単位数は、10単位

※GPの総和(24)÷(14単位)＝1.714

※GPAは、1.71(四捨五入)

9 教育実習とインターンシップ、多摩地区国立5大学単位互換制度

大学での学びは学内にとどまるものではありません。特に今日では、学内で自分の専門を深く追究するとともに、学外に出て、実践的な力を身につけることが強く求められています。ここで取り上げる教育実習とインターンシップはその代表的な機会です。

I 教育実習

教員免許を取得するためには、教育実習を履修することが必要です。教育実習は、大学での学びをもとに、学校現場で子どもたちを目の前にして、実際に授業をする貴重な機会です。

1. 教育実習と関連科目～4年間にわたる「学校現場での学び」

教育実習とそれに関連する授業科目は、次のように4年間に渡って配置されています。これは、「大学での学び」と「学校現場での学び」を有機的に結びつけることをねらいとしているためです。

○教育実習・養護実習と関連する科目

	授業科目名	履修形態		単位数	開設学期	備考
1	教職入門	必修		2単位	1年次(Ⅱ学期)	学校参観を含む
2	授業観察演習		選択	1単位	2年次(Ⅲ学期)	
3	事前・事後の指導	必修		1単位	3年次(V期)	課程ごとの詳細は 次ページの表を 参照
	教育実地研究Ⅰ	必修		4単位 (A・B・C類) 4単位(D類:養護実習)	3年次(V学期)	
	事前・事後の指導	必修		1単位(C類のみ)	3年次(V学期)	
	特別支援学校実習	必修		3単位(C類のみ)	3年次(VI学期)	
4	教育実地研究Ⅱ		選択	2単位 (A・B・D類)	4年次(VII学期)	教職志望者向け
5	教職実践演習	必修		2単位	4年次(VIII学期)	講義+演習+確認

「教職入門」「事前・事後の指導」「教育実地研究Ⅰ」「教職実践演習」は、教員免許を取得するための必修科目で、この順序で履修することが必要です。

2. 教育実習の構成

次のように、課程・専攻・選修により、教育実習の構成が異なりますので十分に注意してください。以下の教育実習は必修です。

なお、教育実習・養護実習を履修するには条件があります。詳細は、52 ページを参照してください。

(A類)

①小学校各選修「小学校教育実習(A)」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小学校) (4単位)

②幼児教育選修「幼稚園教育実習」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属幼稚園) (4単位)

(B類):「中学校教育実習(B)」5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属中・高・中等教育学校) (4単位)

(C類)

①小免コース「小学校教育実習(C)」5単位 + 「特別支援学校教育実習(C)」4単位

「小学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小学校) (4単位)

「特別支援学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「特別支援学校教育実習」

(特別支援・ろう学校) (3単位)

②中免コース「中学校教育実習(C)」5単位 + 「特別支援学校教育実習(C)」4単位

「中学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」

(附属中・高・中等教育学校) (4単位)

「特別支援学校教育実習(C)」=「事前・事後の指導」(1単位) + 「特別支援学校教育実習」

(特別支援・ろう学校) (3単位)

(D類):「養護実習」 5単位

「事前・事後の指導」(1単位) + 「教育実地研究Ⅰ」(附属小・中・高・中等教育学校) (4単位)

なお、**養護実習はD類生のみ対象です。他の学生は履修できません。**

○教育実習・養護実習の構成

	課 程	区 分	単位数	単 位 構 成			
学 校 教 育 系	A類（小）	教育実習	5単位	事前・事後 の指導 （1単位）	教育実地研究Ⅰ （附属小学校） （4単位）		
	A類（幼）				教育実地研究Ⅰ （附属幼稚園） （4単位）		
	B類				教育実地研究Ⅰ （附属中・高・ 中等教育学校） （4単位）		
	C類（小）	9単位	教育実地研究Ⅰ （附属小学校） （4単位）		事前・事後の指導 （1単位）	特別支援学校実習 （特別支援・ ろう学校） （3単位）	
	C類（中）		教育実地研究Ⅰ （附属中・高・ 中等教育学校） （4単位）				
	D類	養護実習	5単位		教育実地研究Ⅰ （附属小・中・高・ 中等教育学校） （4単位）		

*事前・事後指導は、教育実地研究Ⅰ及び特別支援学校実習をはさんでその前後に行われます。

事前・事後指導は、教育実地研究Ⅰ及び特別支援学校実習と同一年度に履修することが必要です。

*教育実地研究Ⅱは教職志望者向けの教育実習です。

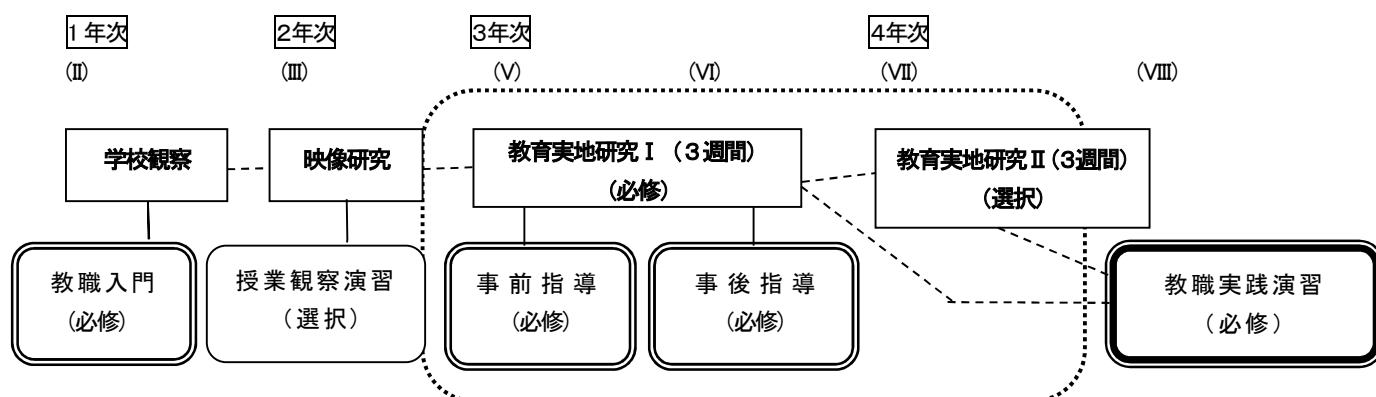
附属学校で行われる教育実地研究Ⅰでの省察に基づいた課題に対して、実践的な探究をするために公立私立学校・園において教育実習を行います。

*学校教育系の学生は副免許取得ができます。

Ⅵ期からⅧ期の間に、副免許取得に必要な選択の教育実習を別途履修することになります。

副免許取得のための教育実習はⅥ期2月、Ⅷ期10月又は2月に行います。

*Ⅲ期に開設される「観察実地研究」及びⅧ期に開設される「研究実習」は、教員免許取得のための教育実習の単位としては加算できません。



3. 注意事項(書類提出, オリエンテーション, 連絡掲示について)

教育実習は対外的な責任を伴う授業科目ですので、「教育実習学生調査票」をはじめとする多くの書類を事前に提出する必要があります。それらの手続の方法や教育実習の概要・心得などについては、「オリエンテーション」を2年次より段階的に実施し説明を行いますので、必ず参加してください。オリエンテーションの無断欠席者や必要書類の未提出者は、教育実習を行うことができませんので、十分注意をしてください。

なお、オリエンテーションの開催連絡(日程, 会場, 対象者等), 書類の配布・提出の連絡, 実習配当校の発表などはすべて掲示で行いますので、教育実習に関する掲示板を日常的にチェックする習慣を必ず身につけてください。

また、教育実習と授業が重なる学生は、公欠の手続きをしてください。※ P.9 3) 公欠制度 参照

II インターンシップ

インターンシップとは、学生の皆さんが実際の職業現場に出向き、そこで職業活動を体験することをいいます。大学では、将来の就業への円滑な移行を支援するために、大学教育に資する学生の学外活動を単位化し、皆さんの積極的な参加を呼びかけています。

なお、インターンシップの単位化を希望する学生は、毎年開催されるインターンシップに関するガイダンスに必ず参加してください。

1. インターンシップの対象となる活動

対象となる活動は次の4種類のインターンシップです。

- ①近隣市・区及び附属学校等が実施する「学校インターンシップ」(大学指定)
- ②官公庁が実施するインターンシップ
- ③美術館、博物館、公共ホールなど公的機関、あるいは非営利団体によるインターンシップ
- ④企業によるインターンシップ

※ ②～④については、単位化対象活動の要件があります。詳しくは、ガイダンスで配付する履修ガイドを参照すること。

2. インターンシップ科目の配置・単位認定

1) 授業科目名・科目数

- ・「学校インターンシップA・B」の2科目(各2単位)
 - ・「総合インターンシップA・B」の2科目(各2単位)
- (「総合インターンシップ」は、「1.」に示した学校以外を包含するものです。)

2) 履修条件

- ・履修時に2年生以上の学生であること。
 - ・この科目の単位が修得できないと卒業要件が満たせないという状況ではないこと。
 - ・学校インターンシップの履修においては、既に「教職入門」の単位を修得していること。
 - ・大学が実施する「インターンシップガイダンス」を受講していること。
- ※学校インターンシップ履修者向けのガイダンスと総合インターンシップ履修者向けのガイダンスは、それぞれ別に開催します。履修する活動にあわせて、ガイダンスを受講すること。
- ・大学の授業に支障がないこと。

3) 単位認定と成績評価

- ・「単位」は合計2科目(4単位)まで認定します。修得した単位は「自由選択」になります。
- ・「単位」修得には、1つの学校・企業・公(共)的機関で60時間以上のインターンシップを行う必要があります。
- ・活動計画、活動報告、インターンシップ先の発行する活動証明書を総合的に判断して、可否を決定します。

3. 年間日程

1)「学校インターンシップA・B」

実施年度：大学へ申込書提出→受入れ学校と面談→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

2)「総合インターンシップA・B」

実施年度：大学経由、若しくは個人で企業等へ応募→選考等ののち受け入れ確定→大学へ受け入れ確定及び単位修得意思を報告→大学と受け入れ先で覚書の取り交わし→大学へ活動計画書提出→インターンシップ→評価書の作成・提出→単位認定

3)活動計画・活動記録・活動報告

履修者は、事前に活動計画を作成提出し、活動中は活動記録をとり、事後には活動報告を提出することになります。

4)活動期間

インターンシップは、大学の授業に支障を来たさないように、空き時間（長期休暇中も含め）に行います。インターンシップの期間は、春～秋学期にわたってもよいですが、年度を超えることはできません。単位認定の関係で、当該年度の1月末日までに60時間以上のインターンシップを終了しなければなりません。

Ⅲ 多摩地区国立5大学単位互換制度

本制度は、多摩地区国立5大学単位互換に関する協定に基づき、大学間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。

(参加大学) 東京外国語大学、東京農工大学、一橋大学、電気通信大学、東京学芸大学

1. 出願資格

2年生以上の学部学生（ただし、卒業年次の学生は、卒業予定月を含む学期の授業科目（通年科目を含む）に係る出願はできない。）

2. 派遣スケジュール

	春学期派遣	秋学期派遣
オリエンテーション	1月中旬	6月中旬
申請期間	1月下旬	6月下旬
決定通知送付	3月下旬	9月下旬
派遣期間	各大学の授業暦による	同左
成績反映	10月ごろ	4月ごろ

※ 派遣スケジュールは、都合により変更になる場合があります。
掲示等を必ず確認するようにしてください。

3. 留意事項

- ・出願にあたっては、事前オリエンテーションに必ず参加し、各大学の募集要項を確認してください。
- ・受講希望者が多い授業科目は、順位を付して推薦します。
- ・修得した単位は、本学において修得した単位（自由選択）として認定されます。
- ・協定に基づき、検定料・入学料・授業料は徴収しません。
- ・秋学期に履修した科目は翌年度4月頃に単位が認定されるため、4年次の秋学期は履修できません。

10 介護等体験について

1 制度の概要

教育職員免許状の取得には、卒業に必要な単位及び当該免許取得に必要な単位を修得するほかに、「介護等体験特例法」により、介護等の体験＜7日間＞の証明が必要です。

本学では、1年次に特別支援学校で2日間、2年次に社会福祉施設で5日間の体験と定めています。

2 対象

A類幼児教育選修及びC類を除く学校教育系学生

3 主な日程

- ・ 体験先及び日程は、学生の個別の希望は受け付けません。
- ・ 事前オリエンテーションを欠席した学生には、体験参加を認めません。必ず出席してください。

① 特別支援学校2日間

A類の学生	: 体験先・・・附属特別支援学校
事前オリエンテーション	: 1年次の4月下旬または6月下旬
実施時期	: 6月～翌年3月末日までに実施 (ただし1日目(A体験)が3月実施の場合 の2日目(B体験)は2年次に実施)

オリエンテーション出席後に配当が決定します。

B・D類の学生 : 体験先・・・都立特別支援学校

事前オリエンテーション	: 1年次の5月上旬
実施時期	: 6月～翌年3月末日までに実施

オリエンテーション出席後に配当が決定します。

② 社会福祉施設5日間 *申し込みが必要です。

体験の申し込み	: 2年次の4月中旬以降
体験先と体験時期の通知	: 2年次の6月下旬
事前オリエンテーション	: 2年次の7月中旬～下旬
実施時期	: 8月中旬～翌年3月末日までに実施

その他 注意事項(保険、費用について)

- ・ 介護等体験に関する案内は、掲示を通じて行ないます。
 - ・ 介護等体験実施に際しては、事前に賠償責任保険「学生教育研究災害傷害保険と学研災付帯賠償責任保険」の加入が必要です。(入学手続きの際に加入をお願いしています。)
 - ・ 「麻疹(はしか)に対する免疫の確認書」の提出がない場合、介護等体験ができません。(「確認書」は入学手続きの際に提出することになっています。)
 - ・ 体験で生じる交通費や昼食費等の実費は、全て学生本人の負担となります。
 - ・ 特別支援学校での体験費用は不要ですが、社会福祉施設での体験には、体験費用及び資料代として11,150円が必要です。体験費用等は、体験の申し込み時に大学が徴収します。
 - ・ 体験は、授業期間中に配当されることがあります。授業と重なる学生は、公欠の手続きしてください。介護等体験に伴う公欠届は事前申請が原則です。事後申請は受けません。
- ※ P9. 3)公欠制度 参照
- ・ 対象年次で体験に参加できなかった場合には、速やかに学務課窓口に申し出てください。

1 1 教員養成高度化プロジェクトについて

本学では、平成30年度より教員養成高度化プロジェクトを立ち上げ、教員養成の高度化を進めるため、教職大学院に接続する以下の二つのコースを作りました。

1) 次世代学校リーダー養成コース（ステップアッププログラム）

強い教員志望と優れた適性を有する学部生を対象に、早期から高度専門職業人としての準備教育を施し、次世代の学校システムのリーダーとなりうる教員を、学部3年次から教職大学院2年の4年間を通して育成するために設けられた登録制のコースです。希望者は、学部2年次に登録申請を行います。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

2) 教員養成高度化大学間連携コース（スタートパスプログラム）

連携協定を結んでいる大学から推薦された他大学の学生及び本学から推薦された教職に就く強い意志を持った優秀な学生が、4年次にいくつかのプログラムを受講したうえで、教職大学院入試を特別選抜で受験するコースです。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかの教諭の免許状又は養護教諭の免許状を学部卒業時に取得することが条件です。

なお、2つのコースとも、説明会開催等の詳細は、掲示で周知します。

12 指導教員制度と指導体制

本学では、学生が在学期間中学習目標を持ち健全な学生生活を送れるよう、入学時から各学生に指導教員1名を定め、修学、進路、学生生活全般にわたり指導・助言を行うことになっています。

指導教員は、学生の所属する課程・専攻・選修・コースを所管する教室の教員があたり、適切な機会を設定して定期的に指導学生との面談等を通じて指導・助言を行います。

また、指導教員は担当する学生が、休学・復学・退学など学生の身分異動が生じる場合や奨学金などの申請を行う場合、教育実習を申し込む場合など学生から事情を聞いて学長に具申するなどの仕事も受け持つなど、皆さんの学生生活に密接に関係しています。

※指導教員は、学生の所属する教室によって定め方が異なります。

(指導教員の主な役割)

指導教員は、担当する学生の修学、進路等学生生活全般にわたり指導・助言を行うものとし、次の役割を担います。

1. 適切な機会(オフィスアワー、教室による学生面談週間等)を設定し、定期的に学生と面談する。
2. 学生の単位の修得や成績などの修学状況を把握し、学生の進路希望等に応じて適切に指導・助言を行う。
3. 学生からの相談に応じ、必要な指導・助言を行う。
4. 学生の身分異動、各種奨学金の申込み、教育実習の申請等の際して、公正な意見書を作成し学長に具申する。
5. 担当する学生に不測の事態が発生した場合は、必要な対応を行う。

13 オフィスアワーについて

本学では、学生が本学において快適な生活をおくり、学習・研究に専念できるよう、教員が学生からの授業や修学に関する質問・相談を受け付け、支援するための時間帯を設定したオフィスアワー制度を実施しています。

詳しいオフィスアワーの時間帯については、学生情報トータルシステムを通じて掲載します。

14 学生による授業アンケート

本学では各授業科目について、「学生による授業アンケート調査」を実施しています。

学生が授業内容を理解し、知識や技能を習得したか、そして授業の内容や方法が学生にとって適切であったかをアンケート調査し、教員が今後の授業の内容や方法を改善していくためのものです。

アンケート調査の全体の集計結果は全学に公表されます。これら結果は今後のカリキュラムの検討資料としても利用されます。アンケート調査は全学的には学期末に実施されますが、教員によっては学期の途中で実施することもあります。

アンケートでは記載者が個人的に特定されないように配慮されています。学生番号を記入してもらいますが、上位4桁の数字のみを記入しますので、把握されるのは課程・専攻・選修・コースのみです。また、自由回答記述は清書して各教員に通知されますので、筆跡から個人が特定されることはありません。

「学生による授業アンケート調査」は、教員の授業能力を評価するものではありません。出席率が低く不熱心だった学生のアンケートや授業改善に直接かかわりの無い記載は、集計から除外される場合もあります。

授業アンケートの内容(Q10は教員の自由設定)

Q1 シラバスの中で、適切に書かれていた項目を全て選択してください。

Q2 授業の目標に応じた知識や能力が身についた。

Q3 毎回の授業の目標は明確だった。
その理由を具体的に下の欄に記載してください。

Q4 授業の進む速さや内容の量は適切だった。
その理由を具体的に下の欄に記載してください。

Q5 話し方や板書など授業の方法は適切だった。
その理由を具体的に下の欄に記載してください。

Q6 授業理解を助ける工夫となっていたものは何ですか。(複数回答可)
授業に取り入れて欲しい工夫を具体的に下の欄に記載してください。

Q7 教室の広さ、機材、空調設備等に問題はなかった。
あなたが問題だと思った点を具体的に下の欄に記載してください。

Q8 予習・復習・レポート等に充てた時間は、1回の授業に対して、平均してどの程度でしたか。最後の授業が終わるまでの学習時間を含めて回答してください。(教員から指示を受けた課題作成への対応や、リアクションペーパー作成、試験準備等を含む。)

Q9 この授業内容について自ら学習する意欲が高まった。
その理由を具体的に下の欄に記載してください。

Q10(自由設定)

※平成31年度授業アンケート

15 履修基準

初等教育教員養成課程（A類）

科 目 等 選 修		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	英語	学校教育	学校心理	国際教育	情報教育	環境教育	ものづくり技術	幼児教育	
教 養 科 目	総合学芸領域（CA）	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	健康・スポーツ領域（CH）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	
教育基礎科目	教職の意義等（EW）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	教育の基礎理論（EF）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
	教育課程及び指導法に関する科目(ET)	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	18	
	生徒指導及び教育相談（EC）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	教育実習（EP）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	教職実践演習（EE）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	計	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	39	
専 攻 科 目	小学校の教科に関する 専門的事項 (SP) 幼稚園の教科に関する 専門的事項 (SK)		16	16	16	16	18	18	18	16	16	18	18	※16	※16	※16	※16	16
	教科・教職に関する科目	教科・教職に関する科目 （共通SE）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	※3	※3	※3	※3	3
		教科・教職に関する科目 （専攻SE）	4	4	4	4	2	2	2	4	4	2	2	※4	※4	4	4	8
	専攻に関する科目	必修科目（S）	20	10	18	14	22	20	23	12	14	14	18	16	10	14	10	14
		選択科目A（SA）	8	18	10	14	6	8	5	16	14	10	12	18	14	18	18	
		選択科目B（SB）																
	卒業研究（SZ）		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計		55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	63
自 由 選 択		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
合 計		129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	

○「国際教育選修」「情報教育選修」「環境教育選修」「ものづくり技術選修」は、
「小学校の教科に関する**専門的事項**」について、16単位に満たない単位数は必修指定外の「小学校の教科に関する**専門的事項**」、
若しくは専攻SE・共通SEから併せて16単位となるよう科目を履修すること。（上表の※部分） p57参照

中等教育教員養成課程（B類）

科 目 等			専 攻		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭	技術	英語	書道	
教養科目	総合学芸領域（CA）				14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	
	健康・スポーツ領域（CH）				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）				6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	計				22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	
教育基礎科目	教職の意義等（EW）				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	教育の基礎理論（EF）				8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	教育課程及び指導法に関する科目(ET)				14	14	14	14	14	14	14	14	18	14	18	
	生徒指導及び教育相談（EC）				4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	教育実習（EP）				5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	教職実践演習（EE）				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計				35	35	35	35	35	35	35	35	39	35	39	
専 攻 科 目	教科・教職に関する科目	教科・教職に関する科目（共通SE）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		教科・教職に関する科目（専攻SE）	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	専攻に関する科目	必修科目（S）	24	26	36	22	22	34	36	27	31	29	40			
		選択科目A（SA）	28	26	16	30	30	18	16	25	21	23	14			
		選択科目B（SB）														
	卒 業 研 究（SZ）			4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	計			67	67	67	67	67	67	67	67	67	67	67	69	
	自 由 選 択				6	6	6	6	6	6	6	6	2	6	0	
合 計				130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	

○ 技術及び書道は、「教育課程及び指導法に関する科目」について、18単位修得する。

特別支援教育教員養成課程（C類）

コ ー ス 科 目 等 専 攻		小免コース				中免コース			
		聴覚障害教育	言語障害教育	発達障害教育	学習障害教育	聴覚障害教育	言語障害教育	発達障害教育	学習障害教育
教養科目	総合学芸領域（CA）	14	14	14	14	14	14	14	14
	健康・スポーツ領域（CH）	2	2	2	2	2	2	2	2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	22	22	22	22	22	22	22	22
教育基礎科目	教職の意義等（EW）	2	2	2	2	2	2	2	2
	教育の基礎理論（EF）	6	6	6	6	6	6	6	6
	教育課程及び指導法に関する科目（ET）	26	26	26	26	14	14	14	14
	生徒指導及び教育相談（EC）	4	4	4	4	4	4	4	4
	教育実習（EP）	9	9	9	9	9	9	9	9
	教職実践演習（EE）	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	49	49	49	49	37	37	37	37
専 攻 科 目	教科・教職に関する科目	小学校の教科に関する専門的事項（SP）	※ 16	※ 16	※ 16	※ 16			
		教科に関する専門的事項（希望する教科）					20	20	20
		教科・教職に関する科目（共通SE）	※ 3	※ 3	※ 3	※ 3	5	5	5
		教科・教職に関する科目（専攻SE）	※ 4	※ 4	※ 4	※ 4	4	4	4
	専攻に関する科目	共通必修科目（S）	26	26	26	26	26	26	26
		専攻必修科目（S）	12	12	12	12	12	12	12
		選択科目A（SA）	6	6	6	6	6	6	6
	卒業研究（SZ）		4	4	4	4	4	4	4
	計		71	71	71	71	77	77	77
	自由選択		3	3	3	3	6	6	6
合 計			145	145	145	145	142	142	142

○「小学校の教科に関する専門的事項」について、16単位に満たない単位数は必修指定外の「小学校の教科に関する専門的事項」，若しくは専攻SE・共通SEから併せて16単位となるよう科目を履修すること。（上表の※部分） p57参照

養護教育教員養成課程（D類）

科 目 等		専 攻	養護教育
教養科目	総合学芸領域（CA）		14
	健康・スポーツ領域（CH）		2
	語学領域（CL）（英語2＋初習語学4）		6
	計		22
教育基礎科目	教職の意義等（EW）		2
	教育の基礎理論（EF）		8
	教育課程及び指導法に関する科目（ET）		8
	生徒指導及び教育相談（EC）		4
	養護実習（EP）		5
	教職実践演習（EE）		2
	計		29
専 攻 科 目	養護・教職に関する科目（専攻SE）		8
	専攻に関する科目	必修科目（S）	47
		選択科目A（SA）	10
		選択科目B（SB）	
	卒 業 研 究（SZ）		4
	計		69
自 由 選 択			8
合 計			128

16 卒業要件

本学に4年以上在学し、課程ごとに定める履修基準により所定の単位を修得した者について、教授会の議を経て、卒業を認定します。

学校教育系については、更に各課程の卒業要件として、次に掲げる教育職員免許状の取得要件を満たす必要があります。

学校教育系の卒業要件として指定されている教育職員免許状

課 程	専 攻（ 選 修 ）	取 得 を 要 す る 免 許 状
初等教育 教員養成課程	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語, 学校教育, 学校心理, 国際教育, 情報教育, 環境教育, ものづくり技術	小学校教諭一種免許状
	幼児教育	幼稚園教諭一種免許状
中等教育 教員養成課程	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語, 技術, 書道	各専攻教科に対応する中学校教諭及び 高等学校教諭一種免許状 ただし, 社会専攻の高等学校は地理歴史 又は公民のいずれか一種類とする。 技術専攻の高等学校は工業とする。 書道専攻の中学校は国語とする。
特別支援教育 教員養成課程	聴覚障害教育	特別支援学校教諭一種免許状 (聴覚 障害者)(知的障害者) (肢体不自由者)(病弱者)の4領域及び 小学校教諭一種免許状又は 中学校教諭一種免許状のいずれか一種類
	言語障害教育	
	発達障害教育	
	学習障害教育	
養護教育 教員養成課程	養護教育	養護教諭一種免許状

教育職員免許状を取得するには、教育職員免許法第5条に定める基礎資格と単位修得を要するが単位の修得方法については、さらに同法施行規則で細かく規定されている。

17 開設授業科目一覧の見方

1 開設授業科目一覧の見方

開設授業科目記載例

授業科目	単位数	講演実	標準開設学期	免許法上の科目	諸資格	備考
人権教育	2	講	I・II			必修
日本史概論	2	講	I	日本史		
線形数学	④	講	I II			
物理学演習	2	演	III	物理学		
医学概論	2	講	II 奇		社会福祉士 (人体の構造と 機能及び疾病)	

2 「授業科目」欄

授業科目の正式名が記載されている。

3 「単位数」欄

授業を履修し、修得できる単位数が記載されており、「2」は半期（春学期又は秋学期）で2単位修得できることを示し、「④」は通年（1年間）で4単位修得できることを示す。

4 「講演実」欄

授業の形態が記載されており、「講」は講義を、「演」は演習を、「実」は実技、実験又は実習を示す。

5 「標準開設学期」欄

ア「I」は1年春学期を、「II」は1年秋学期を……「VII」は4年春学期を、「VIII」は4年秋学期を示す。

イ「I」は1年春学期に開設することを示す。

ウ「I II」は1年春学期から1年秋学期にかけて通年で開設することを示す。

エ「I・II」は、1年春学期と1年秋学期にそれぞれ開設することを示す。

オ「奇」は、奇数年度に開設されることを示し、「偶」は、偶数年度に開設されることを示す。

カ「集中」は、通常の授業時間枠以外の特定時期に、集中して授業を行う科目であることを示す。

キ **授業科目は標準開設学期において履修することを原則とする。**

6 「免許法上の科目」欄

授業科目が教育職員免許法上、どの科目に該当するかが記載されている。

7 「諸資格」欄

授業科目が諸資格取得上、どの科目に該当するかが記載されている。

8 「備考」欄

授業科目の履修上の注意等が記載されている。

18

教養科目

教 養 科 目

教養科目は、教育や教科の基礎となる概念や学習技術を幅広い視点から学ぶとともに、大学生として、そして社会の中に生きる人間として、必要な教養を身につけるための科目群です。これらは、「総合学芸領域」(CA)、「健康・スポーツ領域」(CH)、「語学領域」(CL)の3つの領域からなり、それぞれの領域において定められた単位を修得しなければなりません。

総合学芸領域 (CA)

4つの分野

「総合学芸領域」は、後述の必修科目のほか、(A)思想・哲学・芸術・文学・言語・人間、(B)社会・生活・文化・歴史、(C)自然科学・環境・情報、その他の4つの科目群(分野と呼びます)から構成されます。履修方法は、37ページの上段に記載されています。

総合学芸領域の科目履修

「総合学芸領域」の科目については、必ず修得しなければならない単位数は14単位(7科目)ですが、みなさんの興味と関心に従って、これ以上の単位を履修し、修得することも可能です。ただし、学校教育系及び教育支援系いずれの場合も、「日本国憲法」(2単位)、「人権教育」(2単位)、「情報」(2単位)は必修科目です。以下に記された分野ごとの解説をよく読み、履修してください。

必修科目

「日本国憲法」

我が国の憲法を学び、法の総体を知ることによって、国家と市民を理解するための科目です。

「人権教育」

人権を学び、他との違いを理解し、その権利を認め合うことを学ぶ科目です。

「情報」

「情報」は、高度情報化社会における技術の発展やそれに伴う社会の変化に対し、主体的に対応できる能力と態度を育成することを目指し、全学共通の基礎科目として設置されました。また、この科目は教育職員免許法上の必修科目「情報機器の操作」に対応し、教員および社会を支える一員として必要な情報機器の操作を題材とした実習中心の授業形態をとります。ただし、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではありません。単なる技能としてではなく、その概念や原理を理解し、正しく情報機器を利用する能力と情報を扱う力(情報活用能力)を育むことを目指します。

分野別科目案内

■(A) 思想・哲学・芸術・文学・言語・人間

思想・哲学・芸術・文学・言語・人間の科目群は、人間という存在の根幹を学術的に問うことに関わります。「人とは何か」「人の知的営為はどんなされるのか」「言語と思考様式はどのように関わるか」「人は何故に美を感じるのか」「文学はどのように世界と関わるのか」等々、みずみずしい感性を持つ学生時代に、これらの科目の履修を通して、自分なりの人間観・世界観を育んでいくことは、その後の人生にとっての深みを与えます。

■（B）社会・生活・文化・歴史

経済活動が地球規模で展開される現在、国際社会の動きと無縁でいられる国はないでしょう。国際化の進展が著しい現在は、多様な言語・社会・文化を有する人間同士の相互理解が何より求められています。多彩で多様な社会や文化を学び、理解することは、それを作り出した人間の多様性を発見することであると同時に、共通の世界観・人生観、生きる喜びを発見することでもあります。また、学校の安全や、女性の保健、身体と栄養、生活習慣病、心の健康など身の回りの生活に必要な知識についても学ぶことができます。

社会・生活・文化・歴史分野の科目群をきっかけに、問題意識を高め、今後の方策について知見を深めていきましょう。

■（C）自然科学・環境・情報

（自然科学）

みなさんは子どものころ、身の回りの不思議なこと、奇妙なものに興味をもったことでしょう。それを解明するのが自然科学であり、得られた知識を生活に生かすのが科学技術です。

自然科学にはいろいろな学問分野があります。そのうちのいくつかの分野についてどのような研究がなされ、現在どのようなことが分かっているかについて、わかりやすく講義します。自然系の科目を学ぶことによって、自然科学がみなさんの生活やものの見方・考え方と深くかかわっていること、また、それらは生活に必要な知恵や能力を与えること、さらに21世紀を切り開くみなさんの世界観・生き方や判断・意志決定にかかわっていることを学ぶことができます。

（環境）

世界規模での人口の増加と産業社会の拡大は、快適で利便性の高い生活の実現と引換えに、生態系の破壊や地球の温暖化など、人間と動植物の生存する地球環境に極めて大きな負荷を与えています。生活環境が悪化し資源が枯渇してしまえば、快適生活のための開発も成り立ちません。将来にわたって環境と資源を守りながら開発を進めて行く「持続可能な開発」（sustainable development）のあり方を探ることが喫緊の課題となっています。

そうした環境問題に対処する最も有効な方法のひとつが環境教育です。環境に関する知識とその教育方法は、近年、教師としての基礎的能力と言われています。また、環境教育は、学際的な研究方法と直接体験的な学習方法を特色とした、まったく新しい統合的な学問領域です。東京学芸大学は、そうした環境教育の研究・実践を最先端で切り開いています。授業では、スライド・ビデオ・パソコンなど視聴覚メディアのほか、環境教育実践施設などの身近なフィールドでの実物教材、ディベート・ワークショップ・ロールプレイなどを活用します。

（情報）

現代は高度情報化社会と言われています。社会のあらゆる分野、さらに家庭までもさまざまな情報機器が入り込み、それらが日常生活にとって必須の道具になっています。代表的な情報機器はコンピュータですが、いまや、コンピュータは原義である「計算機」であるだけでなく、マルチメディア情報機器として、文字・音声・静止画・動画などを迅速・大量に処理・伝達できる道具に成長しています。さらに、インターネットの普及により、世界中のコンピュータがネットワークでつながり、ウェブやEメールを媒介として、様々な情報の伝達・検索や物品・サービスの売買・取引が日常的に行われるようになりました。教員にとっても、情報処理は必須の基礎的能力・技能です。

情報分野の科目群では、さまざまな学問を修めるために必要な「情報」および「情報処理」の知識と技術を学びます。

■その他

本学の学校教育系の学生と教育支援系の学生が共修する後期教養科目としての科目です。

学芸フロンティア科目

物事に対する多面的な理解と総合的な洞察力ならびに現代社会の諸課題を総合的に判断し対処しうる能力の養成のために、「学芸フロンティア科目」が設置されています。社会で幅広く活動され、実績・経験の豊富なゲストスピーカーに21世紀における大学のあり方・教育のあり方について語っていただく科目や、代表的な日本文化の一つを実践的に学ぶことによって21世紀のグローバル社会で活躍するための文化的奥行きを広げる科目などが開設されます。

外国人留学生短期プログラム科目（英語による授業について）

本学では、留学生のために英語による「外国人留学生短期プログラム科目」（短プロ）が開設されていますが、その中のいくつかの授業が「総合学芸領域」に組み入れられて、日本人学生にも正規の科目として履修できるようになっています。さまざまな国からの留学生が履修していますので、留学生との交流に関心ある方や、将来留学を希望している方は異文化交流の場として、これらの授業を積極的に活用してください。

健康・スポーツ領域（CH）

「健康・スポーツ領域」とは

健康・スポーツ領域は、知性、感性、身体性の統合的な教育によって教養を深めようとする「共通科目」の理念を実現するために設けられました。「健康・スポーツ領域」の授業を履修することによって、身体にかかわる教養と技能を身につけ、現在の大学生生活の充実を図ることができます。この身体的教養と技能とは、次のようなことを意味しています。

- ・スポーツ文化に対する深い認識
- ・生活の場で積極的に運動やスポーツに取り組む態度
- ・良好な人間関係を作り出す能力
- ・大学生として必要な自己健康管理能力
- ・生涯にわたる健康づくりや管理に関する知識と技能

このような教養や技能を培うことによって有為な社会人、さらに教育者・指導者として基礎的な素養を身につけることをこの領域の大きなねらいとしています。

「健康・スポーツ領域」のねらいと性格

基礎的な「生涯スポーツ」の理論と実践の場を提供する授業です。これらの授業を通じて、基礎的な体力の向上や運動・スポーツ技術の学習、また体力科学を中心とした幅広いスポーツ、身体についての基礎知識を身につけることを主な目的としています。

このため、これらの授業は学校教育系の学生だけではなく、教育支援系の学生に対しても必修として位置づけられています。教員免許の取得希望の有無にかかわらず、全学生は必ず指定された学期にこれらの科目を履修してください。このコースは履修学生の定員と施設を考慮して開設してありますので、やむを得ず再履修をしなければいけない学生を除いて、指定された学期以外での履修はできません。

このコースには原則として実技である「スポーツ・フィットネス実習」、理論である「ウェルネス概論」がそれぞれ開設されています。

「スポーツ・フィットネス実習」

「スポーツ・フィットネス実習」は、半期の定期コース（4～5種目）と集中コース（8コース）から構成されています。クラスに指定された標準的な科目の中から、自分の希望する内容の実習を自由に選択することができます。（受講希望者の人数によっては調整することもあります。）

受講希望の抽選は最初のオリエンテーション時に行いますので、必ず出席してください。

身体に何らかの障害がある場合や、病気や怪我のため、「スポーツ・フィットネス実習」を他の学生と同じプログラムに参加が困難な学生には、特別に「個別プログラム」を用意しています。

「ウェルネス概論」

「ウェルネス概論」では、「ウェルネス」という考え方、すなわち「各人がそのライフスタイルを自己変容することにより効率的で、生産性の高い生活を営むことを不断に目指すこと」を理論的に理解し、実践できることをねらいとしています。具体的には、個人のライフスタイルに影響を与える構成要素である運動、食生活、休養、ストレス等とライフスタイルとの関係を明らかにするとともに、健全なライフスタイルの形成に向けて身体的、知的、情緒的、精神的、社会的な側面で積極的に取り組むための方法や知識の講義が行われます。

「ウェルネス概論」においても「スポーツ・フィットネス実習」同様に、指定された時間枠内で異なった内容の講義が開講されていますので、自分の希望に合った内容の講義を選択し履修します。「スポーツ・フィットネス実習」とは異なり全体でのオリエンテーションは行いませんので、直接希望する教室に最初の授業から参加してください。

語学領域（CL）

必修科目

英語コミュニケーション

「英語コミュニケーションA」

「英文を音読して、訳して終わり」では本当に英語を使ったことにはなりません。この科目では英語で読んだり聞いたりして得た情報について簡単な英語で口頭発表できるようになることを目指します。コミュニケーションの重要性が叫ばれる昨今ですが、まず英語で情報を得ることが大切です。いきなり英語で口頭発表となると日本語から訳してしまいがちです。情報を得たら、それをまとめて英語で発表、簡単なスピーチをすることが大切です。

「英語コミュニケーションB」

この科目では英語で得た情報をもとにクラスメートとの意見の交換を行えるようにします。まず英語で情報を得ることで始まる点は「英語コミュニケーションA」と変わりませんが、この科目では、一方的に口頭発表するだけではなく、クラスメートの発表を聞いてどう思うかなどの意見交換をします。

初習語学

今日の多言語多文化社会において、世界のさまざまな国の人々と互いに理解し合うためには、「ことば」がとても重要なアイテムとなります。また、いろいろな国から来られた多くの留学生も本学で学んでいます。本学では、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語教育にも力を入れています。皆さんは、初めて学ぶ英語以外の外国語（初習語学）として、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、イタリア語、スペイン語を1年次で履修することができます。「ことば」の力を大いに活用して、大学生活、研究活動、そして就職へとつなげていくことを期待します。

履修は、別々の言語を4単位組み合わせることはできません。ただし、A・B類理科の学生に限り専門基礎外国語2単位を以って、「〇〇語基礎Ⅲ」「〇〇語基礎Ⅳ」の2単位に替えることができます。

「〇〇語基礎Ⅰ」

主に発音から学び、初級文法や簡単な会話を学びます。

「〇〇語基礎Ⅱ」

「聞く・話す・読む・書く」ための基礎的な力を総合的に養います。

「〇〇語基礎Ⅲ」

基礎Ⅰ・基礎Ⅱをベースとして、中級レベルの文法や会話などを学びます。

「〇〇語基礎Ⅳ」

「聞く・話す・読む・書く」ための総合的なレベルアップを行います。

専門基礎外国語

専門基礎外国語には、理科関係の専門基礎英語として4種類8科目を開設しています。必ずセットで履修してください。

これらの科目は、A・B類理科の学生に限り初習語学の「〇〇語基礎Ⅲ・Ⅳ」2単位の代わりに履修することができます。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ■1：理科専門基礎英語AⅠ・AⅡ | 物理学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■2：理科専門基礎英語BⅠ・BⅡ | 化学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■3：理科専門基礎英語CⅠ・CⅡ | 生物学の専門領域に関わる英語の基礎 |
| ■4：理科専門基礎英語DⅠ・DⅡ | 地学の専門領域に関わる英語の基礎 |

選択科目

英語

■トピック別科目

「メディア英語A・B」

新聞、ニュース誌、テレビ、インターネット、テレビドラマ、映画などを用いて、メディアで使われる英語表現を習得します。

■技能別科目

「英語リーディングA・B」

さまざまな題材を用い、英語リーディング能力を養います。

「英語リスニング&スピーキングA・B」

リスニング、スピーキングを中心に、英語の実践的コミュニケーション能力を養います。

「上級英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」

ディベートを含むオーラルコミュニケーション能力を高めます。

「上級英語ライティングⅠ・Ⅱ」

高度な英語の文章や英語の論文を書く訓練を行います。

■集中演習

「英語集中演習A・B・C」

文法や和訳はさんざん学んだけれど、英語を実際にある期間集中して使ってみる機会がない、使ってみたくてうずうずしている。そんな人いますよね。そういう人たちに最適なのがこの科目です。1年分の演習を夏や秋の休暇中、1週間から10日間集中して行います。授業は少人数制で、内容は、英語の歌あり、ゲームあり、ディベート、ディスカッションあり、と盛りだくさんです。集中的に英語にどっぷり浸って、いつの間にか英語に慣れてしまいましょう。文法や発音の間違いなんか気にする必要はちっともありません。言いたいことを片言の英語でいいから相手に伝えましょう。このコースの後には充実した達成感と心地よい疲労感があるはずです。「英語集中演習A」は上級レベル、「英語集中演習B・C」は中級レベルです。

選択外国語

初習語学を履修したのち、語学力のブラッシュアップのために、2年次に以下の科目を履修することができます。ただし、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のみの開設となりますので、ご注意ください。

■ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語

「〇〇語コミュニケーションAⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ」

日常的な会話や表現を学びます。

「〇〇語表現」

高度な会話能力や表現能力を養います。

「〇〇語プレゼンテーション」

高度なプレゼンテーション能力を養います。

○語学技能検定に関する単位の認定について

大学以外の教育施設等における学修において一定以上の級・スコアを有している者は、**所定の手続き（単位認定申請）**により、本学の授業科目の単位として認定する事ができる。

申請希望者は、下記の申請期間内に、学務課に申請書類を提出してください。

申請期間： 春学期 4月1日～ 4月末日
秋学期 10月1日～ 10月末日

【注意事項】

- ・申請期間は掲示で周知します。期限を過ぎたものは一切受付けませんので注意してください。
- ・休学期間中は、申請および認定を受けることはできません。

申請書類： ① 大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定申請書（大学所定書式。申請者本人及び指導教員の署名・押印が必要です。）
② 該当する学修についての証明書の写し（合格通知書等では受け付けられません。）

大学以外の教育施設等における学修の種類及び級・資格等			履修したとみなす授業科目 及び認定する単位数
実用英語技能検定（（公財）日本英語検定協会）		2級以上	以下科目の2単位まで ・英語コミュニケーションA ・英語コミュニケーションB
TOEFL (Educational Testing Service)	Paper-Based Test	480点以上	
	Computer-Based Test	157点以上	
	Internet-Based Test	54点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	600点以上	
IELTS		5.0以上	以下科目の2単位まで ・英語コミュニケーションA ・英語コミュニケーションB 及び以下科目の2単位まで ・メディア英語A ・メディア英語B ・英語リーディングA ・英語リーディングB ・英語リスニング & スピーキング A ・英語リスニング & スピーキング B ・英語集中演習A ・英語集中演習B ・英語集中演習C ・上級英語コミュニケーションⅠ ・上級英語コミュニケーションⅡ ・上級英語ライティングⅠ ・上級英語ライティングⅡ の合計4単位まで
実用英語技能検定（（公財）日本英語検定協会）		準1級 1次試験 合格以上	
TOEFL (Educational Testing Service)	Internet-Based Test (IBT)	80点以上	
TOEIC (Educational Testing Service)	Listening & Reading Test	730点以上	
IELTS		6.0以上	

漢語水平考試 (HSK) ((一社)日本青少年育成協会 HSK日本実施委員会)	5級 (195点) 以上	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
中国語検定 (一財)日本中国語検定協会)	2級以上	
韓国語能力試験 ((公財)韓国教育財団)	TOPIKⅠ (初級)の 2級以上	コリア語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
ハングル能力検定試験 (NPO法人ハングル能力検定協会)	4級以上	
ドイツ語技能検定試験 ((公財)ドイツ語学文学振興会)	2級以上	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
実用フランス語技能検定試験 ((公財)フランス語教育振興協会)	2級以上	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 4単位まで
DELF : Diplôme d' Etudes en Langue Française (フランス国民教育省フランス語学力資格試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	B1以上	
TEF : Test d' Evaluation de Français (パリ商工会議所フランス語能力認定試験) (株) 日仏文化協会)	レベル3 以上	
TCF : Test de Connaissance du Français (フランス国民教育省フランス語学力試験) (アンスティチュ・フランセ日本)	レベル3 以上	

18 教養科目

教養科目は、各領域で定められた修得単位数を含め、合計で学校教育系、教育支援系共に22単位以上を履修する。

① 総合学芸領域(CA)

- ①下記の授業科目から、**日本国憲法2単位、人権教育2単位、情報2単位の計6単位**を含め、更に(A)～(C)までの各分野2単位、計6単位を含めて**14単位以上**修得する。
- ②留学生は、全ての総合学芸領域から、**日本国憲法2単位、人権教育2単位、情報2単位の計6単位**を含めて**14単位以上**修得する。
- ③外国人留学生短期プログラム科目(短プロ)は、英語で授業が行われる。

(総合学芸領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	分野等	履修区分
日 本 国 憲 法	2	講	I・II	日 本 国 憲 法		必修
人 権 教 育	2	講	I・II			必修
情 報	2	講演	I	情 報 機 器 の 操 作		必修
Cultural Social Psychology of the Japanese	2	講	I		短プロ	
Theatre Workshop	2	演	I		短プロ	
Introduction to Psychophysiology	2	講演	I		短プロ	
Exploring the Cultural Diversity of Japan I	2	演	I		短プロ	
Exploring the Cultural Diversity of Japan II	2	演	II		短プロ	
Global Japan Studies A	2	演	I		短プロ	
Global Japan Studies B	2	演	II		短プロ	
Traditional Performing Arts of Japan	2	講演	II		短プロ	
音 楽 と 文 化	2	講	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
第 九 を 歌 お う	2	演	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
第 九 を 奏 で よ う (管 弦 楽)	2	演	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ク ラ シ ッ ク 音 楽 鑑 賞 I	2	講	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ク ラ シ ッ ク 音 楽 鑑 賞 II	2	講	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
現 代 社 会 と 日 本 語	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ワ ー ク シ ョ ッ プ の 技 法	2	演	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 I	2	演	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 II	2	演	III		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
イ ン ド 哲 学 入 門	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
発 達 と 障 害 の 心 理 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
発 達 と 障 害 の 心 理 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 の 科 学	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 と 健 康	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
心 と 社 会	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
近 代 文 学 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
近 代 文 学 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
古 典 文 学 A	2	講	I		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
古 典 文 学 B	2	講	II		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
視 覚 芸 術 と 社 会 教 育	2	演	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
書 写 指 導 と 板 書 の 書 法	2	演 実	IV		(A) 思想・哲学・芸術・ 文学・言語・人間	
ヨ ー ロ ッ パ の 人 と 暮 ら し	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
欧 米 の 政 治 と 社 会	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
歴 史 と 社 会 ・ 文 化	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
地 域 ・ 文 化 ・ 環 境 か ら 読 む 世 界	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
市 民 社 会 と 法	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 の 経 済	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 社 会 の 諸 問 題	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
イスラームの社会と文化	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
民 俗 文 化	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
現 代 の 企 業	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
コ マ ー シ ャ ル を 考 え る	2	演	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ジェンダーと日本社会	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
生 活 文 化	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
中 国 文 化	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
日 本 の 文 化 と 社 会	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
文化財の保存・修復の歴史と現状	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ボ ラ ン テ ィ ア と N P O ・ N G O	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 文 化 共 生 を 考 え る	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 A	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 B	2	講	III		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 C	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
多 言 語 多 文 化 D	2	講	IV		(B) 社会・生活・文化・歴史	
中 国 古 典	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
日 本 語 学	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
学 校 の 安 全 と 環 境	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
女 性 の た め の 保 健 概 論	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
心 の 健 康 と ス ト レ ス 管 理	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
生活習慣病予防と運動・スポーツ	2	講	I		(B) 社会・生活・文化・歴史	
ウエイトコントロールと栄養	2	講	II		(B) 社会・生活・文化・歴史	
入 門 物 理 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 化 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 生 物 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
入 門 地 学	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
学 校 園 の 基 礎 と 展 開	2	講	III		(C) 自然科学・環境・情報	
現 代 物 理 学 の 基 礎	2	講	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
生 物 学 へ の い ざ な い	2	講	IV (集中)		(C) 自然科学・環境・情報	
身 近 な 現 象 と 化 学	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
宇 宙 と 地 球 と 人 間	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・ネットワーク	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・アート	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
コンピュータ・プログラミング	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
メディアリテラシー	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
I T を 活 用 し た 授 業 づ く り	2	演	III・IV		(C) 自然科学・環境・情報	
W e b コ ン ピ ュ ー テ ィ ン グ	2	演	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
W e b パ ブ リ ッ シ ン グ	2	演	II		(C) 自然科学・環境・情報	
教 師 ・ 教 育 支 援 者 の た め の 情 報 セ キ ュ リ テ ィ	2	演	IV		(C) 自然科学・環境・情報	
科 学 技 術 と 環 境	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
教 師 ・ 教 育 支 援 者 の た め の 紙 面 ・ 映 像 編 集	2	演	III		(C) 自然科学・環境・情報	
気 候 変 動 と 社 会	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
自 然 と 数 理 A	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
自 然 と 数 理 B	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
数 理 の 世 界 A	2	講	I		(C) 自然科学・環境・情報	
数 理 の 世 界 B	2	講	II		(C) 自然科学・環境・情報	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 A	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 B	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 C	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 D	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 E	2	講	I (集中)		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 F	2	講	I		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 G	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 H	2	講	II		その他	
学 芸 フ ロ ン テ ィ ア 科 目 I	2	講	II		その他	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	分 野 等	履 修 区 分
多 文 化 共 修 科 目 A	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 B	2	演	II		その他	
多 文 化 共 修 科 目 C	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 D	2	演	II		その他	
多 文 化 共 修 科 目 E	2	演	I		その他	
多 文 化 共 修 科 目 F	2	演	II		その他	
教 育 コ ラ ボ レ ー シ ョ ン 演 習	2	演	V (集中)		その他	
教 育 ネ ッ ト ワ ー ク 演 習	2	演	III (集中)		その他	
教 育 マ ネ ジ メ ン ト 演 習	2	演	IV (集中)		その他	

② 健康・スポーツ領域(CH)

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(健康・スポーツ領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目		履 修 区 分
ス ポ ー ツ ・ フ ィ ッ ト ネ ス 実 習	1	実	I・II	体	育	必修
ウ ェ ル ネ ス 概 論	1	講	II	体	育	必修

③ 語学領域(CL)

「英語コミュニケーションA・B」の2単位及び初習語学「〇〇語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(同一言語)の4単位の計6単位を必ず修得する。

留学生は、留学生対象科目を含めたすべての語学領域から「英語コミュニケーションA・B」の2単位を含め6単位以上を修得する。

留学生対象科目は留学生のみが履修できる。なお、日本語を母語としない留学生は、初習語学(〇〇語基礎)の履修について、自身にとっての「外国語」に限るものとし、自身の母語及び自身が受けてきた高等学校までの学校教育における教授言語を履修することは認めない。

(語学領域)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	履修区分
英 語 コミュニケーション A	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外 国 語 コミュニケーション	必修
英 語 コミュニケーション B	1	演	Ⅰ・Ⅱ	外 国 語 コミュニケーション	必修
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
ド イ ツ 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
フ ラ ン ス 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
中 国 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
コ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
イ タ リ ア 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅰ	1	演	Ⅰ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅱ	1	演	Ⅱ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅲ	1	演	Ⅲ		初習語学
ス ペ イ ン 語 基 礎 Ⅳ	1	演	Ⅳ		初習語学

(専門基礎外国語)

A・B類理科の学生に限り、専門基礎外国語①～④(1単位+1単位)を初習語学「〇〇語基礎Ⅲ・Ⅳ」の2単位に替えることができる。

	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
①	理 科 専 門 基 礎 英 語 A Ⅰ	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 A Ⅱ	1	演	Ⅳ		専門基礎
②	理 科 専 門 基 礎 英 語 B Ⅰ	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 B Ⅱ	1	演	Ⅳ		専門基礎
③	理 科 専 門 基 礎 英 語 C Ⅰ	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 C Ⅱ	1	演	Ⅳ		専門基礎
④	理 科 専 門 基 礎 英 語 D Ⅰ	1	演	Ⅲ		専門基礎
	理 科 専 門 基 礎 英 語 D Ⅱ	1	演	Ⅳ		専門基礎

(選択外国語)

	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	履 修 区 分
	メ デ ィ ア 英 語 A	1	演	I		選択
	メ デ ィ ア 英 語 B	1	演	Ⅱ		選択
	英 語 リ ー デ ィ ン グ A	1	演	I		選択
	英 語 リ ー デ ィ ン グ B	1	演	Ⅱ		選択
	英語リスニング&スピーキングA	1	演	I		選択
	英語リスニング&スピーキングB	1	演	Ⅱ		選択
	上級英語コミュニケーションⅠ	1	演	Ⅲ		選択
	上級英語コミュニケーションⅡ	1	演	Ⅳ		選択
	上級英語ライティングⅠ	1	演	Ⅲ		選択
	上級英語ライティングⅡ	1	演	Ⅳ		選択
	英 語 集 中 演 習 A	2	演	I (集中)		選択
	英 語 集 中 演 習 B	2	演	I (集中)		選択
	英 語 集 中 演 習 C	2	演	I (集中)		選択

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	履修区分
ドイツ語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
ドイツ語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
ド イ ツ 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
ドイツ語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
フランス語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
フランス語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
フランス語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
フランス語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
フ ラ ン ス 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
フランス語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
中国語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
中国語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
中国語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
中国語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
中 国 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
中国語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択
コリア語コミュニケーションAⅠ	1	演	Ⅲ奇		選択
コリア語コミュニケーションAⅡ	1	演	Ⅳ奇		選択
コリア語コミュニケーションBⅠ	1	演	Ⅲ偶		選択
コリア語コミュニケーションBⅡ	1	演	Ⅳ偶		選択
コ リ ア 語 表 現	1	演	Ⅳ		選択
コリア語プレゼンテーション	1	演	Ⅲ		選択

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	履修区分
日 本 語 表 現 法 A (ラ イ テ ィ ン グ Ⅰ)	1	演	Ⅰ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 B (ラ イ テ ィ ン グ Ⅱ)	1	演	Ⅱ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 C (口 頭 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ)	1	演	Ⅲ		留学生対象科目
日 本 語 表 現 法 D (口 頭 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ)	1	演	Ⅳ		留学生対象科目

教育基礎科目

- ①教職の意義等
- ②教育の基礎理論
- ③教育課程及び指導法に関する科目
- ④生徒指導及び教育相談
- ⑤教職実践演習
- ⑥教職に関する科目〔選択〕
- ⑦教育実習・養護実習

19 教育基礎科目

① 教職の意義等(EW)

下記の授業科目は必修なので、A・B・C・D類の学生は2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 職 入 門	2	講	Ⅱ	教職・意義	A・B・C・D類

② 教育の基礎理論(EF)

下記の授業科目は必修なので、A・B・D類の学生は8単位、C類の学生は6単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
教 育 の 理 念 と 歴 史	2	講	I・Ⅱ	教職・理念	学校司書	A・B・C・D類
教 育 組 織 論	2	講	I・Ⅱ	教職・制度	スクール(学校)ソーシャルワーカー	A・B・C・D類
教 育 心 理 学	2	講	Ⅲ	教職・発達	学校司書	A・B・C・D類
特 別 支 援 教 育 の 理 解	2	講	I・Ⅱ	教職・発達	学校司書	A・B・D類

③ 教育課程及び指導法に関する科目(ET)

a 道徳の指導法

A類(幼児教育を除く)・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
道 徳 教 育 の 指 導 法	2	講	Ⅲ・Ⅳ	道徳の指導法	

b 特別活動の指導法、総合的な学習の時間の指導法

A類(幼児教育を除く)・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	講	V・Ⅵ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	

c 教育の方法及び技術

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、対象により2～4単位を必ず修得する。(A類2単位、B類2単位、C類2単位、D類4単位)

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
初 等 教 育 の 内 容 と 方 法	2	講	Ⅳ	教職・課程	学校司書	A類・C小免コース ・D類
中 等 教 育 の 内 容 と 方 法	2	講	Ⅳ	教職・課程	学校司書	B類・C中免コース ・D類

d 小学校各教科指導法

A類(幼児教育を除く)・C類小免コース対象

下記の授業科目から、10教科20単位を修得する。

自教科生はⅢ又はⅣ期開設の授業科目を、他教科生(B類生を含む)はⅣ・Ⅴ及びⅥ期開設の授業科目を履修すること。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
初 等 国 語 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類国語
初 等 社 会 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類社会
初 等 算 数 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類数学
初 等 理 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類理科・環境
初 等 音 楽 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類音楽
初 等 図 画 工 作 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類美術
初 等 体 育 科 教 育 法	2	講	Ⅳ	教職・指導法	A類保健体育
初 等 家 庭 科 教 育 法	2	講	Ⅲ	教職・指導法	A類家庭
初 等 英 語 科 教 育 法	2	講演	Ⅲ	教職・指導法	A類英語
初 等 国 語 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 社 会 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 算 数 科 教 育 法	2	講	Ⅴ・Ⅵ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 理 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 音 楽 科 教 育 法	2	講	Ⅴ・Ⅵ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 図 画 工 作 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 体 育 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 家 庭 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 英 語 科 教 育 法	2	講演	Ⅲ・Ⅳ	教職・指導法	他教科・B類
初 等 生 活 科 教 育 法	2	講	Ⅳ・Ⅴ	教職・指導法	他教科・B類

e 中学校各教科指導法

B類・C類中免コース対象

下記の授業科目は必修なので、専攻教科と同一教科の教育法について8単位を必ず修得する。

社会科は、中等社会科教育法Ⅰ・Ⅱ(4単位)を必修とし、地理歴史科又は公民科のどちらかの教育法Ⅰ・Ⅱ(4単位)の計8単位を修得する。

技術科は、中等技術科教育法8単位及び工業科教育法4単位の計12単位を修得する。

書道科は、中等国語科教育法8単位及び書道科教育法4単位の計12単位を修得する。

なお、「保健」、「工芸」の免許取得を希望する場合は、必ず各々の教科の教育法を修得する必要がある。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅱ	2	講	Ⅳ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅲ	2	講	Ⅴ	教職・指導法	国語・書道
中 等 国 語 科 教 育 法 Ⅳ	2	講	Ⅵ	教職・指導法	国語・書道

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
中 等 社 会 科 教 育 法 I	2	講	Ⅳ	教職・指導法	社会
中 等 社 会 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	社会
中等社会科・地理歴史科教育法 I	2	講	V	教職・指導法	社会(地歴)
中等社会科・地理歴史科教育法 II	2	講	Ⅵ	教職・指導法	社会(地歴)
中等社会科・公民科教育法 I	2	講	V	教職・指導法	社会(公民)
中等社会科・公民科教育法 II	2	講	Ⅵ	教職・指導法	社会(公民)
中 等 数 学 科 教 育 法 I	2	講	Ⅲ	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 II	2	講	Ⅳ	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	数学
中 等 数 学 科 教 育 法 IV	2	講	Ⅵ	教職・指導法	数学
中 等 理 科 教 育 法 I	2	講	Ⅳ	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 III	2	講	Ⅵ	教職・指導法	理科
中 等 理 科 教 育 法 IV	2	講	Ⅵ	教職・指導法	理科
中 等 音 楽 科 教 育 法 I	2	講	I	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 II	2	講	Ⅱ	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 III	2	講	Ⅲ	教職・指導法	音楽
中 等 音 楽 科 教 育 法 IV	2	演	Ⅳ	教職・指導法	音楽
中 等 美 術 科 教 育 法 I	2	講	Ⅲ	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 II	2	講	Ⅳ	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	美術
中 等 美 術 科 教 育 法 IV	2	演	Ⅵ	教職・指導法	美術
中 等 工 芸 科 教 育 法 I	2	講	Ⅲ	教職・指導法	工芸
中 等 工 芸 科 教 育 法 II	2	講	Ⅳ	教職・指導法	工芸
中 等 保 健 体 育 科 教 育 法 I	2	講	Ⅲ	教職・指導法	保健体育
中 等 保 健 体 育 科 教 育 法 II	2	講	Ⅳ	教職・指導法	保健体育
中 等 保 健 体 育 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	保健体育
中 等 保 健 体 育 科 教 育 法 IV	2	講	Ⅳ	教職・指導法	保健体育
中 等 保 健 科 教 育 法 I	2	講	Ⅳ	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 II	2	講	V	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 III	2	講	Ⅵ	教職・指導法	保健
中 等 保 健 科 教 育 法 IV	2	講	Ⅶ	教職・指導法	保健
中 等 家 庭 科 教 育 法 I	2	講	Ⅲ	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 II	2	講	Ⅳ	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	家庭
中 等 家 庭 科 教 育 法 IV	2	講	Ⅵ	教職・指導法	家庭
中 等 技 術 科 教 育 法 I	2	講	I	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 II	2	演	Ⅱ	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 III	2	講	Ⅲ	教職・指導法	技術
中 等 技 術 科 教 育 法 IV	2	演	Ⅳ	教職・指導法	技術

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
工 業 科 教 育 法 I	2	講	V	教職・指導法	工業
工 業 科 教 育 法 II	2	講	VI	教職・指導法	工業
中 等 英 語 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 III	2	講	V	教職・指導法	英語
中 等 英 語 科 教 育 法 IV	2	講	VI	教職・指導法	英語
書 道 科 教 育 法 I	2	講	III	教職・指導法	書道
書 道 科 教 育 法 II	2	講	IV	教職・指導法	書道

f 幼稚園教育課程及び保育内容の指導法

A類幼児教育選修対象

下記の授業科目は必修なので、16単位を必ず修得する。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 育 ・ 幼 児 教 育 課 程 総 論	2	講	V	教職・課程	幼稚園
保 育 内 容 「 健 康 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 環 境 」	2	演	II	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 人 間 関 係 」	2	演	IV	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 言 葉 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 A 」	2	演	V	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 B 」	2	演	III	教職・保育	幼稚園
保 育 内 容 「 表 現 C 」	2	演	V	教職・保育	幼稚園

④ 生徒指導及び教育相談(EC)

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。(幼児教育選修は授業科目が異なるので注意すること。)

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 相 談 の 理 論 と 方 法	2	講	V・VI	教職・相談	全選修 ・専攻
生徒指導・進路指導の理論と方法	2	講	V・VI	教職・生徒 教職・進路	全選修・専攻 (A類幼除く)
幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	2	演	III	教職・生徒	A類幼対象

⑤ 教職実践演習(EE)

A類・B類・C類・D類対象

下記の授業科目は必修なので、2単位を必ず修得する。

(教育基礎科目)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)	2	演	VIII	教職実践演習	A類幼
教 職 実 践 演 習 (小 ・ 中 ・ 高)	2	演	VIII	教職実践演習	全選修・専攻 (A類幼・D養護除く)
教 職 実 践 演 習 (養 護 教 諭)	2	演	VIII	教職実践演習	D養護

【注意】

「教職実践演習」は、本学の教員養成の仕上げをする科目として位置付くものです。大学での4年間の学修を通して、教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、教員生活を円滑に始められるようにすることをねらいとしています。そのため、学校現場を実際に想定した授業内容で、学生自身の教員としての知識技能の到達点と課題を履修カルテやポートフォリオで具体的・明示的に確認します。

なお、1年次(秋学期)開設の「教職入門」は、この科目につながる重要な授業科目です。

履修にあたっては受講条件があります。(p.10 参照)

⑥ 教職に関する科目〔選択〕

下記の授業科目から、必要な科目を選択履修する。(自由選択として履修します。)

(教育基礎科目:選択)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
教 職 コミュニケーション論	2	講	VII (集中)			次世代学校リーダー 養成コース指定科目
グ ロー バ ル 教 育 演 習 (タイ)	2	講演	IV (集中)			
グ ロー バ ル 教 育 演 習 (香 港)	2	講演	VI (集中)			
教 職 教 養 (法 規 ・ 時 事)	2	講	VI			
学 校 イン タ ー ン シ ッ プ A	2	実	III・IV			
学 校 イン タ ー ン シ ッ プ B	2	実	III・IV			
総 合 イン タ ー ン シ ッ プ A	2	実	III・IV			
総 合 イン タ ー ン シ ッ プ B	2	実	III・IV			
学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	講	V		司書教諭 学校司書	
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成	2	講	V		司書教諭	
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	講	VI		司書教諭 学校司書	
読 書 と 豊 かな 人 間 性	2	講	V		司書教諭 学校司書	
情 報 メ デ ィ ア の 活 用	2	講	VI		司書教諭	
初等社会科の教科内容構成と指導法(歴史)	2	講演	IV			
高校歴史教育における教科内容構成	2	講演	IV			

※「学校インターンシップA・B」及び「総合インターンシップA・B」については、併せて4単位まで卒業単位として認定する。

⑦ 教育実習・養護実習(EP)

下記の表により、該当する課程(専攻・選修)に必要な教育実習の単位を修得する。

対 象		授 業 科 目	総合 単位	授 業 内 容	期間	単 位 数	講 演 実	開設 学期
学校 教育系 卒業要件 (主免許)	A類(小学校各選修)	小学校教育実習(A)	5	事前・事後の指導(A)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(A:附属小学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	A類(幼児教育選修)	幼稚園教育実習	5	事前・事後の指導(幼)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(A:附属幼稚園での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	B類(各専攻)	中学校教育実習(B)	5	事前・事後の指導(B)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (B:附属中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
	C類(小免コース)	小学校教育実習(C)	5	事前・事後の指導(C小)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ(C:附属小学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
		特別支援学校 教育実習(C)	4	事前・事後の指導(C特)	—	1	演	V
				特別支援学校実習 (C:特別支援・ろう学校での教育実習)	3週間	3	実	Ⅵ・Ⅶ
	C類(中免コース)	中学校教育実習(C)	5	事前・事後の指導(C中)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (C:附属中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間 相当	4	実	V
		特別支援学校 教育実習(C)	4	事前・事後の指導(C特)	—	1	演	V
				特別支援学校実習 (C:特別支援・ろう学校での教育実習)	3週間	3	実	Ⅵ・Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	養護実習	5	事前・事後の指導(D養)	—	1	演	V
				教育実地研究Ⅰ (D養:附属小・中・高・中等教育学校での養護実習)	3週間 相当	4	実	V
学校 教育系 副免許 等取得 希望者	B類・C類(中免コース)	小学校教育実習(Z)	2	附属小学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅵ
	A類・C類(小免コース)	中学校教育実習(Z)	2	附属中・高・中等教育学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅶ
	A類・B類	特別支援学校 教育実習(Z)	3	事前・事後の指導(Z特)	—	1	演	Ⅶ
				特別支援学校での教育実習	2週間	2	実	Ⅶ・Ⅷ
	D類	中学校教育実習(D)	5	事前・事後の指導(D中)	—	1	演	Ⅶ
協力中・高・中等教育学校での教育実習				3週間 相当	4	実	Ⅶ・Ⅷ	
選択科目	A類(小学校各選修)	教育実地研究Ⅱ	2	(A:協力小学校での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	A類(幼児教育選修)	教育実地研究Ⅱ	2	(A:協力幼稚園での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	B類(各専攻)	教育実地研究Ⅱ	2	(B:協力中・高・中等教育学校での教育実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	教育実地研究Ⅱ	2	(D養:協力小・中・高・中等教育学校での養護実習)	3週間	2	実	Ⅶ
	D類(養護教育専攻)	養護実地研究	2	附属学校又は協力学校	2週間	2	実	Ⅶ
	学校教育系全課程	観察実地研究	1	附属学校での観察実地研究	1週間 相当	1	実	Ⅲ
		研究実習	2	附属学校・協力学校での研究的実習	2週間 相当	2	実	Ⅷ

* 選択科目の「観察実地研究」と「研究実習」は、教育職員免許法で定められた教育実習の単位とはなりません。

◎教育実習の履修方法

1. 教育実習及び養護実習

(1)初等教育教員養成課程(A類)の教育実習

①A類各選修(幼児教育選修を除く)

「小学校教育実習(A)」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属小学校での教育実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

②A類(幼児教育選修)

「幼稚園教育実習」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属幼稚園での教育実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

(2)中等教育教員養成課程(B類)の教育実習

「中学校教育実習(B)」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属中・高・中等教育学校での教育実習－9月－)」4単位を修得する。

(3)特別支援教育教員養成課程(C類)の教育実習

①C類小免コース

「小学校教育実習(C)」5単位及び「特別支援学校教育実習(C)」4単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「小学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「小学校教育実習(C)の教育実習－9月～10月附属小－」4単位、更に「特別支援学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「特別支援・ろう学校での教育実習」3単位を修得する。

②C類中免コース

「中学校教育実習(C)」5単位及び「特別支援学校教育実習(C)」4単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「中学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「中学校教育実習(C)の教育実習－9月－」4単位、更に「特別支援学校教育実習(C)の事前・事後の指導」1単位及び「特別支援・ろう学校での教育実習」3単位を修得する。

(4)養護教育教員養成課程(D類)の養護実習

「養護実習」5単位を修得しなければならない。

具体的には3年次において、「事前・事後の指導」1単位及び「教育実地研究Ⅰ(附属小・中・高・中等教育学校での養護実習－9月～10月－)」4単位を修得する。

なお、**養護実習はD類生のみとし、他の学生は履修できない。**

2. 「事前・事後の指導」について

「事前・事後の指導」は、「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」の前に行う「事前の指導」と、当該教育実習終了後に行う「事後の指導」があります。

「事前の指導」

学校現場において教育実習(養護実習)を行うための準備として行なわれ、学校教育の諸相や教育実習の心得、授業観察、授業設計の基礎等を指導します。

「事後の指導」

教育実習(養護実習)を終えてからの各々の課題の整理と展開について指導します。

○注意事項

「事前・事後の指導」は、それぞれ合格しなければ単位として認定されません。

また、「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」と同一年度に履修しなければなりません。

「事前」の合格が「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」を履修するための条件となり、「事前・事後の指導」の単位を修得しないと「教育実地研究Ⅰ」、「特別支援学校実習」の単位も認定されません。

3. 教育実習または養護実習を履修するための受講条件 <重要>

(1)教育実地研究Ⅰを履修するための受講条件

「教育実地研究Ⅰ」を履修するためには、以下の①②③の全てを満たすことが条件となります。

① 教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)において62単位以上修得していること。

② ①の62単位のうちに、以下に指定された科目・単位を含むこと。

<共通>

「教職入門」「教育の理念と歴史」「教育組織論」の3科目6単位

<A類(幼児教育選修を除く)及びC類小免コース>

「初等各教科教育法」の中から2科目4単位以上

<A類(幼児教育選修)>

「保育内容」の中から2科目4単位以上

<B類>

「中等各教科教育法(自専攻科目)」及び「中等教育の内容と方法」の中から1科目2単位以上

なお、実習教科が「英語」の場合は、上記に加え、以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。

Ⅰ:【修得済み授業科目による英語力の判定】

※教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)までに、以下のCL選択外国語の中から

4単位以上修得

「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」

「英語リスニング&スピーキングA」「英語リスニング&スピーキングB」

「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」

「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」

「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」

Ⅱ:【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】

※教育実地研究Ⅰを履修する前年度末(3月末)までに、下記いずれかの資格・検定試験のスコア・証明書の提出が必要。

実用英語技能検定 準1級1次試験合格

TOEIC L&R 730点

TOEFL iBT 80点

IELTS 6.0

<C類中免コース>

「中等各教科教育法(実習教科)」及び「中等教育の内容と方法」の中から1科目2単位以上

※実習教科が「英語」の場合は、上記B類の英語実習の要件を満たすこと。

<D類>

「初等教育の内容と方法」及び「中等教育の内容と方法」の中から1科目2単位以上

③ 「事前・事後の指導」の仮合格を得ること。

(2)教育実地研究Ⅱを履修するための受講条件(学校教育系のみ)

「教育実地研究Ⅱ」を履修するためには、以下①②③④の全てを満たすことが条件となります。

- ① 教育実地研究Ⅱを履修する前年度春学期終了時において78単位以上を修得していること。
(この78単位には③の単位は含めない。)
- ② ①の78単位のうちに、以下に指定された科目・単位を含むこと。
 - ＜A類(小学校各選修)＞
「初等各教科教育法」の中から4科目8単位以上
 - ＜A類(幼児教育選修)＞
「保育内容」の中から3科目6単位以上
 - ＜B類＞
「中等各教科教育法(自専攻科目)」及び「中等教育の内容と方法」の中から2科目4単位以上
 - ＜D類＞ 指定なし
- ③ 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」の合計5単位を修得していること。
(ただし、「教育実地研究Ⅰ」については、「B」以上の評価を得ることが必要。)
- ④ 教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)
なお、「教育実地研究Ⅱ」は選択科目です。
教職に就くことを強く希望する学生はできる限り受講してください。

(3)副免許取得のための教育実習について(学校教育系のみ)

副免許取得のための教育実習を履修するためには、以下①②③又は①②④の3つの事項を満たすことが条件となります。

- ① 「事前・事後の指導」及び「教育実地研究Ⅰ」の合計5単位を修得していること。
(ただし、「教育実地研究Ⅰ」については、「B」以上の評価を得ることが必要。)
- ② 教員採用試験を受験予定であること。(学校種は問わない。)
- ③ 当該教育実習を履修する前学期終了時までに修得した科目・単位の中に、以下に指定された科目・単位を含むこと。
 - ＜A類, C類小免コースの中高免取得に係る選択実習の受講条件＞
「中等各教科教育法」の中から2科目4単位以上を修得していること。
なお、実習教科が「英語」の場合は、上記に加え、以下のⅠまたはⅡの判定が必要となる。
Ⅰ:【修得済み授業科目による英語力の判定】
※ 当該教育実習を履修する前年度末(3月末)までに、以下のCL選択外国語の中から4単位以上修得。
「メディア英語A」「メディア英語B」「英語リーディングA」「英語リーディングB」
「英語リスニング&スピーキングA」「英語リスニング&スピーキングB」
「英語集中演習A」「英語集中演習B」「英語集中演習C」
「上級英語コミュニケーションⅠ」「上級英語コミュニケーションⅡ」
「上級英語ライティングⅠ」「上級英語ライティングⅡ」
Ⅱ:【外部資格・検定試験のスコアによる英語力の判定】
※ 当該教育実習を履修する前年度末(3月末)までに、下記いずれかの資格・検定試験のスコア・証明書の提出が必要。
実用英語技能検定 準1級1次試験合格
TOEIC L&R 730点
TOEFL iBT 80点
IELTS 6.0
 - ＜B類, C類中免コースの小免取得に係る選択実習の受講条件＞
「初等各教科教育法」3科目6単位以上を修得していること。

＜D類生の小・中・高免の取得に係る選択実習の受講条件＞

選択する免許種に応じて上記の受講条件を満たしていること。

④ 当該教育実習を履修する前年度終了時までに修得した科目・単位の中に、以下に指定された科目・単位を含むこと。

＜A・B類生の特別支援学校教諭免許状取得に係る選択実習の受講条件＞

① 「特別支援教育概論」「聴覚言語障害教育学A」を修得していること。

（ろう学校実習希望者）

② 「特別支援教育概論」「知的障害教育学」を修得していること。

（特別支援学校実習希望者）

○ A類, B類及びC類生の場合

選択の教育実習は、副免許状取得のためのものであり、免許状取得に必要な単位を充足したうえで履修しなければならない。実施時期と教育実習校は、希望する免許状等によって異なるが、詳細については後日掲示する。なお、選択の教育実習は、自由選択として修得することとなる。教職に就くことを強く希望する学生はできる限り受講すること。

○ D類生の場合

中学校・高等学校(保健)の免許の取得を希望する者は、D類生を対象とした「中学校教育実習(D)」5単位を履修する。

(4) 特別支援学校教育実習(C)を履修するための受講条件(C類生のみ)

①C類小免コースは「小学校教育実習(C)」の単位を、C類中免コースは「中学校教育実習(C)」の単位を修得していること。

②「事前・事後の指導(C特)」の仮合格を得ること。

4. その他の学校現場で実習を伴う科目について

A 観察実地研究（教員免許法における教育実習の単位には含まない。）

観察実地研究は、Ⅲ期において行う。

B 研究実習（教員免許法における教育実習の単位には含まない。）

研究実習は、Ⅷ期において行う。

20 専攻科目

20 専攻科目

① 共通SE

下記の授業科目から、必要な科目を選択履修する。(詳細は下記参照。)

※卒業要件として、A・B類、及びC類小免コースは3単位以上、C類中免コースは5単位以上の履修が必要。

上記の単位数を越えて履修する場合やD類生は自由選択として履修することになります。

また、科目によって適用できる免許種が異なるため、主免許に適用できる科目を履修するように注意して下さい。

※「授業観察演習」は実際の学校現場において本学の教育実習生が授業を行っている映像を観賞し、グループワークやディスカッションを行う授業です。

教育実習に行く前に実際の教育実習の様子を知る非常に貴重な機会となりますので、できるかぎり受講するようにしてください。

(共通SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
授 業 観 察 演 習	1	演	Ⅲ (集中)	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
日 本 教 育 史	2	講	Ⅵ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
西 洋 教 育 史	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
子 ど も 社 会 学	2	講	Ⅲ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
現 代 学 校 論	2	講	Ⅲ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
学 校 図 書 館 入 門	2	講	Ⅱ	大学独自 (小, 中, 高)	
学 級 経 営 論	2	講	Ⅵ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 員 の メ ン タ ル ケ ア の 基 礎 理 論	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
環 境 と 教 育 実 践	2	講	Ⅰ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 育 評 価 の 理 論 と 実 践	2	講	Ⅴ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 室 集 団 の 人 間 関 係	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
子 ど も の 遊 び と 生 活	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
特 別 ニ ー ズ と 教 育	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
外 国 人 児 童 生 徒 へ の 日 本 語 教 育	2	講演	Ⅰ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 育 思 想 史	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
国 際 理 解 教 育 論	2	講	Ⅱ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
教 職 基 礎 と し て の 子 ど も の 安 全 管 理	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	
小 学 校 に お け る プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育	2	講演	Ⅲ	大学独自 (小)	
国 際 バ カ ロ レ ア 教 育 論	2	講	Ⅵ	大学独自 (小, 中, 高)	
教 育 の た め の デ ー タ サ イ エ ン ス	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
社 会 に 開 か れ た 探 究 と 創 造 の 学 び の デ ザ イ ン	1	講	Ⅴ後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
学 び を 支 え る フ ァ シ リ テ ー シ ョ ン の 技 法	1	講演	Ⅴ前	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
チ ー ム 学 校 と 多 職 種 協 働	1	講	Ⅴ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
教 師 の レ ジ リ エ ン ス と 自 己 管 理 能 力 の 育 成	1	講	Ⅴ後	大学独自 (幼, 小, 中, 高)	(※1)
学 校 教 育 に お け る S D G s	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)

教 育 評 価 の 理 論 と 実 践	1	講	V前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
環 境 と 教 育 実 践	1	講演	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
エ コ ス ク ー ル 論	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
地 域 の 環 境 観 測 と そ の 実 践	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
子 ど も の 遊 び と 生 活	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
板 書 指 導 と 手 書 き 文 字	1	演	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 校 に お け る プ ロ グ ラ ミ ン グ 教 育	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
遊 び と 発 育 ・ 発 達	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 校 図 書 館 で 深 め る 主 体 的 な 学 び の デ ザ イ ン	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
Lesson Study in Japan	2	講演	Ⅵ	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
い じ め ・ 不 登 校 と 変 化 す る 社 会	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
現 代 の 学 校 と 外 国 人 児 童 ・ 生 徒	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
外 国 人 児 童 生 徒 へ の 日 本 語 教 育	1	講演	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
文 字 文 化 と 書 写 指 導	1	演	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
不 平 等 と 教 育	1	講演	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
特 別 ニ ー ズ と 教 育	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
イ ン ク ル ー シ ブ 教 育 と ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
未 来 の 学 校 を み ん な で 創 る	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
現 代 の 学 校 を め ぐ る 諸 課 題 と 教 育 行 政 A	1	講	Ⅱ前	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
現 代 の 学 校 を め ぐ る 諸 課 題 と 教 育 行 政 B	1	講	Ⅱ後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
教 師 の 省 察 的 実 践 の た め の 教 育 思 想	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
現 代 学 校 論	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
教 室 集 団 の 人 間 関 係	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 級 経 営 論	1	講	Ⅲ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 校 経 営 の た め の 教 育 経 営 ・ 教 育 政 策	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
Education in Japan (A)	2	講	V	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
Education in Japan (B)	2	講	Ⅳ	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
教 育 の 情 報 化 基 礎	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 校 保 健 ・ 衛 生 管 理 と マ ネ ジ メ ン ト サ イ ク ル	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
教 職 基 礎 と し て の 子 供 の 安 全	1	講	Ⅱ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)
学 校 教 育 と 地 域 連 携	1	講	Ⅳ前後	大学独自 (幼, 小, 中, 高, 養)	(※1)

(※1) ターム制科目。「前」は標準開設期の前半7回、「後」は標準開設期の後半7回で実施。具体的な期間はターム制の授業暦で確認すること。

A類(幼児教育除く)・C類小免コース対象科目

② 小学校の教科に関する専門的事項(SP)

次項「○小学校の教科に関する専門的事項(SP)のA類選修別履修方法一覧」に基づき、指定された単位を修得する。

(表1:選択必修科目)

(小教)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 研 究	2	講演	V・VI	国 語 (書写を含む)	
社 会 科 研 究	2	講	III・IV	社 会	
算 数 科 研 究	2	講	III・IV	算 数	
理 科 研 究	2	講	V・VI	理 科	
音 楽 科 研 究 I	1	実	V	音 楽	
図 画 工 作 科 研 究 I	1	演	V	図画工作	
体 育 科 研 究 I	1	実	V・VI	体 育	
家 庭 科 研 究	2	講	V・VI	家 庭	
英 語 科 研 究	2	講演	V・VI	英 語	
生 活 科 研 究	2	講演	V・VI	生 活	※
音 楽 科 研 究 II	1	実	VI	音 楽	
図 画 工 作 科 研 究 II	1	演	VI	図画工作	
体 育 科 研 究 II	1	実	VI	体 育	

※ 本授業はA・B・Cいずれかのコースを選択して履修する。
履修のオリエンテーションと選択は、2年次秋学期に行う。

○小学校の教科に関する専門的事項(SP)のA類選修別・C類(小免コース)履修方法一覧

免許法上の科目区分		本学の授業科目		指定修得単位数							
				選 修							
	科目名	単位	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	家庭	
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む)	国語科研究	2		2	2	2	2	2	2	2
	社会	社会科研究	2	2		2	2	2	2	2	2
	算数	算数科研究	2	2	2		2	2	2	2	2
	理科	理科研究	2	2	2	2		2	2	2	2
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2		2	2	2
	家庭	家庭科研究	2	2	2	2	2	2		2	
	英語	英語科研究	2	2	2	2	2	2	2		2
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1		1	1		1
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1		1		1
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1			1
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	1	1	1	1		1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1					1		1	
	体育	体育科研究Ⅱ	1					1	1		
指定修得単位数計				16	16	16	16	18	18	18	16

免許法上の科目区分		本学の授業科目		指定修得単位数							
				選 修							
	科目名	単位	英語	学校教育	学校心理	国際教育	情報教育	環境教育	ものづくり技術	C類(小免)	
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む)	国語科研究	2	2	2	2	2△	2		2	
	社会	社会科研究	2	2	2		2△	2◎	2		
	算数	算数科研究	2	2	2		2	2	2		
	理科	理科研究	2	2	2		2	2◎	2		
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2△	2			
	家庭	家庭科研究	2	2	2		2△			2	
	英語	英語科研究	2		2	2	2△	2	2	2	
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1	
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1								
	体育	体育科研究Ⅱ	1								
指定修得単位数計				16	18	18	10	10	14	12	10

△は国語科研究、社会科研究、生活科研究、家庭科研究、英語科研究のいずれかを選択必修(情報教育のみ)

◎は社会科研究、理科研究のどちらかを選択必修(環境教育のみ)

※指定修得単位数の計が16単位に満たない国際教育、情報教育、環境教育、ものづくり技術、C類(小免)は、16単位に満たない単位数を上表で指定外の小学校の教科に関する専門的事項、専攻SE、共通SEの中から指定修得単位数と併せて16単位となるよう科目を履修すること。この場合の専攻SE、共通SEは卒業基準を超えて修得した単位数になるので注意すること。

③ 国語

初等教育教員養成課程 国語選修〔A類 国語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A国語専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 A	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 B	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 C	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、20単位を必ず修得する。

（A国語S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
日 本 語 教 育 概 論	2	講	Ⅰ	大学独自(幼, 小)	
中 学 書 写 A	2	講実	Ⅵ	書道(書写中心)(中免のみ)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

（A国語SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 音 声	2	講	Ⅵ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅱ	2	演	Ⅳ	国語学	
古 典 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
古 典 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	

(A国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 C	2	演	Ⅴ	漢文学	
児 童 文 学	2	講	Ⅲ	国文学	
日 本 語 教 育 と 言 語 学	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 教 材 開 発 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
日 本 語 政 策 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(国))	
言 語 習 得 と 発 達	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小)	
異 文 化 間 教 育	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小)	
年 少 者 日 本 語 教 育	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
現 代 文 化 論	2	講	Ⅳ		
日 本 語 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
古 典 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
古 典 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
近 代 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
近 代 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
中 国 古 典 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
中 国 古 典 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
国 語 科 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
国 語 科 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
日 本 語 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A国語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	国語選修	

中等教育教員養成課程 国語専攻〔B類 国語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B国語専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 A	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 B	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
国 語 科 教 材 論 C	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、24単位を必ず修得する。

(B国語S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 語 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
中 学 書 写 B	2	講実	Ⅳ	書道(書写中心)(中免のみ)	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
中 国 古 典 文 学 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	
中 国 古 典 文 献 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、28単位以上を修得する。

(B国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 音 声	2	講	Ⅵ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅰ	2	講	Ⅲ	国語学	
現 代 日 本 語 文 法 Ⅱ	2	演	Ⅳ	国語学	
古 典 文 学 演 習 E	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 F	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 G	2	演	Ⅲ	国文学	
古 典 文 学 演 習 H	2	演	Ⅳ	国文学	
古 典 文 学 演 習 I	2	演	Ⅳ	国文学	

(B国語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学	
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学	
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	
中 国 古 典 演 習 C	2	演	Ⅴ	漢文学	
児 童 文 学	2	講	Ⅲ	国文学	
日 本 語 教 育 と 言 語 学	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小)	
日 本 語 教 育 教 材 開 発 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
日 本 語 政 策 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(国))	
言 語 習 得 と 発 達	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小)	
異 文 化 間 教 育	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小)	
年 少 者 日 本 語 教 育	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(国))	
現 代 文 化 論	2	講	Ⅳ		
日 本 語 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
古 典 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
古 典 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
近 代 文 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
近 代 文 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
中 国 古 典 学 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
中 国 古 典 学 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
国 語 科 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
国 語 科 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		
日 本 語 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅴ		
日 本 語 教 育 応 用 研 究	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B国語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	国語専攻	

④ 社会

初等教育教員養成課程 社会選修〔A類 社会〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から「社会科と情報」2単位を含めて、4単位以上を修得する。

(A社会
専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	必修
社 会 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 A	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

(A社会S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
社 会 科 概 論 A	2	講	Ⅱ		
地 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	地理学 人文地理学	
日 本 史 概 論	2	講	Ⅰ	日本史	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	Ⅱ	法学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から18単位以上を修得する。

(A社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 地 域 教 材 論 Ⅰ	2	演	Ⅲ (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 Ⅱ	2	演	Ⅴ (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 Ⅲ	2	演	Ⅶ (集中)		
歴 史 学 文 献 講 読 A	2	演	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 文 献 講 読 B	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 文 献 講 読 C	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 概 論	2	講	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 A	2	演	Ⅳ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 B	2	演	Ⅳ	外国史	
日 本 史 演 習 A ー Ⅰ	2	演	Ⅴ	日本史	
日 本 史 演 習 B ー Ⅰ	2	演	Ⅴ	日本史	
日 本 史 演 習 C ー Ⅰ	2	演	Ⅴ		
日 本 史 演 習 A ー Ⅱ	2	演	Ⅵ	日本史	
日 本 史 演 習 B ー Ⅱ	2	演	Ⅵ	日本史	
日 本 史 演 習 C ー Ⅱ	2	演	Ⅵ		

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
東 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
東 洋 史 演 習 I	2	演	V	外国史	
東 洋 史 演 習 II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー II	2	演	VI	外国史	
日 本 史 研 究 A	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 B	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 C	2	講	VI		
東 洋 史 研 究	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 A	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 B	2	講	VI	外国史	
地 誌 学 概 論	2	講	Ⅳ	地理学(地誌を含む) 地誌	
自 然 環 境	2	講	Ⅲ	地理学 自然地理学	
地 理 学 研 究 法	2	講	Ⅱ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 研 究	2	講	Ⅳ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 研 究	2	講	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 誌 学 研 究	2	講	VI	地理学(地誌を含む) 地誌	
環 境 地 理 学 研 究	2	講	VI	地理学 自然地理学	
地 理 情 報 と 地 図	2	講	V	地理学 人文地理学	
地 域 調 査 法	2	講	Ⅲ (集中)	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 実 習 I	1	実	V	地理学 自然地理学	
自 然 地 理 学 実 習 II	1	実	V	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 実 習	1	実	VI	地理学 人文地理学	
臨 地 研 究 I	2	演	V	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 II	2	演	VI	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 実 習	1	実	VI (集中)		
地 理 学 演 習 I	2	演	VII	地理学 人文地理学	
地 理 学 演 習 II	2	演	VIII	地理学 人文地理学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
哲 学 ・ 倫 理 学 概 論	2	講	I	哲学・倫理学	
哲 学 と 宗 教	2	講	II	哲学・宗教学	
宗 教 思 想 基 礎 演 習	2	演	IV	倫理学・宗教学	
哲 学 ・ 倫 理 学 基 礎 演 習	2	演	IV	哲学・倫理学	
哲 学 基 礎 資 料 講 読	2	演	III	哲学	
応 用 倫 理	2	講	V	倫理学	
西 洋 哲 学 史	2	講	III	哲学	
東 洋 哲 学 史 I	2	講	III	哲学	
東 洋 哲 学 史 II	2	講	IV		
宗 教 思 想 の 諸 問 題	2	講	V	倫理学・宗教学	
心 の 哲 学 と 知 識 論	2	講	V	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 A	2	演	VI	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 B	2	演	VI	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 C	2	演	VI	哲学	
憲 法 A	2	講	III 奇	法律学・政治学	
憲 法 B	2	講	IV 奇	法律学・政治学	
憲 法 C	2	講	IV 偶	法律学・政治学	
民 法 A	2	講	III 偶	法律学	
民 法 B	2	講	IV 偶	法律学	
民 法 C	2	講	III 奇	法律学	
刑 法 A	2	講	III 偶		
刑 法 B	2	講	IV 偶		
刑 法 C	2	講	III 奇		
教 育 と 法	2	講	III 偶	法律学	
政 治 学 A	2	講	III	政治学	
政 治 学 B	2	講	IV	政治学	
法 学 政 治 学 基 礎 演 習	2	演	IV	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 I	2	演	V	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 II	2	演	VI	法律学・政治学	
経 済 学 概 論	2	講	II	経済学(国際経済を含む)	
経 済 学 基 礎 A	2	講	III	経済学	
経 済 学 基 礎 B	2	講	IV	経済学	
経 済 学 応 用 A	2	講	V	経済学	
経 済 学 応 用 B	2	講	VI	経済学	
経 済 学 応 用 C	2	講	VI	経済学	
経 済 学 応 用 D	2	講	VI		

(A社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
経 済 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	経済学	
経 済 学 演 習 I	2	演	Ⅴ	経済学	
経 済 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	経済学	
社 会 学 概 論	2	講	I	社会学	
社 会 学 史	2	講	Ⅲ 奇	社会学	
コミュニケーションの社会学	2	講	Ⅳ 偶	社会学	
都 市 社 会 学	2	講	Ⅲ	社会学	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ 偶	社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ 奇	社会学	
社 会 学 入 門 演 習	2	演	Ⅲ	社会学	
社 会 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	社会学	
社 会 学 演 習 I	2	演	Ⅴ	社会学	
社 会 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	社会学	
現 代 社 会 と 世 代	2	講	Ⅲ 偶	社会学	
アイデンティティと社会	2	講	Ⅳ 奇		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 I	2	講	Ⅲ		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 II	2	講	Ⅳ		
社 会 科 授 業 論	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 実 践 史	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 研 究 入 門	2	講	Ⅵ	大学独自(小)	
比 較 社 会 科 教 育 論 I	2	講	Ⅴ 奇		
比 較 社 会 科 教 育 論 II	2	講	Ⅴ 偶		
地 理 教 育 実 践 論	2	演	Ⅲ		
歴 史 教 育 実 践 論	2	演	Ⅳ		
公 民 教 育 実 践 論	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A社会SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	社会選修	

中等教育教員養成課程 社会専攻〔B類 社会〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B社会専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 A	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	
社 会 科 教 材 論 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中(社), 高(地)(公))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、26単位を必ず修得する。

(B社会S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
日 本 史 概 論	2	講	I	日本史	
東 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
西 洋 史 概 論	2	講	Ⅱ	外国史	
地 理 学 概 論	2	講	I	地理学 人文地理学	
哲 学 ・ 倫 理 学 概 論	2	講	I	哲学・倫理学	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	Ⅱ	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	
社 会 学 概 論	2	講	I	社会学	
経 済 学 概 論	2	講	Ⅱ	経済学(国際経済を含む)	
自 然 環 境	2	講	Ⅲ	地理学 自然地理学	
地 誌 学 概 論	2	講	Ⅳ	地理学(地誌を含む) 地誌	
哲 学 と 宗 教	2	講	Ⅱ	哲学・宗教学	
社 会 科 概 論 B	2	講	Ⅱ		

選択科目A(SA)

下記の授業科目から26単位以上を修得する。(下記の事項に注意して履修すること。)

○高等学校(地理歴史)を選択する者は、免許法上の科目を参考に「日本史」「外国史」「人文地理学」「自然地理学」「地誌」の中から8単位以上を修得する。

○「高等学校(公民)」を選択する者は、免許法上の科目を参考に「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」の中から10単位以上を修得する。

(B社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 地 域 教 材 論 I	2	演	Ⅲ (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 II	2	演	V (集中)		
社 会 科 地 域 教 材 論 III	2	演	VII (集中)		
歴 史 学 文 献 講 読 A	2	演	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 文 献 講 読 B	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 文 献 講 読 C	2	演	Ⅲ	外国史	
歴 史 学 概 論	2	講	Ⅲ	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 A	2	演	IV	日本史	
歴 史 学 基 礎 演 習 B	2	演	IV	外国史	
日 本 史 演 習 A ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 B ー I	2	演	V	日本史	
日 本 史 演 習 C ー I	2	演	V		
日 本 史 演 習 A ー II	2	演	VI	日本史	
日 本 史 演 習 B ー II	2	演	VI	日本史	
日 本 史 演 習 C ー II	2	演	VI		
東 洋 史 演 習 I	2	演	V	外国史	
東 洋 史 演 習 II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー I	2	演	V	外国史	
西 洋 史 演 習 A ー II	2	演	VI	外国史	
西 洋 史 演 習 B ー II	2	演	VI	外国史	
日 本 史 研 究 A	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 B	2	講	VI	日本史	
日 本 史 研 究 C	2	講	VI		
東 洋 史 研 究	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 A	2	講	VI	外国史	
西 洋 史 研 究 B	2	講	VI	外国史	
地 理 学 研 究 法	2	講	II	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 理 学 基 礎 演 習 II	2	演	IV	地理学 人文地理学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
自 然 地 理 学 研 究	2	講	Ⅳ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 研 究	2	講	Ⅲ	地理学 人文地理学	
地 誌 学 研 究	2	講	Ⅵ	地理学(地誌を含む) 地誌	
環 境 地 理 学 研 究	2	講	Ⅵ	地理学 自然地理学	
地 理 情 報 と 地 図	2	講	Ⅴ	地理学 人文地理学	
地 域 調 査 法	2	講	Ⅲ (集中)	地理学 人文地理学	
自 然 地 理 学 実 習 Ⅰ	1	実	Ⅴ	地理学 自然地理学	
自 然 地 理 学 実 習 Ⅱ	1	実	Ⅴ	地理学 自然地理学	
人 文 地 理 学 実 習	1	実	Ⅵ	地理学 人文地理学	
臨 地 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅴ	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅵ	地理学(中免のみ)	
臨 地 研 究 実 習	1	実	Ⅵ (集中)		
地 理 学 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅶ	地理学 人文地理学	
地 理 学 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅷ	地理学 人文地理学	
宗 教 思 想 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	倫理学・宗教学	
哲 学 ・ 倫 理 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	哲学・倫理学	
哲 学 基 礎 資 料 講 読	2	演	Ⅲ	哲学	
応 用 倫 理	2	講	Ⅴ	倫理学	
西 洋 哲 学 史	2	講	Ⅲ	哲学	
東 洋 哲 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅲ	哲学	
東 洋 哲 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅳ		
宗 教 思 想 の 諸 問 題	2	講	Ⅴ	倫理学・宗教学	
心 の 哲 学 と 知 識 論	2	講	Ⅴ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 A	2	演	Ⅵ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 B	2	演	Ⅵ	哲学	
哲 学 特 殊 研 究 C	2	演	Ⅵ	哲学	
憲 法 A	2	講	Ⅲ 奇	法律学・政治学	
憲 法 B	2	講	Ⅳ 奇	法律学・政治学	
憲 法 C	2	講	Ⅳ 偶	法律学・政治学	
民 法 A	2	講	Ⅲ 偶	法律学	
民 法 B	2	講	Ⅳ 偶	法律学	
民 法 C	2	講	Ⅲ 奇	法律学	
刑 法 A	2	講	Ⅲ 偶		
刑 法 B	2	講	Ⅳ 偶		
刑 法 C	2	講	Ⅲ 奇		

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 と 法	2	講	Ⅲ偶	法律学	
政 治 学 A	2	講	Ⅲ	政治学	
政 治 学 B	2	講	Ⅳ	政治学	
法 学 政 治 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 I	2	演	V	法律学・政治学	
法 学 政 治 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	法律学・政治学	
経 済 学 基 礎 A	2	講	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 B	2	講	Ⅳ	経済学	
経 済 学 応 用 A	2	講	V	経済学	
経 済 学 応 用 B	2	講	Ⅵ	経済学	
経 済 学 応 用 C	2	講	Ⅵ	経済学	
経 済 学 応 用 D	2	講	Ⅵ		
経 済 学 基 礎 演 習 I	2	演	Ⅲ	経済学	
経 済 学 基 礎 演 習 II	2	演	Ⅳ	経済学	
経 済 学 演 習 I	2	演	V	経済学	
経 済 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	経済学	
社 会 学 史	2	講	Ⅲ奇	社会学	
コミュニケーションの社会学	2	講	Ⅳ偶	社会学	
都 市 社 会 学	2	講	Ⅲ	社会学	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学	
ジェンダーの社会学	2	講	Ⅳ奇	社会学	
社 会 学 入 門 演 習	2	演	Ⅲ	社会学	
社 会 学 基 礎 演 習	2	演	Ⅳ	社会学	
社 会 学 演 習 I	2	演	V	社会学	
社 会 学 演 習 II	2	演	Ⅵ	社会学	
現 代 社 会 と 世 代	2	講	Ⅲ偶	社会学	
アイデンティティと社会	2	講	Ⅳ奇		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 I	2	講	Ⅲ		
地 域 を 探 る 社 会 調 査 II	2	講	Ⅳ		
日 本 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅲ		
東 洋 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅲ		
西 洋 史 基 礎 講 義	2	講	Ⅳ		
社 会 科 授 業 論	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	
社 会 科 教 育 実 践 史	2	講	Ⅳ	大学独自(小)	

(B社会SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
社 会 科 教 育 研 究 入 門	2	講	Ⅵ	大学独自(小)	
比 較 社 会 科 教 育 論 Ⅰ	2	講	Ⅴ 奇		
比 較 社 会 科 教 育 論 Ⅱ	2	講	Ⅴ 偶		
地 理 教 育 実 践 論	2	演	Ⅲ		
歴 史 教 育 実 践 論	2	演	Ⅳ		
公 民 教 育 実 践 論	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B社会SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	社会専攻	

⑤ 数学

初等教育教員養成課程 数学選修〔A類 数学〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A数学専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(数))	
初 等 算 数 科 教 材 論	2	講演	Ⅴ	大学独自(小)	
算 数 科 教 育 臨 床	2	講演	Ⅵ	大学独自(小)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、18単位を必ず修得する。

（A数学S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
数 学 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
微 分 ・ 積 分 学	④	講	Ⅰ Ⅱ		
線 形 数 学	④	講	Ⅰ Ⅱ		
解 析 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	解析学	
代 数 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	代数学	
幾 何 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	幾何学	
確 率 ・ 統 計 Ⅰ	2	講	Ⅲ	確率論	

選択科目A（SA）

下記の授業科目から、10単位以上を修得する。

（A数学SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
微 分 ・ 積 分 学 演 習 Ⅰ	1	演	Ⅰ		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 Ⅱ	1	演	Ⅱ		
線 形 数 学 演 習 Ⅰ	1	演	Ⅰ		
線 形 数 学 演 習 Ⅱ	1	演	Ⅱ		
解 析 学 Ⅱ	2	講	Ⅳ	解析学	
代 数 学 Ⅱ	2	講	Ⅳ	代数学	
幾 何 学 Ⅱ	2	講	Ⅳ	幾何学	
確 率 ・ 統 計 Ⅱ	2	講	Ⅳ	統計学	
位 相 数 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	解析学	
位 相 数 学 Ⅱ	2	講	Ⅳ	幾何学	

(A数学SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	2	講	Ⅲ	コンピュータ	
解 析 学 各 論 A	2	講	V	解析学	
解 析 学 各 論 B	2	講	Ⅵ	解析学	
代 数 学 各 論	2	講	V	代数学	
幾 何 学 各 論	2	講	V	幾何学	
確 率 論 特 論 I	2	講	V	確率論	
統 計 学 特 論 I	2	講	V	統計学	
基 礎 数 学	2	講	I	幾何学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A数学SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VⅦⅧ	数学選修	

中等教育教員養成課程 数学専攻〔B類 数学〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B数学専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
数 学 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(数))	
数 学 科 教 材 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(数))	
数 学 科 教 育 臨 床	2	講演	Ⅴ	大学独自(中・高(数))	
数 学 教 育 研 究	2	講演	Ⅵ	大学独自(中・高(数))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、36単位を必ず修得する。

(B数学S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
数 学 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
微 分 ・ 積 分 学	④	講	I II		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 I	1	演	I		
微 分 ・ 積 分 学 演 習 II	1	演	II		
線 形 数 学	④	講	I II		
線 形 数 学 演 習 I	1	演	I		
線 形 数 学 演 習 II	1	演	II		
解 析 学 I	2	講	III	解析学	
解 析 学 II	2	講	IV	解析学	
代 数 学 I	2	講	III	代数学	
代 数 学 II	2	講	IV	代数学	
幾 何 学 I	2	講	III	幾何学	
幾 何 学 II	2	講	IV	幾何学	
確 率 ・ 統 計 I	2	講	III	確率論	
確 率 ・ 統 計 II	2	講	IV	統計学	
位 相 数 学 I	2	講	III	解析学	
基 礎 数 学	2	講	I	幾何学	
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	2	講	III	コンピュータ	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、16単位以上を修得する。

(B数学SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
位 相 数 学 II	2	講	IV	幾何学	
解 析 学 特 論 A I	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 A II	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 B I	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 B II	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 C	2	講	V	解析学	
解 析 学 特 論 D	2	講	VI	解析学	
解 析 学 特 論 E	2	講	V	解析学	
代 数 学 特 論 A I	2	講	V	代数学	
代 数 学 特 論 A II	2	講	VI	代数学	
代 数 学 特 論 B I	2	講	V	代数学	
代 数 学 特 論 B II	2	講	VI	代数学	
幾 何 学 特 論 A I	2	講	V	幾何学	
幾 何 学 特 論 A II	2	講	VI	幾何学	
幾 何 学 特 論 B I	2	講	V	幾何学	
幾 何 学 特 論 B II	2	講	VI	幾何学	
確 率 論 特 論 I	2	講	V	確率論	
確 率 論 特 論 II	2	講	VI	確率論	
統 計 学 特 論 I	2	講	V	統計学	
統 計 学 特 論 II	2	講	VI	統計学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B数学SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	数学専攻	

⑥ 理科

初等教育教員養成課程 理科選修〔A類 理科〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A理科専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 材 開 発 基 礎 I	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 材 開 発 基 礎 II	2	講	Ⅲ (集中)	大学独自(小, 中・高(理))	
科 学 教 材 開 発 研 究 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小)	
理 科 学 習 指 導 論	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 カ リ キ ュ ラ ム 研 究	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 臨 床	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(理))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A理科S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 物 理 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 化 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 生 物 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 地 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
物 理 学 実 験	1	実	I・II	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 実 験	1	実	I・II	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 実 験	1	実	I・II	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 実 験	1	実	I・II	地学実験(コンピュータ活用を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの中から、14単位以上を修得する。

（A理科SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 育 測 定 ・ 評 価 論	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 学 概 説	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
現 代 社 会 に お け る 理 科 教 育	2	講	II	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 に お け る 環 境 教 育	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(理))	
自 然 史 科 学	2	講	IV		
理 科 教 育 と 科 学 史	2	講	VI		
自 然 探 究 実 践 法	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
放 射 線 教 育 I	2	講演	V (集中)		
放 射 線 教 育 II	2	講演	VI		

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
理 科 教 育 セ ミ ナ ー I	1	演	VII (集中)		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー II	1	演	VIII (集中)		
物 理 学 概 論	2	講	II	物理学	
物 理 学 演 習	2	演	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
熱 力 学 及 び 演 習	2	講	V	物理学	
統 計 力 学 及 び 演 習	2	講	VI	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 I	2	講	V	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 II	2	講	VI	物理学	
物 理 数 学 I	2	講	III		
物 理 数 学 II	2	講	IV		
専 修 物 理 学 実 験 A	2	講実	V		
専 修 物 理 学 実 験 B	2	講実	VI		
専 修 物 理 学 演 習 A	2	講演	V		
専 修 物 理 学 演 習 B	2	講演	VI		
現 代 物 理 学	2	講	IV	物理学	
物 性 物 理 学	2	講	VI	物理学	
量 子 物 理 学 特 論	2	講	VII	物理学	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
化 学 演 習	2	演	IV	化学	
基 礎 物 理 化 学	2	講	II	化学	
基 礎 有 機 化 学	2	講	III	化学	
有 機 化 学	2	講	IV	化学	
有 機 軌 道 論	2	講	V	化学	
有 機 反 応 基 礎 論	2	講	II	化学	
有 機 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
分 子 設 計 と 合 成	2	講	VI	化学	
物 理 化 学 I	2	講	III	化学	
物 理 化 学 II	2	講	IV	化学	
物 理 化 学 III	2	講	V	化学	
物 理 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー I	2	講	VII	化学	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー II	2	講	VIII	化学	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
基 礎 無 機 化 学	2	講	Ⅱ	化学	
無 機 化 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	化学	
無 機 化 学 Ⅱ	2	講	Ⅴ	化学	
分 析 化 学	2	講	Ⅳ	化学	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験	2	実	Ⅴ	化学実験	
高 分 子 化 学	2	講	Ⅵ	化学	
有 機 化 学 演 習	2	演	Ⅵ		
有 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅰ	2	演	Ⅶ	化学	
有 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅱ	2	演	Ⅷ	化学	
無 機 化 学 演 習	2	講	Ⅵ		
無 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅰ	2	演	Ⅶ	化学	
無 機 化 学 セ ミ ナ ー Ⅱ	2	演	Ⅷ	化学	
環 境 科 学	2	講	Ⅵ		
物 理 化 学 演 習	2	演	Ⅵ		
生 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	生物学	
生 物 学 演 習	2	演	Ⅳ	生物学	
生 物 科 学 方 法 論	2	講	Ⅲ	生物学	
生 物 学 特 別 実 験	1	実	Ⅴ	生物学実験	
植 物 学 野 外 実 習	1	実	Ⅲ (集中)	生物学	
植 物 系 統 学	2	講	Ⅲ	生物学	
植 物 形 態 学	2	講	Ⅳ		
植 物 生 理 学	2	講	Ⅵ	生物学	
動 物 生 理 学	2	講	Ⅵ	生物学	
遺 伝 学	2	講	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C Ⅰ	1	演	Ⅴ	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C Ⅱ	1	演	Ⅵ	生物学	
生 態 学	2	講	Ⅲ		
生 化 学	2	講	Ⅲ		
地 学 概 論	2	講	Ⅲ	地学	
地 学 演 習	2	演	Ⅳ	地学	
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	Ⅰ		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	Ⅱ		
天 文 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	

(A理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
宇 宙 地 球 と 生 命	2	講	Ⅳ	地学	
気 象 学 概 説	2	講	Ⅳ	地学	
固 体 地 球 科 学 概 説	2	講	Ⅲ	地学	
地 球 物 理 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	
宇 宙 物 理 学 演 習	2	演	Ⅴ	地学	
地 球 科 学 野 外 実 習	2	実	Ⅵ (集中)	地学	
地 球 科 学 実 験	1	実	Ⅴ	地学実験	
宇 宙 物 理 学	2	講	Ⅴ	地学	
地 球 物 理 学	2	講	Ⅴ	地学	
古 生 物 学	2	講	Ⅴ	地学	
古 生 物 学 実 習	1	実	Ⅵ	地学	
地 球 化 学	2	講	Ⅴ	地学	
宇 宙 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
天 文 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
気 象 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 物 理 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 A	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 B	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 C	2	演	Ⅵ	地学	
地 球 環 境 科 学 特 別 演 習	2	演	Ⅵ	地学	
地 殻 物 質 論	2	講	Ⅲ	地学	
海 洋 科 学 教 育	2	講	Ⅲ	地学	
岩 石 鉱 物 学 実 験	1	実	Ⅵ	地学実験	
地 殻 構 成 論	2	講	Ⅳ	地学	

選択科目B(SB)

(A理科SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 保 全 生 態 学	2	講	Ⅰ		
地 球 環 境 論	2	講	Ⅰ		
地 球 環 境 論 演 習	2	演	Ⅱ		
環 境 教 育 実 習 I	2	実	Ⅲ (集中)		
植 物 進 化 生 態 学	2	講	Ⅳ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A理科SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	理科選修	

中等教育教員養成課程 理科専攻〔B類 理科〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

(B理科専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 材 開 発 基 礎 I	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 材 開 発 基 礎 II	2	講	Ⅲ (集中)	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 学 習 指 導 論	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 カ リ キ ュ ラ ム 研 究	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 臨 床	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(理))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(B理科S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
物 理 学 概 論	2	講	II	物理学	
物 理 学 演 習	2	演	III	物理学	
物 理 学 実 験	1	実	I・II	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
化 学 演 習	2	演	IV	化学	
化 学 実 験	1	実	I・II	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 概 論	2	講	III	生物学	
生 物 学 演 習	2	演	IV	生物学	
生 物 学 実 験	1	実	I・II	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 概 論	2	講	III	地学	
地 学 演 習	2	演	IV	地学	
地 学 実 験	1	実	I・II	地学実験(コンピュータ活用を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、30単位以上を修得する。

(B理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
理 科 教 育 測 定 ・ 評 価 論	2	講	III	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 教 育 学 概 説	2	講	V	大学独自(小, 中・高(理))	
現 代 社 会 に お け る 理 科 教 育	2	講	II	大学独自(小, 中・高(理))	
理 科 に お け る 環 境 教 育	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(理))	
自 然 史 科 学	2	講	IV		
理 科 教 育 と 科 学 史	2	講	VI		
自 然 探 究 実 践 法	2	講	III	大学独自(小, 中・高(理))	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
放 射 線 教 育 I	2	講演	V (集中)		
放 射 線 教 育 II	2	講演	VI		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー I	1	演	VII (集中)		
理 科 教 育 セ ミ ナ ー II	1	演	VIII (集中)		
基 礎 物 理 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
力 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
力 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 I	2	講	III	物理学	
電 磁 気 学 及 び 演 習 II	2	講	IV	物理学	
熱 力 学 及 び 演 習	2	講	V	物理学	
統 計 力 学 及 び 演 習	2	講	VI	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 I	2	講	V	物理学	
量 子 力 学 及 び 演 習 II	2	講	VI	物理学	
物 理 数 学 I	2	講	III		
物 理 数 学 II	2	講	IV		
専 修 物 理 学 実 験 A	2	講実	V		
専 修 物 理 学 実 験 B	2	講実	VI		
専 修 物 理 学 演 習 A	2	講演	V		
専 修 物 理 学 演 習 B	2	講演	VI		
現 代 物 理 学	2	講	IV	物理学	
物 性 物 理 学	2	講	VI	物理学	
量 子 物 理 学 特 論	2	講	VII	物理学	
基 礎 化 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
基 礎 有 機 化 学	2	講	III	化学	
有 機 化 学	2	講	IV	化学	
有 機 軌 道 論	2	講	V	化学	
有 機 反 応 基 礎 論	2	講	II	化学	
有 機 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
分 子 設 計 と 合 成	2	講	VI	化学	
有 機 化 学 演 習	2	演	VI		
有 機 化 学 セ ミ ナ ー I	2	演	VII	化学	
有 機 化 学 セ ミ ナ ー II	2	演	VIII	化学	
基 礎 物 理 化 学	2	講	II	化学	
物 理 化 学 I	2	講	III	化学	
物 理 化 学 II	2	講	IV	化学	
物 理 化 学 III	2	講	V	化学	
物 理 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
物 理 化 学 セ ミ ナ ー I	2	講	VII	化学	
物 理 化 学 セ ミ ナ ー II	2	講	VIII	化学	
基 礎 無 機 化 学	2	講	II	化学	
無 機 化 学 I	2	講	III	化学	
無 機 化 学 II	2	講	V	化学	
分 析 化 学	2	講	IV	化学	
無 機 ・ 分 析 化 学 実 験	2	実	V	化学実験	
高 分 子 化 学	2	講	VI	化学	
無 機 化 学 演 習	2	講	VI		
無 機 化 学 セ ミ ナ ー I	2	演	VII	化学	
無 機 化 学 セ ミ ナ ー II	2	演	VIII	化学	
環 境 科 学	2	講	VI		
物 理 化 学 演 習	2	演	VI		
基 礎 生 物 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
生 物 科 学 方 法 論	2	講	III	生物学	
生 物 学 特 別 実 験	1	実	V	生物学実験	
植 物 学 野 外 実 習	1	実	III (集中)	生物学	
植 物 系 統 学	2	講	III	生物学	
植 物 形 態 学	2	講	IV		
植 物 生 理 学	2	講	VI	生物学	
動 物 生 理 学	2	講	VI	生物学	
遺 伝 学	2	講	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 A II	1	演	VI	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 B II	1	演	VI	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C I	1	演	V	生物学	
生 物 学 特 別 演 習 C II	1	演	VI	生物学	
生 態 学	2	講	III		
生 化 学	2	講	III		
基 礎 地 学	2	講	I	理科(小免のみ)	
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	I		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	II		
固 体 地 球 科 学 概 説	2	講	III	地学	
宇 宙 地 球 と 生 命	2	講	IV	地学	
天 文 学 実 験	1	実	VI	地学実験	
気 象 学 概 説	2	講	IV	地学	
地 球 物 理 学 実 験	1	実	VI	地学実験	

(B理科SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
宇 宙 物 理 学 演 習	2	演	V	地学	
地 球 科 学 野 外 実 習	2	実	VI (集中)	地学	
地 球 科 学 実 験	1	実	V	地学実験	
宇 宙 物 理 学	2	講	V	地学	
地 球 物 理 学	2	講	V	地学	
古 生 物 学	2	講	V	地学	
古 生 物 学 実 習	1	実	VI	地学	
地 球 化 学	2	講	V	地学	
宇 宙 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
天 文 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
気 象 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 球 物 理 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 A	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 B	2	演	VI	地学	
地 球 科 学 特 別 演 習 C	2	演	VI	地学	
地 球 環 境 科 学 特 別 演 習	2	演	VI	地学	
地 殻 物 質 論	2	講	III	地学	
海 洋 科 学 教 育	2	講	III	地学	
岩 石 鉱 物 学 実 験	1	実	VI	地学実験	
地 殻 構 成 論	2	講	IV	地学	

選択科目B(SB)

(B理科SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 保 全 生 態 学	2	講	I		
地 球 環 境 論	2	講	I		
地 球 環 境 論 演 習	2	演	II		
環 境 教 育 実 習 I	2	実	III (集中)		
植 物 進 化 生 態 学	2	講	IV		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B理科SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	理科専攻	

⑦ 音楽

初等教育教員養成課程 音楽選修〔A類 音楽〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

（A音楽専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 授 業 実 践 演 習	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 演 習	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 特 論	2	講演	V	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

（A音楽S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 声 楽 実 技 I	1	演	I	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 II	1	演	II	声楽	
合 唱	1	演	I	声楽(合唱を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ I	1	演	I	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 I	1	演	I	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 II	1	演	II	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 I	1	演	I	器楽	
基 礎 管 弦 打 実 技 II	1	演	II	器楽	
作 曲 法 I	2	演	I	音楽理論・作曲法	
作 曲 法 II	2	演	II	音楽理論・作曲法(編曲法を含む)	
指 揮 法	2	演	III	指揮法	
音 楽 学 概 論 A	2	講	I	音楽理論・音楽史	
音 楽 学 概 論 B	2	講	II	音楽理論・音楽史(日本の伝統音楽を含む)	
音 楽 学 概 論 C	2	講	VI	音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「吹奏楽Ⅰ」又は「オーケストラⅠ」のいずれか1科目1単位を含めて6単位以上を修得する。

（A音楽SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 声 楽 実 技 III	2	演	III	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 IV	2	演	IV	声楽	
声 楽 実 技 I	2	演	V	声楽	
声 楽 実 技 II	2	演	VI	声楽	

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
吹 奏 楽 I	1	演	V 偶	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ I	1	演	V 奇	器楽(合奏を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ II	1	演	II	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 III	2	演	III	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 IV	2	演	IV	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 I	2	演	V	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 II	2	演	VI	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 III	2	演	III	器楽(合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 IV	2	演	IV	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 I	2	演	V	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 II	2	演	VI	器楽(合奏を含む)	
作 曲 研 究 A	2	演	III 奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 B	2	演	IV 奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 C	2	演	V 偶	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 D	2	演	VI 偶	音楽理論・作曲法	
吹 奏 楽 II	1	演	V 偶 (集中)	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ II	1	演	V 奇 (集中)	器楽(合奏を含む)	
音 楽 学 基 礎 研 究 A	2	講	I		
音 楽 学 基 礎 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	III		
音 楽 学 基 礎 研 究 C	2	講	V		
音 楽 学 基 礎 研 究 D	2	講	VII		
音 楽 教 育 特 別 研 究 A	2	講	V	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 B	2	講	VI	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 C	2	講	V (集中)	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 D	2	講演	VI	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 学 研 究 A	2	講	II		
音 楽 学 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	IV		
音 楽 学 研 究 C	2	講	VI		
音 楽 学 研 究 D	2	演	VIII		
音 楽 学 特 別 研 究 A	2	演	V		
音 楽 学 特 別 研 究 B	2	演	VI		
合 唱 指 導 法	2	演	IV		
音 楽 心 理 学	2	演	VI		
邦 楽 歌 唱 法 A	1	実	IV	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
邦 楽 歌 唱 法 B	1	実	III	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器	1	実	III	器楽(和楽器を含む)	

(A音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
和 楽 器	B 1	実	Ⅳ	器楽(和楽器を含む)	
和 楽 器	C 1	実	Ⅳ	器楽(合奏及び和楽器を含む)	
和 楽 器	D 1	実	Ⅲ	器楽(和楽器を含む)	
民 族 音 楽 演 習	A 2	演	Ⅴ		
民 族 音 楽 演 習	B 2	演	Ⅴ (集中)		
ポ ピ ュ ラ ー 音 楽 演 習	2	演	Ⅵ		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A音楽SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	音楽選修	

中等教育教員養成課程 音楽専攻〔B類 音楽〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B音楽専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 授 業 実 践 演 習	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 演 習	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	
音 楽 科 教 材 特 論	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小, 中・高(音))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、22単位を必ず修得する。

(B音楽S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
基 礎 声 楽 実 技 Ⅰ	1	演	Ⅰ	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 Ⅱ	1	演	Ⅱ	声楽	
合 唱	1	演	Ⅰ	声楽(合唱を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ Ⅰ	1	演	Ⅰ	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅰ	1	演	Ⅰ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅱ	1	演	Ⅱ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅰ	1	演	Ⅰ	器楽	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅱ	1	演	Ⅱ	器楽	
作 曲 法 Ⅰ	2	演	Ⅰ	音楽理論・作曲法	
作 曲 法 Ⅱ	2	演	Ⅱ	音楽理論・作曲法(編曲法を含む)	
指 揮 法	2	演	Ⅲ	指揮法	
音 楽 学 概 論 A	2	講	Ⅰ	音楽理論・音楽史	
音 楽 学 概 論 B	2	講	Ⅱ	音楽理論・音楽史(日本の伝統音楽を含む)	
音 楽 学 概 論 C	2	講	Ⅵ	音楽理論・音楽史(諸民族の音楽を含む)	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「邦楽歌唱法A」又は「邦楽歌唱法B」のいずれか1科目1単位、「吹奏楽Ⅰ」又は「オーケストラⅠ」のいずれか1単位、「和楽器A」「和楽器B」「和楽器C」「和楽器D」の中から1科目1単位を含めて30単位以上を修得する。

(B音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 声 楽 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	声楽	
基 礎 声 楽 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	声楽	
声 楽 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	声楽	
声 楽 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	声楽	
吹 奏 楽 Ⅰ	1	演	Ⅴ偶	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ Ⅰ	1	演	Ⅴ奇	器楽(合奏を含む)	
ソ ル フ ェ ー ジ ュ Ⅱ	1	演	Ⅱ	ソルフェージュ	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 ピ ア ノ 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
ピ ア ノ 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	器楽(伴奏, 合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅲ	2	演	Ⅲ	器楽(合奏を含む)	
基 礎 管 弦 打 実 技 Ⅳ	2	演	Ⅳ	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 Ⅰ	2	演	Ⅴ	器楽(合奏を含む)	
管 弦 打 実 技 Ⅱ	2	演	Ⅵ	器楽(合奏を含む)	
作 曲 研 究 A	2	演	Ⅲ奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 B	2	演	Ⅳ奇	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 C	2	演	Ⅴ偶	音楽理論・作曲法	
作 曲 研 究 D	2	演	Ⅵ偶	音楽理論・作曲法	
吹 奏 楽 Ⅱ	1	演	Ⅴ偶 (集中)	器楽(合奏を含む)	
オ ー ケ ス ト ラ Ⅱ	1	演	Ⅴ奇 (集中)	器楽(合奏を含む)	
音 楽 学 基 礎 研 究 A	2	講	Ⅰ		
音 楽 学 基 礎 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	Ⅲ		
音 楽 学 基 礎 研 究 C	2	講	Ⅴ		
音 楽 学 基 礎 研 究 D	2	講	Ⅶ		
音 楽 教 育 特 別 研 究 A	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 B	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 C	2	講	Ⅴ (集中)	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 教 育 特 別 研 究 D	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(音))	
音 楽 学 研 究 A	2	講	Ⅱ		
音 楽 学 研 究 B (外 国 語 活 用 科 目)	2	講	Ⅳ		
音 楽 学 研 究 C	2	講	Ⅵ		
音 楽 学 研 究 D	2	演	Ⅷ		

(B音楽SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	開設学年 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 学 特 別 研 究 A	2	演	V		
音 楽 学 特 別 研 究 B	2	演	VI		
合 唱 指 導 法	2	演	IV		
音 楽 心 理 学	2	演	VI		
邦 楽 歌 唱 法 A	1	実	IV	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器	A 1	実	III	器楽(和楽器を含む)	
和 楽 器	B 1	実	IV	器楽(和楽器を含む)	
邦 楽 歌 唱 法 B	1	実	III	声楽(日本の伝統的な歌唱を含む)	
和 楽 器	C 1	実	IV	器楽(合奏及び和楽器を含む)	
和 楽 器	D 1	実	III	器楽(和楽器を含む)	
民 族 音 楽 演 習 A	2	演	V		
民 族 音 楽 演 習 B	2	演	V (集中)		
ポ ピ ュ ラ ー 音 楽 演 習	2	演	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B音楽SZ)

授 業 科 目	単 位 数	開設学年 学期	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	音楽専攻

⑧ 美術

初等教育教員養成課程 美術選修〔A類 美術〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業から、2単位以上を修得する。

（A美術専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
図 画 工 作 ・ 美 術 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
図 画 工 作 科 教 材 論	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
図 画 工 作 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(幼, 小)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、20単位を必ず修得する。

（A美術S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
図 画 工 作 科 基 礎	2	演	Ⅱ	図画工作(小免のみ)	
絵 画 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	絵画(映像メディア表現を含む)	
彫 刻 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	デザイン(映像メディア表現を含む)	
工 芸 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
西 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅱ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
美 術 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅳ		
日 本 東 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅲ	(美術用) 美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本 の伝統美術及びアジアの美術を含む) (工芸用) 美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、8単位以上を修得する。

(A美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 演 習 III	2	演	V		
美 術 演 習 IV	2	演	VI		
絵 画 基 礎 II	2	演	II	絵画	
絵 画 演 習 A	2	演	III	絵画	
絵 画 演 習 B	2	演	IV	絵画	
絵 画 演 習 C	2	演	V	絵画	
絵 画 演 習 D	2	演	V	絵画	
彫 刻 基 礎 II	2	演	II	彫刻	
彫 刻 演 習 A	2	演	III	彫刻	
彫 刻 演 習 B	2	演	IV	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 II	2	演	II	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 A	2	演	III	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 B	2	演	IV	デザイン	
工 芸 基 礎 II	2	演	II	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
工 芸 演 習 A	2	演	III	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 B	2	演	III	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 C	2	演	IV	工芸 工芸制作	
美 術 史 演 習 A	2	演	VI	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 B	2	演	VII奇	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 C	2	演	VII偶	(美術用)美術理論及び美術史	
現 代 美 術 史 概 論	2	講	IV	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 科 教 育 演 習 I	2	演	I	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 II	2	演	II	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 III	2	演	III	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 IV	2	演	IV	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
工 芸 ・ デ ザ イ ン 理 論	2	講	V	(工芸用)工芸理論及びデザイン理論	
図 法 ・ 製 図	2	演	II	図法及び製図	
美 術 史 実 地 研 修	2	演	IV (集中)	(美術用)美術理論及び美術史	
美 学	2	講	VI	(美術用)美術理論及び美術史	
西 洋 美 術 史 演 習 I	2	演	VI奇		
西 洋 美 術 史 演 習 II	2	演	VI偶		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 I	2	演	VI奇		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 II	2	演	VI偶		

(A美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
美 術 家 教 育 と 美 術 科 教 育	2	講	I	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 教 育 基 礎 研 究	2	演	III	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
鑑 賞 教 育	2	講	IV	大学独自(小, 中・高(美)(工))	

選択科目B(SB)

(A美術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	諸 資 格	備 考 (対 象)
生 涯 学 習 概 説 I	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 概 説 II	2	講	II		社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 社 会 と 博 物 館	2	講	III		学芸員 (博物館教育論)	
博 物 館 学 基 礎 論	2	講	IV		学芸員 (博物館概論)	
文 化 財 科 学 概 説	2	講	I			
表 装 実 習	2	実	VI (集中)			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 A	2	演	IV奇			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 B	2	演	IV偶			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A美術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	美術選修	

中等教育教員養成課程 美術専攻〔B類 美術〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B美術専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
図 画 工 作 ・ 美 術 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 材 論 Ⅰ (平 面)	2	演	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 材 論 Ⅱ (立 体)	2	演	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(中・高(美)(工))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、34単位を必ず修得する。

(B美術S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
美 術 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
絵 画 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	絵画(映像メディア表現を含む)	
絵 画 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	絵画	
彫 刻 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	彫刻	
彫 刻 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	彫刻	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	デザイン(映像メディア表現を含む)	
デ ザ イ ン 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	デザイン	
工 芸 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅰ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
工 芸 基 礎 Ⅱ	2	演	Ⅱ	工芸 工芸制作(プロダクト制作を含む)	
西 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅱ	(美術用)美術理論及び美術史	
日 本 東 洋 美 術 史 概 論	2	講	Ⅲ	(美術用) 美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の 伝統美術及びアジアの美術を含む) (工芸用) 美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及 びアジアの工芸を含む)	
美 術 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
美 術 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅳ		
美 術 演 習 Ⅲ	2	演	Ⅴ		
美 術 演 習 Ⅳ	2	演	Ⅵ		
現 代 美 術 史 概 論	2	講	Ⅳ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 学	2	講	Ⅵ	(美術用)美術理論及び美術史	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

(B美術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
絵 画 演 習 A	2	演	Ⅲ	絵画	
絵 画 演 習 B	2	演	Ⅳ	絵画	
絵 画 演 習 C	2	演	Ⅴ	絵画	
絵 画 演 習 D	2	演	Ⅴ	絵画	
彫 刻 演 習 A	2	演	Ⅲ	彫刻	
彫 刻 演 習 B	2	演	Ⅳ	彫刻	
デ ザ イ ン 演 習 A	2	演	Ⅲ	デザイン	
デ ザ イ ン 演 習 B	2	演	Ⅳ	デザイン	
工 芸 演 習 A	2	演	Ⅲ	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 B	2	演	Ⅲ	工芸 工芸制作	
工 芸 演 習 C	2	演	Ⅳ	工芸 工芸制作	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅰ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅲ	2	演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
美 術 科 教 育 演 習 Ⅳ	2	演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中・高(美)(工))	
工 芸 ・ デ ザ イ ン 理 論	2	講	Ⅴ	(工芸用)工芸理論及びデザイン理論	
図 法 ・ 製 図	2	演	Ⅱ	図法及び製図	
美 術 史 実 地 研 修	2	演	Ⅳ (集中)	(美術用)美術理論及び美術史	
西 洋 美 術 史 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅵ奇		
西 洋 美 術 史 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ偶		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅵ奇		
日 本 東 洋 美 術 史 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ偶		
美 術 史 演 習 A	2	演	Ⅵ	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 B	2	演	Ⅶ奇	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 史 演 習 C	2	演	Ⅶ偶	(美術用)美術理論及び美術史	
美 術 家 教 育 と 美 術 科 教 育	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
美 術 教 育 基 礎 研 究	2	演	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	
鑑 賞 教 育	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(美)(工))	

選択科目B(SB)

(B美術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
生 涯 学 習 概 説 I	2	講	I		司書 社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 概 説 II	2	講	II		社会教育主事 学芸員 (生涯学習概論)	
生 涯 学 習 社 会 と 博 物 館	2	講	III		学芸員 (博物館教育論)	
博 物 館 学 基 礎 論	2	講	IV		学芸員 (博物館概論)	
文 化 財 科 学 概 説	2	講	I			
表 装 実 習	2	実	VI (集中)			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 A	2	演	IV奇			
文 化 財 保 存 ・ 修 復 研 究 B	2	演	IV偶			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B美術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	美術専攻	

⑨ 保健体育

初等教育教員養成課程 保健体育選修〔A類 保健体育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目のうち、「保健体育科と情報」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の中から1科目2単位以上を修得する。

（A保健体育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修
保 健 体 育 科 模 擬 授 業 演 習 A	2	講演	Ⅳ	大学独自(小)	
保 健 体 育 科 教 材 研 究	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修
体 育 科 学 習 評 価 論	2	講	Ⅲ偶	大学独自(小, 中・高(保体))	
教 科 体 育 ・ 特 活 指 導 計 画 論	2	講	Ⅲ奇	大学独自(小, 中・高(保体))	
保 健 体 育 科 カリキュラム 開 発 論	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(保体))	選択必修

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、23単位を必ず修得する。

（A保健体育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
保 健 体 育 科 演 習	2	演	Ⅴ		
人 体 解 剖 生 理 学	2	講	Ⅰ	生理学 解剖学	
学 校 保 健 学 概 説	2	講	Ⅱ	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)	
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	Ⅱ	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 心 理 学 概 論	2	講	Ⅱ	体育心理学	
野 外 環 境 教 育 学	2	講演	Ⅲ		
体 つ く り 運 動 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
器 械 運 動 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
陸 上 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
水 泳 A	1	実	Ⅰ	体育実技	
表 現 運 動	1	実	Ⅳ	体育実技	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル A	1	実	Ⅲ	体育実技	
サ ッ カ ー A	1	実	Ⅲ	体育実技	
ソ フ ト ボ ー ル A	1	実	Ⅱ	体育実技	
ソ フ ト バ レ ー ボ ー ル	1	実	Ⅱ	体育実技	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「野外環境教育実習(夏季)」「野外環境教育実習(冬季)」「スケート実習」「スキー実習」のうち1科目以上を含め、併せて5単位以上を修得する。

(A保健体育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
運 動 生 理 学 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
体 育 原 理 概 論	2	講	Ⅰ	体育原理	
体 育 史 概 論	2	講	Ⅱ	体育原理	
ス ポ ー ツ バイオメカニクス 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
ス ポ ー ツ バイオメカニクス 演 習	2	演	Ⅵ		
体 育 ・ ス ポ ー ツ 社 会 学	2	講	Ⅳ	体育社会学	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 経 営 学	2	講	Ⅳ	体育経営管理学	
救 急 処 置 法	2	講	Ⅱ	学校保健(学校安全, 救急処置を含む)	
子 ど も と か ら だ	2	講	Ⅴ		
保 健 体 育 ・ ス ポ ー ツ 専 門 英 語 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅴ		
野 外 環 境 教 育 指 導 演 習	2	演	Ⅴ		
体 育 史 実 習	1	実	Ⅴ 奇 (集中)		
遊 び と 発 育 ・ 発 達	2	講	Ⅲ		
障 害 児 の 運 動	2	講演	Ⅳ		
身 体 表 現 論	2	講	Ⅴ		
野 外 環 境 教 育 実 習 (夏 季)	1	実	Ⅲ (集中)	体育実技	4科目のうち、 1科目を 選択必修
野 外 環 境 教 育 実 習 (冬 季)	1	実	Ⅳ 偶 (集中)	体育実技	
ス ケ ー ト 実 習	1	実	Ⅳ 奇 (集中)	体育実技	
ス キ ー 実 習	1	実	Ⅳ (集中)	体育実技	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A保健体育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	保健体育選修	

中等教育教員養成課程 保健体育専攻〔B類 保健体育〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、「保健体育科と情報」「保健体育科模擬授業演習B」「保健体育科教材研究」「保健体育科カリキュラム開発論」の4科目8単位を必ず修得する。

(B保健体育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 科 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修
保 健 体 育 科 模 擬 授 業 演 習 B	2	講演	Ⅳ	大学独自(中・高(保体))	必修
保 健 体 育 科 教 材 研 究	2	講	Ⅳ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修
体 育 科 学 習 評 価 論	2	講	Ⅲ偶	大学独自(小, 中・高(保体))	
教 科 体 育 ・ 特 活 指 導 計 画 論	2	講	Ⅲ奇	大学独自(小, 中・高(保体))	
保 健 体 育 科 カリキュラム 開 発 論	2	講	Ⅴ	大学独自(小, 中・高(保体))	必修

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので, 36単位を必ず修得する。

(B保健体育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 健 体 育 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
保 健 体 育 科 演 習	2	演	Ⅴ		
人 体 解 剖 生 理 学	2	講	Ⅰ	生理学 解剖学	
学 校 保 健 学 概 説	2	講	Ⅱ	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)	
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	Ⅱ	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 心 理 学 概 論	2	講	Ⅱ	体育心理学	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 社 会 学	2	講	Ⅳ	体育社会学	
柔 道	1	実	Ⅲ	体育実技	
剣 道	1	実	Ⅲ	体育実技	
器 械 運 動 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
陸 上 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
水 泳 B	1	実	Ⅰ	体育実技	
ダ ン ス	1	実	Ⅱ	体育実技	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル B	1	実	Ⅳ	体育実技	
サ ッ カ ー B	1	実	Ⅲ	体育実技	
ソ フ ト ボ ー ル B	1	実	Ⅲ	体育実技	
バ レ ー ボ ー ル	1	実	Ⅳ	体育実技	
運 動 生 理 学 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
体 育 原 理 概 論	2	講	Ⅰ	体育原理	
体 育 史 概 論	2	講	Ⅱ	体育原理	

(B保健体育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
体 育 ・ ス ポ ー ツ 経 営 学	2	講	Ⅳ	体育経営管理学	
運 動 方 法 学 総 論	2	講	Ⅳ	運動学(運動方法学を含む)	
運 動 部 活 動 指 導 演 習	2	講演	Ⅴ		

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、「野外環境教育実習(夏季)」「野外環境教育実習(冬季)」「スケート実習」「スキー実習」のうち1科目以上を含め、併せて16単位以上を修得する。

(B保健体育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 指 導 実 習	1	実	Ⅵ		
体 育 史 演 習	2	演	Ⅴ偶		
体 育 史 実 習	1	実	Ⅴ奇 (集中)		
ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス 概 論	2	講	Ⅲ	生理学(運動生理学を含む)	
ス ポ ー ツ バ イ オ メ カ ニ ク ス 演 習	2	演	Ⅵ		
救 急 処 置 法	2	講	Ⅱ	学校保健(学校安全, 救急処置を含む)	
子 ど も と か ら だ	2	講	Ⅴ		
保 健 体 育 ・ ス ポ ー ツ 専 門 英 語 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅴ		
ラ グ ビ ー	1	実	Ⅳ偶	体育実技	
ハ ン ド ボ ー ル	1	実	Ⅳ奇	体育実技	
体 つ く り 運 動 B	1	実	Ⅰ奇	体育実技	
運 動 生 理 学 演 習	2	演	Ⅴ	生理学	保健のみ
障 害 児 の 運 動	2	講演	Ⅳ		
身 体 表 現 論	2	講	Ⅴ		
野 外 環 境 教 育 学	2	講演	Ⅲ		
野 外 環 境 教 育 指 導 演 習	2	演	Ⅴ		
遊 び と 発 育 ・ 発 達	2	講	Ⅲ		
野 外 環 境 教 育 実 習 (夏 季)	1	実	Ⅲ (集中)	体育実技	4科目のうち、 1科目を 選択必修
野 外 環 境 教 育 実 習 (冬 季)	1	実	Ⅳ偶 (集中)	体育実技	
ス ケ ー ト 実 習	1	実	Ⅳ奇 (集中)	体育実技	
ス キ ー 実 習	1	実	Ⅳ (集中)	体育実技	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B保健体育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	保健体育専攻	

⑩ 家庭

初等教育教員養成課程 家庭選修〔A類 家庭〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、「家庭科と情報」を含めて、4単位以上を修得する。

（A家庭専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 科 と 情 報	2	演	Ⅳ	情報処理	必修
家 庭 科 教 材 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 教 材 論 Ⅱ	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(家))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

（A家庭S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
栄 養 学 概 論	2	講	Ⅳ	食物学(栄養学を含む)	
被 服 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ	被服学	
家 庭 経 営 学	2	講	Ⅰ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
住 居 学	2	講	Ⅲ	住居学	
児 童 学 Ⅰ	2	講演	Ⅲ	保育学	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、16単位以上を修得する。

（A家庭SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 品 学 概 論	2	講	Ⅱ	食物学(食品学を含む)	
被 服 学 Ⅱ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 Ⅲ	2	講	Ⅱ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅲ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅴ	被服学	
被 服 学 演 習 A	2	演	Ⅱ	被服学(被服製作実習を含む)	
被 服 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	被服学(被服製作実習を含む)	
食 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	食物学	
調 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	食物学	

(A家庭SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 物 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅱ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅲ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 C	1	実	Ⅵ	食物学(調理実習を含む)	
生 活 経 営 学	2	講	Ⅲ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
生 活 設 計 論	2	講	Ⅴ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
消 費 者 教 育	2	講	Ⅰ	家庭経営学	
住 環 境 論	2	演	Ⅳ	住居学	
生 活 環 境 論	2	演	Ⅴ	住居学	
住 居 設 計 製 図	1	演	Ⅴ	住居学(製図を含む)	
家 庭 看 護 学	2	講	Ⅵ	保育学(家庭看護を含む)	
家 族 関 係 学	2	演	Ⅳ	家庭経営学(家族関係学を含む)	
家 庭 工 学	2	講	Ⅱ	家庭電気・機械	
乳 幼 児 と 生 活	2	演	Ⅴ	保育学	
児 童 学 Ⅱ	2	演	Ⅳ (集中)	保育学(実習を含む)	
家 庭 科 活 用 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(A家庭SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	Ⅲ		社会福祉士 (児童や家庭に対す る支援と児童・家庭 福祉制度)	
老 人 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (高齢者に対する支 援と介護保険制度)	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学		
ジ ェ ン ダ ー の 社 会 学	2	講	Ⅳ奇	社会学		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A家庭SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	家庭選修	

中等教育教員養成課程 家庭専攻〔B類 家庭〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

（B家庭専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 科 と 情 報	2	演	Ⅳ	情報処理	
家 庭 科 教 材 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 教 材 論 Ⅱ	2	講	Ⅲ	大学独自(小, 中・高(家))	
家 庭 科 カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅵ	大学独自(小, 中・高(家))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、27単位を必ず修得する。

（B家庭S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
家 庭 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
栄 養 学 概 論	2	講	Ⅳ	食物学(栄養学を含む)	
家 庭 経 営 学	2	講	Ⅰ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
住 居 設 計 製 図	1	演	Ⅴ	住居学(製図を含む)	
住 居 学	2	講	Ⅲ	住居学	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅱ (集中)	食物学(調理実習を含む)	
食 品 学 概 論	2	講	Ⅱ	食物学(食品学を含む)	
児 童 学 Ⅰ	2	講演	Ⅲ	保育学	
児 童 学 Ⅱ	2	演	Ⅳ (集中)	保育学(実習を含む)	
家 族 関 係 学	2	演	Ⅳ	家庭経営学(家族関係学を含む)	
家 庭 工 学	2	講	Ⅱ	家庭電気・機械	
家 庭 看 護 学	2	講	Ⅵ	保育学(家庭看護を含む)	
被 服 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 A	1	実	Ⅲ	被服学	
被 服 学 演 習 A	2	演	Ⅱ	被服学(被服製作実習を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、25単位以上を修得する。

(B家庭SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
食 物 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅲ (集中)	食物学(栄養学, 食品学及び調理実習を含む)	
食 物 学 実 験 ・ 実 習 C	1	実	Ⅵ	食物学(栄養学, 食品学及び調理実習を含む)	
食 物 学 概 論	2	講	Ⅲ	食物学	
調 理 学 概 論	2	講	Ⅰ	食物学	
被 服 学 実 験 ・ 実 習 B	1	実	Ⅴ	被服学	
被 服 学 Ⅱ	2	講	Ⅰ	被服学	
被 服 学 Ⅲ	2	講	Ⅱ	被服学	
被 服 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	被服学(被服製作実習を含む)	
生 活 経 営 学	2	講	Ⅲ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
生 活 設 計 論	2	講	Ⅴ	家庭経営学(家庭経済学を含む)	
消 費 者 教 育	2	講	Ⅰ	家庭経営学	
住 環 境 論	2	演	Ⅳ	住居学	
生 活 環 境 論	2	演	Ⅴ	住居学	
乳 幼 児 と 生 活	2	演	Ⅴ	保育学	
家 庭 科 演 習 (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(B家庭SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	Ⅲ		社会福祉士 (児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度)	
老 人 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (高齢者に対する支援と介護保険制度)	
家 族 社 会 学	2	講	Ⅲ偶	社会学		
ジ ェ ン ダ ー の 社 会 学	2	講	Ⅳ奇	社会学		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B家庭SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	家庭専攻	

⑪ 英語

初等教育教員養成課程 英語選修〔A類 英語〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位を必ず修得する。

（A英語専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 教 材 論	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 教 育 の 現 状 と 課 題	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 と 異 文 化 理 解	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	
第 二 言 語 習 得	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A英語S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
英 会 話 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 語 音 声 学 概 論	2	演	Ⅰ	英語学	
小 学 校 英 語 教 育 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅲ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅳ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅴ		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅵ		AB類 英語のみ

選択科目A（SA）

下記の授業科目から、14単位以上を修得する。

（A英語SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
英 語 読 解 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 語 読 解 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅳ	1	演	Ⅳ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	

(A英語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
英 文 法 演 習 A	2	演	I	英語学	
英 文 法 演 習 B	2	演	II	英語学	
現 代 英 語 学 I	2	講	III	英語学	
現 代 英 語 学 II	2	講	IV	英語学	
英 語 史 概 論	2	講	IV	英語学	
イ ギ リ ス 文 化 概 論	2	講	II	異文化理解	
ア メ リ カ 文 化 概 論	2	講	I	異文化理解	
英 米 文 学 概 論 A	2	講	III	英語文学	
英 米 文 学 概 論 B	2	講	IV	英語文学	
文 法 理 論 A	2	演	V 奇	英語学	
文 法 理 論 B	2	演	V 偶	英語学	
歴 史 英 語 学 A	2	演	VI 奇	英語学	
歴 史 英 語 学 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 特 論 A	2	演	VI 奇	英語学	
英 文 法 特 論 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 研 究	2	演	VI	英語学	
イ ギ リ ス 文 学 I	2	演	V	英語文学	
イ ギ リ ス 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 I	2	演	V	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
英 米 文 学 基 礎 講 読	2	演	III	英語文学	
英 語 圏 文 化 演 習 A	2	演	V	異文化理解	
英 語 圏 文 化 演 習 B	2	演	VI	異文化理解	
英 語 教 育 学 研 究	2	演	VI		
英 語 指 導 実 践 演 習	2	演	V (集中)		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A英語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	英語選修	

中等教育教員養成課程 英語専攻〔B類 英語〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、8単位以上を修得する。

(B英語専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対象)
英 語 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 教 材 論	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 教 育 の 現 状 と 課 題	2	演	Ⅳ	大学独自(小・中・高(英))	
英 語 科 と 異 文 化 理 解	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	
第 二 言 語 習 得	2	演	Ⅴ	大学独自(小・中・高(英))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、29単位を必ず修得する。

(B英語S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対象)
英 語 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
英 語 読 解 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 語 読 解 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 会 話 Ⅳ	1	演	Ⅳ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅰ	1	演	Ⅰ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅱ	1	演	Ⅱ	英語コミュニケーション	
英 作 文 Ⅲ	1	演	Ⅲ	英語コミュニケーション	
英 文 法 演 習 A	2	演	Ⅰ	英語学	
英 文 法 演 習 B	2	演	Ⅱ	英語学	
英 語 音 声 学 概 論	2	演	Ⅰ	英語学	
現 代 英 語 学 Ⅰ	2	講	Ⅲ	英語学	
英 語 史 概 論	2	講	Ⅳ	英語学	
イ ギ リ ス 文 化 概 論	2	講	Ⅱ	異文化理解	
ア メ リ カ 文 化 概 論	2	講	Ⅰ	異文化理解	
英 米 文 学 概 論 A	2	講	Ⅲ	英語文学	
英 米 文 学 概 論 B	2	講	Ⅳ	英語文学	

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、23単位以上を修得する。

(B英語SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
現 代 英 語 学 II	2	講	IV	英語学	
文 法 理 論 A	2	演	V 奇	英語学	
文 法 理 論 B	2	演	V 偶	英語学	
歴 史 英 語 学 A	2	演	VI 奇	英語学	
歴 史 英 語 学 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 特 論 A	2	演	VI 奇	英語学	
英 文 法 特 論 B	2	演	VI 偶	英語学	
英 文 法 研 究	2	演	VI	英語学	
イ ギ リ ス 文 学 I	2	演	V	英語文学	
イ ギ リ ス 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 I	2	演	V	英語文学	
ア メ リ カ 文 学 II	2	演	VI	英語文学	
英 米 文 学 基 礎 講 読	2	演	III	英語文学	
英 語 圏 文 化 演 習 A	2	演	V	異文化理解	
英 語 圏 文 化 演 習 B	2	演	VI	異文化理解	
英 語 教 育 学 研 究	2	演	VI		
英 語 指 導 実 践 演 習	2	演	V (集中)		
小 学 校 英 語 教 育 概 論 I	2	講	III		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 概 論 II	2	講	IV		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 I	2	演	V		AB類 英語のみ
小 学 校 英 語 教 育 演 習 II	2	演	VI		AB類 英語のみ

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B英語SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	英語専攻	

⑫ 学校教育

初等教育教員養成課程 学校教育選修〔A類 学校教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

（A学校教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
教 材 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講演	Ⅴ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A学校教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
教 育 学 研 究 入 門	2	講	Ⅰ		
教 育 実 践 研 究	2	講演	Ⅱ		
教 育 基 本 文 献 講 読 Ⅰ	2	演	Ⅲ		
教 育 基 本 文 献 講 読 Ⅱ (外 国 語 活 用 科 目)	2	演	Ⅳ		
教 育 実 験 観 察 法	2	演	Ⅲ		
教 育 調 査 法	2	演	Ⅳ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、14単位以上を修得する。

（A学校教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 哲 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 哲 学 演 習	2	演	Ⅵ		
外 国 教 育 史 特 講	2	講	Ⅴ		
外 国 教 育 史 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 社 会 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 社 会 学 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 経 営 学 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 経 営 学 演 習	2	演	Ⅵ		
教 育 法 制 特 講	2	講	Ⅴ		
教 育 法 制 演 習	2	講	Ⅵ		

(A学校教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 工 学 特 講	2	講	V		
特 別 活 動 論 特 講	2	講	V		
特 別 活 動 論 演 習	2	演	VI		
教 育 方 法 学 特 講	2	講	V		
教 育 方 法 学 演 習	2	演	VI		
カ リ キ ュ ラ ム 論 特 講	2	講	V		
カ リ キ ュ ラ ム 論 演 習	2	演	VI		
学 習 指 導 論 特 講	2	講	V		
学 習 指 導 論 演 習	2	演	VI		
学 校 教 育 特 講	2	講	V		
学 校 教 育 演 習	2	演	VI		
教 育 学 研 究 法 A	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 B	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 C	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 D	2	講演	IV		
教 育 学 研 究 法 E	2	講演	IV		

選択科目B(SB)

(A学校教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 教 育 史 特 講	2	講	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A学校教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	学校教育選修	

⑬ 学校心理

初等教育教員養成課程 学校心理選修〔A類 学校心理〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、2単位以上を修得する。

（A学校心理専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
授 業 実 践 の 心 理 学	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
教 授 学 習 プロセスとその評価	2	演	Ⅵ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
特 別 支 援 教 育 と 支 援 シ ス テ ム	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、18単位を必ず修得する。

（A学校心理S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
学 校 心 理 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ			
心 理 学 概 論	2	講	Ⅰ		社会福祉士 (心理学理論と 心理的支援)	
発 達 心 理 学 (児 童 期 ・ 青 年 期)	2	講	Ⅱ			
心 理 学 統 計 法 Ⅰ	1	演	Ⅱ			
心 理 学 統 計 法 Ⅱ	1	演	Ⅱ			
行 動 観 察 法	2	演	Ⅲ			
質 問 紙 調 査 法	2	演	Ⅳ			
実 験 研 究 法	2	演	Ⅲ			
教 育 心 理 学 実 験	1	実	Ⅴ			
学 校 心 理 学 応 用 研 究 Ⅰ	1	演	Ⅴ			
学 校 心 理 学 応 用 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅵ			

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、10単位以上を修得する。

（A学校心理S
A）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 行 動 実 践 演 習	2	演	Ⅳ		
発 達 過 程 実 践 演 習	2	演	Ⅴ		
教 育 相 談 実 践 演 習	2	演	Ⅴ		
発 達 心 理 学 (乳 幼 児 期)	2	講	Ⅰ		
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学	2	講	Ⅲ		
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2	講	Ⅳ		

(A学校心理SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
感 情 ・ 人 格 心 理 学	2	講	V		
神 経 ・ 生 理 心 理 学	2	講	VI		
学 校 臨 床 実 践 演 習	2	演	VI		

選択科目B(SB)

(A学校心理SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標 準 開 設 学 期	免 許 法 上 の 科 目	備 考 (対 象)
教 育 ・ 心 理 デ ー タ 解 析 法	2	演	III		
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	II		
教 育 ・ 学 校 心 理 学	2	講	I		
心 理 的 ア セ ス メ ン ト A	2	演	V		
学 習 ・ 言 語 心 理 学	2	講	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A学校心理SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標 準 開 設 学 期	専 攻 ・ 選 修	備 考 (対 象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	学校心理選修	

⑭ 国際教育

初等教育教員養成課程 国際教育選修〔A類 国際教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A国際教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 材 論	2	講	Ⅳ	大学独自（幼，小，中，高）	
カ リ キ ュ ラ ム 論	2	講	Ⅴ	大学独自（幼，小，中，高）	
国 際 教 育 臨 床	2	講演	Ⅲ	大学独自（幼，小，中，高）	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、16単位を必ず修得する。

（A国際教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 際 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
国 際 教 育 基 本 文 献 講 読	2	演	Ⅱ		
国 際 教 育 特 別 研 究	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 と プ ロ ジ ェ ク ト	2	講	Ⅳ		
異 文 化 間 心 理 学	2	講	Ⅳ		
比 較 教 育 思 想 論	2	講	Ⅲ		
国 際 教 育 政 策 論	2	講	Ⅳ		
国 際 教 育 交 流 史	2	講	Ⅲ		

選択科目A（SA）

「国際教育演習A～F」の中から3科目6単位以上を修得し、選択科目Aと選択科目Bを併せて12単位以上を修得する。

（A国際教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
国 際 教 育 演 習 A	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 B	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 演 習 C	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 D	2	演	Ⅵ		
国 際 教 育 演 習 E	2	演	Ⅴ		
国 際 教 育 演 習 F	2	演	Ⅵ		
Cross-cultural Ideas and Activities	2	講演	Ⅰ		
Cross-cultural Teaching Practice	2	講演	Ⅱ		

(A国際教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 教 育 史 特 講	2	講	VI		
比 較 教 育 学 研 究	2	講	V		
教 育 開 発 と 教 育 協 力	2	講	VI		
海 外 ・ 帰 国 児 童 生 徒 教 育 論	2	講	IV		
外 国 人 児 童 生 徒 教 育	2	講	VI		

選択科目B(SB)

(A国際教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
心 理 学 概 論	2	講	I		社会福祉士 (心理学理論と 心理的支援)	
心 理 学 統 計 法 I	1	演	II			
心 理 学 統 計 法 II	1	演	II			
人 間 理 解 の 心 理 学	2	講	II			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A国際教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	国際教育選修	

⑮ 情報教育

初等教育教員養成課程 情報教育選修〔A類 情報教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目から、4単位以上を修得する。

（A情報教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
教 育 情 報 化 教 材 論 A	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
教 育 情 報 化 教 材 論 B	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	
教 育 情 報 化 臨 床	2	講演	Ⅵ	大学独自(小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

（A情報教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
情 報 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小, 中, 高)	
授 業 に お け る ICT 活 用	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
情 報 教 育 概 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(小, 中, 高)	
情 報 数 学 基 礎	2	講演	Ⅰ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

（A情報教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	
ソ フ ト ウ ェ ア シ ス テ ム 概 論	2	講演	Ⅱ		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ハ ー ド ウ ェ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
社 会 情 報 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
社 会 情 報 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
社 会 情 報 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 A	1	演	Ⅴ		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ICT 教 授 学 習 支 援 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
情 報 教 育 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
情 報 教 育 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
情 報 教 育 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		

選択科目B(SB)

(A情報教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
知 覚 ・ 認 知 心 理 学	2	講	Ⅳ		
情 報 科 学 の た め の 微 分 積 分 Ⅰ	2	講演	Ⅰ		
情 報 科 学 の た め の 微 分 積 分 Ⅱ	2	講演	Ⅱ		
情 報 科 学 の た め の 線 形 代 数 Ⅰ	2	講演	Ⅰ		
情 報 科 学 の た め の 線 形 代 数 Ⅱ	2	講演	Ⅱ		
デ ー タ 分 析 の 基 礎 Ⅰ	2	講演	Ⅲ		
デ ー タ 分 析 の 基 礎 Ⅱ	2	講演	Ⅳ		
計 算 機 シ ス テ ム 概 説	2	講演	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ Ⅰ	2	講	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 Ⅰ	2	演	Ⅰ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ Ⅱ	2	講	Ⅱ		
プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 Ⅱ	2	演	Ⅱ		
応 用 プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	講演	Ⅲ		
数 値 計 算	2	講演	Ⅲ		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
計 算 機 科 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
計 算 機 科 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
計 算 機 科 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
対 話 メ デ ィ ア 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		
知 能 情 報 工 学 演 習 A	1	演	Ⅴ		
知 能 情 報 工 学 演 習 B	1	演	Ⅵ奇		
知 能 情 報 工 学 演 習 C	1	演	Ⅵ偶		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A情報教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	情報教育選修	

⑩ 環境教育

初等教育教員養成課程 環境教育選修〔A類 環境教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

（A環境教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 カ リ キ ュ ラ ム ・ 方 法 論	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
環 境 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A環境教育 S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
自 然 環 境 調 査 法 A	2	演	Ⅲ		
自 然 環 境 調 査 法 B	2	演	Ⅲ		
地 域 の 環 境 学 と 農 的 体 験 I	2	講演	Ⅳ		
環 境 と 産 業 社 会	2	講	Ⅱ		
地 球 環 境 論	2	講	I		
環 境 教 育 概 論	2	講演	Ⅱ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、14単位以上を修得する。

（A環境教育SA）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
環 境 教 育 実 習 I	2	演	Ⅲ (集中)		
環 境 教 育 実 習 II	2	演	Ⅳ		
環 境 教 育 演 習 I	2	演	V		
環 境 教 育 演 習 II	2	演	Ⅵ		
環 境 教 育 演 習 III	2	演	Ⅶ		
環 境 教 育 演 習 IV	2	演	Ⅷ		
社 会 環 境 調 査 法	2	講	Ⅳ		
地 域 の 環 境 学 と 農 的 体 験 II	2	講演	Ⅳ		
エ コ ス ク ー ル 論	2	講	Ⅳ		

(A環境教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
都 市 環 境 論	2	講	V		
環 境 問 題 研 究 A	2	講	V 奇		
環 境 問 題 研 究 B	2	講	V 偶		
植 物 進 化 生 態 学	2	講	IV		
環 境 保 全 生 態 学	2	講	I		
自 然 環 境 実 験 I	1	実	Ⅲ (集中)		
自 然 環 境 実 験 II	1	実	V		
地 球 環 境 論 演 習	2	演	II		
河 川 環 境 論	2	講	V		
博 物 館 と 展 示 の 活 用	2	講	IV		学芸員 (博物館展示論)
自 然 体 験 学 習 論	2	講	V		
自 然 体 験	2	講演	V		

選択科目B(SB)

(A環境教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
社 会 学 概 論	2	講	I	社会学	
法 学 政 治 学 概 論	2	講	II	法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む)	
地 理 学 概 論	2	講	I	地理学 人文地理学	
自 然 環 境	2	講	III	地理学 自然地理学	
物 理 学 実 験	1	実	I・II	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 実 験	1	実	I・II	化学実験(コンピュータ活用を含む)	
地 学 実 験	1	実	I・II	地学実験(コンピュータ活用を含む)	
生 物 学 実 験	1	実	I・II	生物学実験(コンピュータ活用を含む)	
化 学 概 論	2	講	I	化学	
生 物 学 概 論	2	講	III	生物学	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A環境教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	環境教育選修	

⑰ ものづくり技術

初等教育教員養成課程 ものづくり技術選修[A類 ものづくり技術]

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(Aものづくり技術専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
も の づ く り 教 育 と 教 材	2	講	Ⅳ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
も の づ く り 教 育 臨 床	2	講	Ⅲ	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、10単位を必ず修得する。

(Aものづくり技術S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
も の づ く り 技 術 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
工 業 数 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
工 業 物 理 学 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
情 報 と も の づ く り	2	講演	Ⅱ		
電 気 と も の づ く り	2	講演	Ⅳ		

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、18単位以上を修得する。

(Aものづくり技術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
基 礎 製 図	2	講実	Ⅰ	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 Ⅰ	3	講実	Ⅱ	金属加工(製図及び実習を含む) 工業	
栽 培	3	講実	Ⅲ	栽培(実習を含む)	
工 業 数 学 Ⅱ	2	講	Ⅱ		
工 業 物 理 学 Ⅱ	2	講	Ⅱ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅰ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅱ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅲ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅳ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅴ	2	講演	Ⅴ		
も の づ く り 特 別 演 習 Ⅵ	2	講演	Ⅴ		

選択科目B(SB)

(Aものづくり技術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
木 材 加 工 概 論	2	講	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 I	1	実	II	木材加工(実習を含む) 工業	
木 材 加 工 II	3	講実	III	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 II	2	講	IV	金属加工 工業	
機 械 工 学 の 基 礎	3	講実	IV	機械(実習を含む) 工業	
電 気 回 路	3	講実	III	電気(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 I	2	講演	III	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
職 業 指 導	2	講	V	職業指導	
近 現 代 社 会 と 技 術 ・ 職 業 教 育	2	講	VIII		
科 学 技 術 と 技 術 科 の 授 業	2	講	V	大学独自(中(技), 高(工))	
技 術 ・ 工 業 と 情 報	2	講演	II	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 II	2	講演	V 偶	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 III	2	講演	V 奇	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
計 算 機 ハ ー ド ウ ェ ア	2	講演	III	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校(工業) 使用不可
計 測 と 制 御	2	講演	VI	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校(工業) 使用不可
電 子 物 性 論	2	講	VI 奇	電気 工業	
情 報 処 理 特 別 演 習	2	講演	VI		
電 子 物 性 特 別 演 習	2	講演	VI		
熱 ・ 流 体 工 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
機 械 工 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
技 術 ・ 職 業 教 育 学 特 別 演 習	2	講演	VI		
加 工 ・ も の づ く り 特 別 演 習	2	講演	VI		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(Aものづくり技術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VII VIII	ものづくり技術選修	

⑮ 幼児教育

初等教育教員養成課程 幼児教育選修〔A類 幼児教育〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

（A幼児教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
保 育 者 論	2	講	Ⅵ	大学独自（幼）	
乳 幼 児 心 理 学	2	講	Ⅰ	大学独自（幼）	
幼 児 教 育 学	2	講	Ⅰ	大学独自（幼）	
幼 児 の 健 康 指 導 研 究	2	講	Ⅶ	大学独自（幼）	

幼稚園の教科に関する専門的事項（SK）

下記の授業科目は必修なので、16単位を必ず修得する。

（幼 教）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 表 現 Ⅰ	2	演	Ⅰ	音楽	
ピ ア ノ 基 礎 Ⅰ	2	演	Ⅲ	音楽	
保 健 体 育 Ⅰ	2	演	Ⅰ	体育	
保 健 体 育 Ⅱ	2	演	Ⅳ	体育	
美 術 Ⅰ	2	演	Ⅰ	図画工作	
美 術 Ⅱ	2	演	Ⅲ	図画工作	
国 語 科 研 究	2	講	Ⅴ	国語（書写を含む）	
生 活 科 研 究	2	講	Ⅴ・Ⅵ	生活	

専攻に関する科目

必修科目（S）

下記の授業科目は必修なので、14単位を必ず修得する。

（A幼児教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
幼 児 教 育 選 修 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
乳 児 保 育 Ⅰ	2	講	Ⅰ		
保 育 原 理	2	講	Ⅳ	大学独自（幼）	
子 ど も 家 庭 支 援 の 心 理 学	2	講	Ⅵ		
幼 児 体 育 特 講	2	演	Ⅴ	保育内容「健康」	
保 育 内 容 総 論	2	演	Ⅳ		
幼 児 教 育 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自（幼）	

選択科目A(SA)

選択科目Aから10単位以上を修得し、選択科目Bと併せて18単位以上を修得する。

(A幼児教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
音 楽 表 現 II	2	演	II		
総 合 音 楽 表 現	2	演	VI	保育内容「表現」	
幼 児 心 理 学 演 習 I	2	演	IV		
幼 児 心 理 学 演 習 II	2	演	V		
子 ど も 家 庭 支 援 論	2	講	II		
子 ど も の 健 康 と 安 全	2	演	III		
障 害 児 保 育	2	演	III		
保 育 臨 床 相 談	2	演	VII		
ピ ア ノ 基 礎 II	2	演	IV		
ピ ア ノ 表 現 演 習	2	演	V		
幼 児 の 身 体 表 現	2	演	V	保育内容「表現」	
乳 児 保 育 II	2	演	II		
社 会 的 養 護 I	2	講	II		
社 会 的 養 護 II	2	演	IV		
小 児 栄 養 演 習	2	演	II		
保 育 実 習 I	2	実	IV (集中)		
保 育 実 習 II	2	実	VI (集中)		
保 育 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導	2	演	III		
保 育 実 習 III	2	実	VII (集中)		

選択科目B(SB)

(A幼児教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
社 会 福 祉 原 論 I	2	講	I		社会福祉士 (現代社会と福祉)	
児 童 福 祉 論	2	講	III		社会福祉士 (児童や家庭に対する 支援と児童・家庭 福祉制度)	
発 達 心 理 学 (乳 幼 児 期)	2	講	I			

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(A幼児教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	幼児教育選修	

⑪ 技術

中等教育教員養成課程 技術専攻〔B類 技術〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

（B技術専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
科 学 技 術 と 技 術 科 の 授 業	2	講	V	大学独自(中(技), 高(工))	
技 術 ・ 工 業 と 情 報	2	講演	II	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
も の づ く り 教 育 と 教 材	2	講	IV	大学独自(幼, 小, 中, 高)	
も の づ く り 教 育 臨 床	2	講	III	大学独自(幼, 小, 中, 高)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、31単位を必ず修得する。

（B技術S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
技 術 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
基 礎 製 図	2	講実	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 概 論	2	講	I	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
木 材 加 工 I	1	実	II	木材加工(実習を含む) 工業	
金 属 加 工 I	3	講実	II	金属加工(製図及び実習を含む) 工業	
機 械 工 学 の 基 礎	3	講実	IV	機械(実習を含む) 工業	
工 業 数 学 I	2	講	I		
工 業 数 学 II	2	講	II		
工 業 物 理 学 I	2	講	I		
工 業 物 理 学 II	2	講	II		
電 気 回 路	3	講実	III	電気(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 I	2	講演	III	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
栽 培	3	講実	III	栽培(実習を含む)	
職 業 指 導	2	講	V	職業指導	

選択科目A(SA)

選択科目A及び選択科目Bの授業科目から、併せて21単位以上を修得する。

(B技術SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
木 材 加 工 II	3	講実	Ⅲ	木材加工(製図及び実習を含む) 工業	
金 属 加 工 II	2	講	Ⅳ	金属加工 工業	
電 磁 波 概 論	2	講	Ⅳ	電気(実習を含む) 工業	
電 子 工 学 概 論	2	講演	Ⅵ	電気 工業	
半 導 体 概 論	2	講	Ⅵ偶	電気 工業	
電 子 物 性 論	2	講	Ⅵ奇	電気 工業	
電 子 物 性 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
応 用 情 報 処 理 II	2	講演	Ⅴ偶	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 III	2	講演	Ⅴ奇	情報とコンピュータ(実習を含む) 工業	
応 用 情 報 処 理 IV	2	講演	Ⅶ		
情 報 処 理 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
機 械 工 学 A I	2	講	Ⅳ	機械 工業	
機 械 工 学 A II	2	講演	Ⅴ	機械 工業	
機 械 工 学 B	2	講	Ⅵ	機械 工業	
流 体 力 学	2	講	Ⅴ		
熱・流体工学特別演習	2	講演	Ⅵ		
近現代社会と技術・職業教育	2	講	Ⅷ		
技術・職業教育学特別演習	2	講演	Ⅵ		
機 械 工 学 特 別 演 習	2	講演	Ⅵ		
加 工・ものづくり特別演習	2	講演	Ⅵ		

選択科目B(SB)

(B技術SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
自 然 科 学 の た め の 数 学 A	2	講	Ⅰ		
自 然 科 学 の た め の 数 学 B	2	講	Ⅱ		
計 算 機 ハ ー ド ウ ェ ア	2	講演	Ⅲ	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校 (工業)使用不可
計 測 と 制 御	2	講演	Ⅵ	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む)	中(技術)、高校 (工業)使用不可
物 理 数 学 I	2	講	Ⅲ		
物 理 数 学 II	2	講	Ⅳ		
情 報 メ デ ィ ア 論	2	講演	Ⅳ	大学独自(小, 中, 高)	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B技術SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	技術専攻	

②〇 書道

中等教育教員養成課程 書道専攻〔B類 書道〕

教科・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

(B書道専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
書 道 科 と 情 報	2	演	Ⅱ	大学独自(高(書))	
書 道 科 教 材 論 Ⅰ	2	演	Ⅳ	大学独自(高(書))	
書 道 科 教 材 論 Ⅱ	2	演	Ⅵ	大学独自(高(書))	
書 道 科 カ リ キ ュ ラ ム ・ 評 価 論	2	講	Ⅱ	大学独自(高(書))	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、40単位を必ず修得する。

(B書道S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
書 道 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	Ⅰ		
漢 字 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅰ	書道(書写を含む)	
漢 字 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅲ	書道(書写を含む)	
仮 名 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅰ	書道(書写を含む)	
漢 字 仮 名 交 じ り 研 究 Ⅰ	2	演	Ⅱ	書道	
篆 刻 ・ 刻 字	2	演	Ⅱ	書道	
日 本 語 文 法	2	講	Ⅲ	国語学	
書 道 史 研 究 Ⅰ	2	講	Ⅱ	書道史	
書 道 史 研 究 Ⅱ	2	講	Ⅲ	書道史	
書 論 研 究	2	演	Ⅵ	書論	
書 学	2	講	Ⅳ	書論	
日 本 語 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 語 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国語学(音声言語, 文章表現を含む)	
日 本 文 学 概 論 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学	
日 本 文 学 概 論 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学	
日 本 文 学 史 Ⅰ	2	講	Ⅰ	国文学(国文学史を含む)	
日 本 文 学 史 Ⅱ	2	講	Ⅱ	国文学(国文学史を含む)	
中 国 古 典 文 基 礎	2	講	Ⅱ	漢文学	
中 国 古 典 文 学 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	
中 国 古 典 文 献 概 論	2	講	Ⅰ	漢文学	

選択科目A(SA)

選択科目Aから、※印の授業科目「漢字研究Ⅲ」「仮名研究Ⅱ」「書作品制作研究」「中学書写B」の4科目8単位を必ず修得し、更に、選択科目A及び選択科目Bの◎印の授業科目の中から3科目6単位以上を含めて、14単位以上を修得する。

(B書道SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
漢 字 研 究 Ⅲ	2	演	Ⅳ	書道	※
仮 名 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅲ	書道	※
漢 字 仮 名 交 じ り 研 究 Ⅱ	2	演	Ⅳ	書道	
書 作 品 制 作 研 究	2	演	Ⅵ	書道	※
中 学 書 写 B	2	講実	Ⅳ	書道(書写中心)(中免のみ)	※
中 国 古 典 演 習 A	2	演	Ⅲ	漢文学	◎
中 国 古 典 演 習 B	2	演	Ⅳ	漢文学	◎
書 写 ・ 書 道 教 育 史	2	講	Ⅳ (集中)		
書 道 史 研 究 Ⅲ	2	講	Ⅵ (集中)	書道史	
書 学 Ⅱ	2	演	Ⅵ		
書 鑑 賞 教 育 研 究	2	講	Ⅴ (集中)	書道	
書 鑑 賞 研 究	2	講演	Ⅳ奇 (集中)		
近 代 文 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国文学	◎
近 代 文 学 演 習 B	2	演	Ⅲ	国文学	◎
近 代 文 学 演 習 C	2	演	Ⅳ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
近 代 文 学 演 習 D	2	演	Ⅳ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
古 典 文 学 演 習 E	2	演	Ⅲ	国文学(中高(国語)のみ)	◎
古 典 文 学 演 習 F	2	演	Ⅲ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 G	2	演	Ⅲ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 H	2	演	Ⅳ	国文学	◎
古 典 文 学 演 習 I	2	演	Ⅳ	国文学	◎

選択科目B(SB)

(B書道SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
日 本 語 学 演 習 A	2	演	Ⅲ	国語学	◎
日 本 語 学 演 習 B	2	演	Ⅳ	国語学	◎

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(B書道SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	ⅦⅧ	書道専攻	

特別支援教育教員養成課程〔C類〕

教科・教職に関する科目(専攻SE)

下記の授業科目から、「特別な教育的ニーズの理解と支援」を含めて、2科目4単位以上を修得する。

(C特別支援教育専攻SE)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
特 別 支 援 教 育 と 情 報	2	講演	Ⅱ	大学独自(小・中)	
特 別 支 援 教 育 臨 床	2	演	Ⅱ	大学独自(小・中)	
特別な教育的ニーズの理解と支援	2	演	V	教職・発達	必修
○ 取得希望教科に対応する 「大学が独自に設定する科目」	2科目4単位			大学独自	中免

◎基礎となる免許状取得のための履修方法

(小免コース)

小免コースは、基礎となる免許状として「小学校教諭一種免許状」を必ず修得する。そのために「教科に関する専門的事項(SP)」から**指定修得単位数の科目10単位**(p.57参照),及び必修指定以外の「教科に関する専門的事項(SP)」,卒業基準を超えて修得する「共通SE」,「専攻SE」から**6単位以上,の合計16単位以上**を修得する。

(中免コース)

中免コースは、基礎となる免許状として希望する教科の「中学校教諭一種免許状」を必ず修得する。そのために希望する教科の「教科に関する専門的事項」から20単位以上修得し、取得する各免許教科に対応した「大学が独自に設定する科目」と併せて**24単位以上**を修得する。

なお、「教科に関する専門的事項」はC類対象としては開設されないので、中学校免許状取得に必要な科目は、後出の「教育職員免許 状取得に必要な単位及び履修方法」に定められている必修科目を含め、各教科の「専攻に関する科目」から選択履修すること。

専攻に関する科目

各専攻共通

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、26単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
特 別 支 援 教 育 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I		
特 別 支 援 教 育 概 論	2	講	I	特別支援(基礎理論)	
聴覚言語障害心理・生理・病理A	2	講	Ⅱ	特別支援(聴覚障害)	
聴覚言語障害心理・生理・病理B	2	講	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)	
知的障害心理・生理・病理	2	講	I	特別支援(知的障害)	
肢体不自由心理・生理・病理	2	講	Ⅲ	特別支援(肢体不自由)	
病弱心理・生理・病理	2	講	Ⅲ	特別支援(病弱者)	
聴覚言語障害教育学A	2	講	I	特別支援(聴覚障害)	
聴覚言語障害教育学B	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
知的障害教育学	2	講	Ⅱ	特別支援(知的障害)	
肢体不自由教育学	2	講	Ⅳ	特別支援(肢体不自由)	
病弱教育学	2	講	Ⅳ	特別支援(病弱者)	
特 別 支 援 教 育 研 究 法	2	講	Ⅵ		

聴覚障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
聴 覚 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)	
聴 覚 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(聴覚障害)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

言語障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
言 語 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	
言 語 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(重複・LD)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

発達障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
発 達 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(知的障害)	
発 達 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(知的障害)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

学習障害教育専攻

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、12単位を必ず修得する。

(C特別支援教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考(対象)
学 習 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	
学 習 障 害 児 教 育 演 習	2	演	Ⅶ	特別支援(重複・LD)	
障 害 児 教 育 総 論	2	講	Ⅱ	特別支援(領域外)	共通開設
重 複 障 害 教 育 総 論	2	講	Ⅳ	特別支援(重複・LD)	共通開設

各専攻共通

選択科目A(SA)

下記の授業科目から、専攻ごとの履修方法により6単位以上を修得する。

聴覚障害教育専攻、発達障害教育専攻は、「言語障害」「学習障害」の領域から1科目2単位ずつ、計4単位を含めて、修得する。

言語障害教育専攻は「学習障害」の領域から、学習障害教育専攻は「言語障害」の領域から1科目2単位を含めて、修得する。

(C特別支援教育SA)

領 域	授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
聴 覚 障 害	聴 覚 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
	聴 覚 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
	聴 覚 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(聴覚障害)		聴覚 不可
言 語 障 害	言 語 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
	言 語 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
	言 語 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)		言語 不可
発 達 障 害	発 達 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)		発達 不可
	発 達 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(知的障害)		発達 不可
	発 達 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(知的障害)		発達 不可
学 習 障 害	学 習 障 害 教 育 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
	学 習 障 害 心 理 学 特 論	2	講	Ⅲ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
	学 習 障 害 指 導 法	2	演	Ⅳ	特別支援(重複・LD)		学習 不可
そ の 他	障 害 者 福 祉 論	2	講	Ⅳ		社会福祉士 (障害者に対する支援と 障害者自立支援制度)	

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(C特別支援教育SZ)

授 業 科 目				単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	聴覚障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	言語障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	発達障害教育専攻	
卒	業	研	究	④	VIIⅧ	学習障害教育専攻	

養護教育教員養成課程 養護教育専攻〔D類 養護教育〕

養護・教職に関する科目（専攻SE）

下記の授業科目は必修なので、8単位を必ず修得する。

（D養護教育専攻SE）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
健 康 教 育 概 説	2	講	V	大学独自(養護)	
健 康 調 査 の 理 論 と 演 習 I	2	講演	VI	大学独自(養護)	
健 康 調 査 の 理 論 と 演 習 II	2	講演	VI	大学独自(養護)	
養 護 活 動 論	2	講	III	大学独自(養護)	

専攻に関する科目

必修科目(S)

下記の授業科目は必修なので、47単位を必ず修得する。

（D養護教育S）

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
養 護 教 育 専 攻 入 門 セ ミ ナ ー	2	講	I			
衛 生 ・ 公 衆 衛 生 学	2	講	II	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)		
保 健 行 動 科 学	2	講	III	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む)		
小 児 科 学	2	講	IV	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
学 校 安 全 と 危 機 管 理	2	講	III	学校保健(学校安全を含む)		
養 護 概 説	2	講	II	養護概説		
健 康 相 談 活 動 の 理 論 と 方 法	2	講演	VI	健康相談活動の理論及び方法		
健 康 と 栄 養	2	講	IV	栄養学(食品学を含む)		
解 剖 学	2	講	I	解剖学及び生理学 生理学(中高 保健)		
生 理 学	2	講	II	解剖学及び生理学 生理学(中高 保健)		
感 染 免 疫 学	2	講	III	微生物学 免疫学 薬理概論		
薬 理 学	2	講	III	微生物学 免疫学 薬理概論		
精 神 保 健 学 概 論	2	講	IV	精神保健	スクール(学校)ソーシャル ワーカー (精神保健の課題と支援)	
臨 床 医 学 I	2	講	III	看護学(救急処置を含む)		
臨 床 医 学 II	2	講	IV	看護学(救急処置を含む)		
学 校 保 健 学	2	講	II	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
救 急 処 置 の 理 論 と 演 習	2	講演	V	学校保健(救急処置を含む)		
学 校 保 健 基 礎 セ ミ ナ ー	2	講	I	学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 I	2	講演	IV	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 II	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 III	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)		
学 校 看 護 学 理 論 と 演 習 IV	2	講演	VI	看護学(救急処置を含む)		

(D養護教育S)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
臨 床 実 習 I	1	実	V (集中)	看護学(臨床実習及び救急処置を含む)	
臨 床 実 習 II	2	実	VI (集中)	看護学(臨床実習及び救急処置を含む)	

選択科目A(SA)

選択科目Aから6単位以上を修得し、選択科目Bと併せて10単位以上を修得する。

(D養護教育SA)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	備考 (対象)
学 校 看 護 学 概 論	2	講	III	健康相談活動の理論及び方法	
小 児 ・ 思 春 期 保 健 学	2	講	IV	学校保健(小児保健, 精神保健を含む)	
歯 科 保 健	2	講	VI	看護学(救急処置を含む)	
人 間 の 性 と 健 康	2	講	III	学校保健(小児保健, 精神保健を含む)	
病 弱 児 障 害 児 養 護 学	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	2	講演	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 III	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 IV	2	講	V	看護学(救急処置を含む)	
臨 床 医 学 V	2	講	VI	学校保健(小児保健, 救急処置を含む)	
養 護 実 践 学	2	講	VII	養護概説	
健 康 支 援 ネットワーキング論 (外 国 語 活 用 科 目)	2	講演	VII	衛生学及び公衆衛生学 (予防医学を含む)	
精 神 保 健 学 各 論	2	講	V	精神保健	

選択科目B(SB)

(D養護教育SB)

授 業 科 目	単 位 数	講 演 実	標準開設 学期	免許法上の科目	諸資格	備考 (対象)
児 童 福 祉 論	2	講	III		社会福祉士 (児童や家庭に対する支援 と児童・家庭福祉制度)	
地 域 福 祉 論 I	2	講	IV		社会福祉士 (地域福祉の理論と方法)	
ス ク ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論	2	講	VI		スクール(学校) ソーシャルワーカー	
特 別 支 援 教 育 概 論	2	講	I	特別支援(基礎理論)		

卒業研究(SZ)

下記の授業科目は必修なので、4単位を必ず修得する。

(D養護教育SZ)

授 業 科 目	単 位 数	標準開設 学期	専攻・選修	備考 (対象)
卒 業 研 究	④	VIIⅧ	養護教育専攻	

21

学校教育系学生のための 教員免許状の取得方法

2 1 学校教育系学生のための教員免許状の取得方法

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	134
(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	136
(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	138
(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法	139
(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」、 「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法（教科別）	
・ 中学校教諭一種免許状（国語）	140
・ 高等学校一種免許状（国語）	141
・ 中学校教諭一種免許状（社会）	142
・ 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	143
・ 高等学校教諭一種免許状（公民）	143
・ 中学校教諭一種免許状（数学）	144
・ 高等学校教諭一種免許状（数学）	145
・ 中学校教諭一種免許状（理科）	146
・ 高等学校教諭一種免許状（理科）	147
・ 中学校教諭一種免許状（音楽）	148
・ 高等学校教諭一種免許状（音楽）	149
・ 中学校教諭一種免許状（美術）	150
・ 高等学校教諭一種免許状（美術）	151
・ 高等学校教諭一種免許状（工芸）	152
・ 中学校教諭一種免許状（保健体育）	154
・ 高等学校教諭一種免許状（保健体育）	155
・ 中学校教諭一種免許状（保健）	156
・ 高等学校教諭一種免許状（保健）	157
・ 中学校教諭一種免許状（家庭）	158
・ 高等学校教諭一種免許状（家庭）	159
・ 中学校教諭一種免許状（技術）	160
・ 高等学校教諭一種免許状（工業）	161
・ 中学校教諭一種免許状（英語）	162
・ 高等学校教諭一種免許状（英語）	163
・ 高等学校教諭一種免許状（書道）	164
(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について	165
(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法	170
(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法	172

(1) 幼稚園教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類幼児教育選修の学生の履修方法(主免許)

②幼児教育選修を除くA類学生(C類小免コース含む)の履修方法

③小学校教諭普通免許状を取得せずに幼稚園教諭普通免許状を取得するB類学生(C類中免コース含む)の履修方法
(B類学生であっても、小学校教諭免許状取得予定者は、②と同じ単位の修得方法となります。)

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備 考
			科目名等	単位	履修方法	①	②	③	
領域及び 保育内容 の指導法 に関する 科目	領域に 関する専門 的事項 (小学校の 教科に関 する専門 的事項)	国語 (書写含む。)	国語科研究	2	A類(SP), 幼児教育 (SK)から修得する	2	p.135 表1	2	
		算 数	算数科研究	2				2	
		生 活	生活科研究	2		2		2	
		音 楽	音楽科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
		図 画 工 作	図画工作科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
		体 育	体育科研究Ⅰ・Ⅱ	各1				2	
			その他, 上記以外の幼教(SK)			12			
	保育内容 の指導法 (情報機 器及び教 材の活用 を含む。)	健康	保育内容「健康」	2	小免取得者は7単位 以上, 小免取得者以 外の者は5領域を満 たし14単位以上修 得	2	8	14	(*注1)
		環境	保育内容「環境」	2		2			
		人間関係	保育内容「人間関係」	2		2			
		言葉	保育内容「言葉」	2		2			
		表現	保育内容「表現A～C」	各2		6			
		健康	幼児体育特講	2		2			
		表現	総合音楽表現	2					
		表現	幼児の身体表現	2					
	教育の基 礎的理解 に関する 科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2			
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び 思想	教育の理念と歴史	2	必修	2			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程	教育心理学	2	必修	2			
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び 生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2			
教育に関する社会的、制度的又は経営 的事項(学校と地域との連携及び学校安全 への対応を含む。)		教育組織論	2	必修	2				
道徳、総 合的な学 習の時間 等の指導 法及び生 徒指導、 教育相談 等に関する 科目	教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)	保育・幼児教育課程総論	2	必修	2	2	2		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教 材の活用を含む。)	初等教育の内容と方法	2	必修	2		2		
	幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法	2	必修	2	2	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎 的な知識を含む。)	教育相談の理論と方法	2	必修	2				
教育実践 に関する 科目	教育実習	幼稚園教育実習	5	必修	5			p.50～参照	
		小学校教育実習(Z)	2	必修			2 (※注2)		
		教職実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	必修	2			
大学が独自に設定する科目			後述の(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.165～)に記載の科目の中から、幼稚園の欄に○がついているものを14単位修得する。 p.135表2により、各自必要単位数を確認すること。						
合 計						71	26	48	

(*注1) 保育内容の指導法は5領域(健康・環境・人間関係・言葉・表現)にわたって履修することが望ましい。ただし、小学校教諭
免許状取得者は半数までを小学校の各教科の指導法または特別活動に関する科目をもってあてることができる。

(*注2) B類学生(C類中免コース含む)が幼稚園教諭免許状を取得する場合の教育実習は小学校教育実習(Z)です。
小学校教育実習(Z)を受講する前学期終了時までに「初等各教科教育法」3科目6単位以上を修得している必要
があります。p.53参照

※「大学が独自に設定する科目」には、他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

前頁「②幼児教育選修を除くA類学生(C類小免コース含む)の履修方法」の補足説明

表1及び表2で計算することにより、「保育内容の指導法」の必要単位数が確認できるとともに、余剰科目数を把握することで、幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を知ることができる。

【表1】幼稚園免許に使用できる小学校の教科に関する専門的事項(SP)

免許法上の科目区分		本学の授業科目名	単位	取得した(する)単位数
小学校の教科に関する専門的事項	国語(書写を含む)	国語科研究	2	
	算数	算数科研究	2	
	生活	生活科研究	2	
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	
	体育	体育科研究Ⅰ	1	
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1	
	体育	体育科研究Ⅱ	1	
幼稚園免許に使用できる小学校の教科に関する専門的事項(SP)				合計 単位

※

①【表1】から、幼稚園免許に使用できる「小学校の教科に関する専門的事項(SP)」の単位数を確認する。

②次に、①の合計単位数を、【表2】②に記入する。

③【表2】の計算式では、まず③「保育内容の指導法」の必要単位数を求めることができる。また、⑧余剰単位数を知ること、幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の必要単位数を確認することができる。なお、履修すべき科目については、p.165の一覧のうち「幼稚園」欄に○が付いているものを選択すること。

【表2】幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の単位数

科目区分	単位数
①「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の法定必要単位数	16
②「小学校の教科に関する専門的事項(SP)」のうち幼稚園に使用できる単位数(国、算、生、音、図、体)	※ 単位
③「保育内容の指導法」の必要単位数(①－②)	
④うち半数振替分(初等各教科指導法)(③の1/2)	注1
⑤うち「保育内容の指導法」の単位数(③の1/2)	注2
⑥本学カリキュラムで定める「保育内容の指導法」の単位数	8
⑦「大学が独自に設定する科目」の法定必要単位数	14
⑧「保育内容の指導法に関する科目」の余剰分(⑥－⑤)	
幼稚園免許の取得に必要な「大学が独自に設定する科目」の単位数(⑦－⑧)	合計 単位

注1 「④うち半数振替分(初等各教科指導法)(③の1/2)」は、小数点以下は切り下げ。

注2 「⑤うち「保育内容の指導法」の単位数(③の1/2)」は、小数点以下は切り上げ。

(2) 小学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①A類(幼児教育選修を除く)学生、C類小免コースの履修方法(主免許)

②A類幼児教育選修が、小学校教諭普通免許状を取得する場合の履修方法

③B類生(C類中免コース)の学生が、小学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分			本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)				備 考
			科目名等	単位	履修方法	①	②	③	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語(書写含む)	国語科研究	2	A類(SP)から修得する	p.57参照			別表参照
		社会	社会科研究	2			2		
		算数	算数科研究	2			2		
		理科	理科研究	2			2		
		生活	生活科研究	2					
		家庭	家庭科研究	2			2		
		外国語	英語科研究	2			2		
		音楽	音楽科研究Ⅰ・Ⅱ	各1	10～18		10～18		
		図画工作	図画工作科研究Ⅰ・Ⅱ	各1					
	体育	体育科研究Ⅰ・Ⅱ	各1						
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語(書写含む)	初等国語科教育法	2	10教科20単位必修	2	2	2	
		社会	初等社会科教育法	2		2	2	2	
		算数	初等算数科教育法	2		2	2	2	
		理科	初等理科教育法	2		2	2	2	
		生活	初等生活科教育法	2		2	2	2	
		家庭	初等家庭科教育法	2		2	2	2	
		外国語	初等英語科教育法	2		2	2	2	
		音楽	初等音楽科教育法	2		2	2	2	
		図画工作	初等図画工作科教育法	2		2	2	2	
体育		初等体育科教育法	2	2		2	2		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2				
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2				
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2				
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2				
	教育に関する社会時、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	2	2			
	特別活動の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2	2			
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2	必修					
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	初等教育の内容と方法	2	必修	2		2		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2	2			
	生徒指導の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2				
教育実践に関する科目	教育実習	小学校教育実習(A)	5	必修	5			p.50参照	
		小学校教育実習(Z)	2	必修			2		
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2				
大学が独自に設定する科目			後述の(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.165～)に記載の科目の中から、小学校の欄に○がついているものを2単位修得する。						
合 計						59～67	38	36～44	

※「大学が独自に設定する科目」には、「教科に関する専門的事項」の余剰科目分をあてることができる。

【別表】

OB類生の小学校の教科に関する専門的事項(SP)専攻別履修方法一覧

免許法上の科目区分	本学の授業科目		修得単位数							
	科目名	単位	B国語	B社会	B数学	B理科	B音楽	B美術	B保体	B家庭
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	社会	社会科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	算数	算数科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	理科	理科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	生活	生活科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	家庭	家庭科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	外国語	英語科研究	2	2	2	2	2	2	2	2
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1	1	1	1	1
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	}	}	}	}	1	1	}
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1					1	1	
	体育	体育科研究Ⅱ	1					1	1	
修得単位数			16	16	16	16	18	18	18	16

免許法上の科目区分	本学の授業科目		修得単位数			
	科目名	単位	B英語	B技術	B書道	C類(中免)
教科に関する専門的事項	国語(書写を含む。)	国語科研究	2			2
	社会	社会科研究	2	2	2	
	算数	算数科研究	2	2	2	
	理科	理科研究	2	2	2	
	生活	生活科研究	2		2	
	家庭	家庭科研究	2		2	2
	外国語	英語科研究	2	2	2	2
	音楽	音楽科研究Ⅰ	1	1	1	1
	図画工作	図画工作科研究Ⅰ	1	1	1	1
	体育	体育科研究Ⅰ	1	1	1	1
	音楽	音楽科研究Ⅱ	1	}	}	}
	図画工作	図画工作科研究Ⅱ	1			
	体育	体育科研究Ⅱ	1			
修得単位数			16	12	16	10

(3) 中学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類生(C類小免コース)及びD類生が中学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)			備 考	
		科目名等	単位	履修方法	①	②		
					B類	A類 D類 C小免		A幼
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	専攻科目の中で、免許法上の科目区分がされている授業科目		免許法上の必修科目を含め修得(p.140～)	20単位以上修得			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ	2	取得する免許状の教科毎に8単位必修(p.46～)	2			
		中等各教科教育法Ⅱ	2		2			
		中等各教科教育法Ⅲ	2		2			
中等各教科教育法Ⅳ		2	2					
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2			
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	2		2	()はD類修得済み
	特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		2	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	中等教育の内容と方法	2	必修	2	2(0)	2	
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2		2	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2			
教育実践に関する科目	教育実習	中学校教育実習(B)	5	必修	5			()はD類詳細はp.50参照
		中学校教育実習(Z)or(D)	2(5)	必修		2(5)	2	
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2	(2)		()はD類
大学が独自に設定する科目		後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.165～)に記載の科目の中から、中学校の欄に○がついているものを4単位修得する。 (教科名が記載されている科目は取得する免許教科のものを修得する)						
合 計					59	36(39)	42	()はD類

(4) 高等学校教諭の普通免許状を取得する場合の履修方法

①B類学生の履修方法(主免許)

②A類生(C類小免コース)及びD類生が高等学校教諭普通免許状を選択で取得する場合の履修方法

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		新規修得単位等(一種)			備 考
		科目名等	単位	履修方法	①	②	
					B類	A・D類 C小免 A幼	
教科及び 教科の指 導法に関 する科目	教科に関する専門的事項	専攻科目の中で、免許法上の科目区分がされている授業科目		免許法上の必修科目を含め修得(p.140～)	20単位以上 修得		
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	中等各教科教育法Ⅰ	2	取得する免許状の教科毎に8単位必修(p.46～)	2		
		中等各教科教育法Ⅱ	2		2		
		中等各教科教育法Ⅲ	2		2		
		中等各教科教育法Ⅳ	2		2		
教育の基 礎的理解 に関する 科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	2		
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	2		
道徳、総合 的な学習の 時間等の 指導法 及び 生徒指導、 教育相談 等に関する 科目	特別活動の指導法 総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	中等教育の内容と方法	2	必修	2	2(0)	()はD類 修得済み
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	2		
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	2		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談の理論と方法	2	必修	2		
教育実践 に関する科 目	教 育 実 習	中学校教育実習(B)	5	必修	5		()はD類 詳細はp.50 参照
		中学校教育実習(Z)or(D)	2(5)	必修		2(5)	
	教職実践演習	教職実践演習(小・中・高)	2	必修	2	(2)	()はD類
大学が独自に設定する科目		後述(6)各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目について」(p.165～)に記載の科目の中から、高等学校の欄に○がついているものを12単位修得する。 (教科名が記載されている科目は取得する免許教科のものを修得する)					
合 計					65	44(47)	48 ()はD類

※ 「教科に関する専門的事項」は、p.140～に記載されている教科毎の必修科目を必ず修得し、20単位を満たさず不足分がある場合は「免許法上の科目」として取得免許に必要な同一の教科が記載されている科目から修得する。

※ 各教科の指導法は、取得を希望する教科の指導法4科目8単位を修得する。(p.46～)

ただし、地理歴史は「中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱ」、公民は「中等社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」、

工芸は「中等工芸科教育法Ⅰ・Ⅱ」、工業は「工業科教育法」、書道は「書道科教育法Ⅰ・Ⅱ」の2科目4単位を修得する。

※ 「大学が独自に設置する科目」には、他の科目区分の余剰科目分をあてることができる。

※ 「道徳教育の指導法」は高免取得に際しては、「大学が独自に設定する科目」の一つとして数えられる。

※ C類中免コースの学生は、大学が独自に設定する科目(12単位)の履修に注意すること。

(5) 中学校・高等学校教諭各種免許状取得に必要な「教科に関する専門的事項」、「各教科の指導法」及び「大学が独自に設定する科目」の履修方法

中学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章 表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A・B国S B書S	中高(国語)
	日本語学概論Ⅱ	2		
	日本語文法	2	A国SA B国S B書S	
国文学(国文学史を含む。)	日本文学史Ⅰ	2	A・B国S B書S	
	日本文学史Ⅱ	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
漢文学	中国古典文基礎	2	A・B国S B書S	
	中国古典文学概論	2	B国S B書S	
	中国古典文献概論	2		
書道(書写を中心とする。)	中学書写A } 中学書写B } 1科目選択	} 2	A国S B国S B書S	中(国語)のみ
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(国語)
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合	計	30		

①上記30単位を全部修得する。

②更にA類国語, B類国語に開設している中学校(国語)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(国語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, **併せて32単位以上修得**する必要がある。

(計算式 ①30単位(28+2) + ②2単位以上 ≥ 32単位)
4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(国語)の「教科に関する専門的事項」の категория は, 「国語学」「国文学」「漢文学」及び「書道」である。

※「教科に関する専門的事項」の категория は開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(国語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
国語学(音声言語及び文章 表現に関するものを含む。)	日本語学概論Ⅰ	2	A・B国S B書S	中高(国語)
	日本語学概論Ⅱ	2		
	日本語文法	2	A国SA B国S B書S	
国文学(国文学史を含む。)	日本文学史Ⅰ	2	A・B国S B書S	
	日本文学史Ⅱ	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
漢文学	中国古典文基礎	2	A・B国S B書S	
	中国古典文学概論	2	B国S B書S	
	中国古典文献概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等国語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(国語)
	中等国語科教育法Ⅱ	2		
	中等国語科教育法Ⅲ	2		
	中等国語科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類国語、B類国語に開設している高等学校(国語)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(国語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上、併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①28単位(24+4) + ②8単位以上 ≥ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(国語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「国語学」「国文学」「漢文学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(社会)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
日本史及び外国史	日本史概論	2	A・B社S	中(社会) 高(地歴)
	東洋史概論	2	A社SA B社S	
	西洋史概論	2		
地理学(地誌を含む。)	地理学概論	2	A・B社S	
	自然環境	2	A社SA B社S	
	地誌学概論	2		
「法学, 政治学」	法学政治学概論	2	A・B社S	中(社会) 高(公民)
「社会学, 経済学」	社会学概論	2	A社SA B社S	
	経済学概論	2	A社SA B社S	
「哲学, 倫理学, 宗教学」	哲学・倫理学概論	2	A社SA B社S	
	哲学と宗教	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中(社会) 高(地歴) 高(公民)
	中等社会科教育法Ⅱ	2		
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	① 4 ①または② の組み合わせを修得		
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ			
	中等社会科・公民科教育法Ⅰ			
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ			
合 計	30			

①上記30単位を全部修得する。

②更にA類社会, B類社会に開設している中学校(社会)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(社会)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, **併せて32単位以上修得する**必要がある。

(計算式 ①30単位(28+2) + ②2単位以上 ≥ 32単位)
4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(社会)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「日本史」「外国史」「地理学」「法学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」「倫理学」「宗教学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(地理歴史)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
日本史	日本史概論	2	A・B社S	中(社会) 高(地歴)
外国史	東洋史概論	2	A社SA B社S	
	西洋史概論	2		
人文地理学及び自然地理学	地理学概論	2	A・B社S	
	自然環境	2	A社SA B社S	
地誌	地誌学概論	2	A社SA B社S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(社会(地歴))
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2		
合	計	16		

①上記16単位を全部修得する。

②更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」から8単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」や,
高等学校(地理歴史)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から12単位以上, 併せて36単位以上
修得する必要がある。

(計算式 ①16単位+②8単位+③12単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(地理歴史)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「日本史」「外国史」「人文地理学」
「自然地理学」「地誌」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等社会科教育法Ⅰ」「中等社会科教育法Ⅱ」を修得している場合は、③の12単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(公民)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
「法律学(国際法を含む。), 政治学(国際政治を含む。)」	法学政治学概論	2	A・B社S	中(社会) 高(公民)
「社会学, 経済学(国際経済 を含む。)」	社会学概論	2	A社SA B社S	
	経済学概論	2	A社SA B社S	
「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	哲学・倫理学概論	2	A社SA B社S	
	哲学と宗教	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(社会(公民))
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2		
合 計		14		

①上記14単位を全部修得する。

②更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」から10単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類社会, B類社会に開設している高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(公民)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から12単位以上, 併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①14単位+②10単位+③12単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(公民)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「法律学」「政治学」「社会学」「経済学」「哲学」
「倫理学」「宗教学」である。

※法令上は「心理学」というカテゴリーも存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等社会科教育法Ⅰ」「中等社会科教育法Ⅱ」を修得している場合は、③の12単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	中高(数学)
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論, 統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
	確率・統計Ⅱ	2	A数SA B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論	2	A数SA B数S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(数学)
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合	計	26		

①上記26単位を全部修得する。

②更にA類数学, B類数学に開設している中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類数学, B類数学に開設している中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(数学)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上, 併せて32単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①26単位+②2単位+③4単位以上 $\geq$ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」
「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(数学)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
代数学	代数学Ⅰ	2	A・B数S	中高(数学)
	代数学Ⅱ	2	A数SA B数S	
幾何学	幾何学Ⅰ	2	A・B数S	
	幾何学Ⅱ	2	A数SA B数S	
解析学	解析学Ⅰ	2	A・B数S	
	解析学Ⅱ	2	A数SA B数S	
「確率論, 統計学」	確率・統計Ⅰ	2	A・B数S	
	確率・統計Ⅱ	2	A数SA B数S	
コンピュータ	コンピュータ概論	2	A数SA B数S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等数学科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(数学)
	中等数学科教育法Ⅱ	2		
	中等数学科教育法Ⅲ	2		
	中等数学科教育法Ⅳ	2		
合	計	26		

①上記26単位を全部取得する。

②更にA類数学, B類数学に開設している高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類数学, B類数学に開設している高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(数学)の
適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上, 併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①26単位(22+4) + ②2単位 + ③8単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(数学)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「代数学」「幾何学」「解析学」「確率論」
「統計学」「コンピュータ(A・B数学の専門科目として開設しているものに限る)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(理科)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論	2	A理SA B理S	中高(理科)
	物理学演習	2		
物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験	1	A・B理S	
化学	化学概論	2	A理SA B理S	
	化学演習	2		
化学実験(コンピュータ活用を含む。)	化学実験	1	A・B理S	
生物学	生物学概論	2	A理SA B理S	
	生物学演習	2		
生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	生物学実験	1	A・B理S	
地学	地学概論	2	A理SA B理S	
	地学演習	2		
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験	1	A・B理S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(理科)
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類理科, B類理科に開設している中学校(理科)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(理科)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上, **併せて32単位以上修得する必要がある。**

(計算式 ①28単位+②4単位以上 $\geq$ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(理科)の「教科に関する専門的事項」の категорияは, 「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験」「化学実験」「生物学実験」「地学実験」である。

※「教科に関する専門的事項」の категорияは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(理科)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
物理学	物理学概論	2	A理SA B理S	中高(理科)
	物理学演習	2		
化学	化学概論	2	A理SA B理S	
	化学演習	2		
生物学	生物学概論	2	A理SA B理S	
	生物学演習	2		
地学	地学概論	2	A理SA B理S	
	地学演習	2		
「物理学実験(コンピュータ活用を含む。), 化学実験(コンピュータ活用を含む。), 生物学実験(コンピュータ活用を含む。), 地学実験(コンピュータ活用を含む。)」	物理学実験	1	A・B理S	
	化学実験	1		
	生物学実験	1		
	地学実験	1		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等理科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(理科)
	中等理科教育法Ⅱ	2		
	中等理科教育法Ⅲ	2		
	中等理科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類理科, B類理科に開設している高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(理科)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上, **併せて36単位以上修得する必要がある。**

(計算式 ①28単位(24+4) + ②8単位以上 ≥ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(理科)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「物理学」「化学」「生物学」「地学」「物理学実験, 化学実験, 生物学実験, 地学実験」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考			
	授 業 科 目	単位数	開設場所				
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A・B音S	中高(音楽)			
声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A・B音S				
	邦楽歌唱法A 邦楽歌唱法B	1科目選択 1	A・B音SA				
	基礎声楽実技Ⅰ				A・B音S		
	基礎声楽実技Ⅱ	1					
	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1		A・B音S		
基礎ピアノ実技Ⅱ		1					
基礎管弦打実技Ⅰ		1					
基礎管弦打実技Ⅱ		1					
吹奏楽Ⅰ(偶) オーケストラⅠ(奇)		1科目選択 1	A・B音SA				
和楽器A 和楽器B 和楽器C 和楽器D					1科目選択 1		
指揮法		指揮法				2	A・B音S
音楽理論, 作曲法(編曲法を含む。)及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)		作曲法Ⅰ				2	A・B音S
		作曲法Ⅱ				2	
		音楽学概論A			2		
	音楽学概論B	2					
	音楽学概論C	2					
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目		中高(音楽)		
	中等音楽科教育法Ⅱ	2					
	中等音楽科教育法Ⅲ	2					
	中等音楽科教育法Ⅳ	2					
合	計	31					

①上記31単位を全部修得する。

②更にA類音楽, B類音楽開設している中学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(音楽)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上, **併せて32単位以上修得する**必要がある。

(計算式 ①31単位(28+3) + ②1単位以上 ≥ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「ソルフェージュ」「声楽」「器楽」「指揮法」「音楽理論」「作曲法」「音楽史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(音楽)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考		
	授 業 科 目	単位数	開設場所			
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	A・B音S	中高(音楽)		
声乐(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。)	合唱	1	A・B音S			
	邦楽歌唱法A 邦楽歌唱法B	1科目選択 1	A・B音SA			
	基礎声乐実技Ⅰ	1	A・B音S			
	基礎声乐実技Ⅱ	1				
	器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。)	基礎ピアノ実技Ⅰ	1		A・B音S	
基礎ピアノ実技Ⅱ		1				
基礎管弦打実技Ⅰ		1				
基礎管弦打実技Ⅱ		1				
吹奏楽Ⅰ(偶) オーケストラⅠ(奇)		1科目選択 1	A・B音SA			
和楽器A 和楽器B 和楽器C 和楽器D		1科目選択 1				
指揮法		2			A・B音S	
音楽理論, 作曲法(編曲法を含む。) 及び音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)		作曲法Ⅰ			2	A・B音S
		作曲法Ⅱ			2	
		音楽学概論A			2	
	音楽学概論B	2				
	音楽学概論C	2				
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等音楽科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目		中高(音楽)	
	中等音楽科教育法Ⅱ	2				
	中等音楽科教育法Ⅲ	2				
	中等音楽科教育法Ⅳ	2				
合 計		31				

①上記31単位を全部修得する。

②更にA類音楽, B類音楽開設している高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(音楽)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から5単位以上, **併せて36単位以上修得する**必要がある。

(計算式 ①31単位(24+7)+②5単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(音楽)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「ソルフェージュ」「声乐」「器楽」「指揮法」「音楽理論」「作曲法」「音楽史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	中高(美術)
	絵画基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
	彫刻基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
デザイン(映像メディア表現を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
工芸	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(工芸)
	工芸基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	西洋美術史概論	2	A・B美S	中高(美術)
	美学	2	A美SA B美S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(美術)
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合	計	30		

①上記30単位を全部修得する。

②更にA類美術, B類美術に開設している中学校(美術)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(美術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から2単位以上, **併せて32単位以上修得する**必要がある。

(計算式 ①30単位 (28+2) + ②2単位以上 ≧ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(美術)の「教科に関する専門的事項」の категорияは, 「絵画」「彫刻」「デザイン」「工芸」「美術理論」「美術史」である。

※「教科に関する専門的事項」の категорияは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等工芸科教育法Ⅰ」「中等工芸科教育法Ⅱ」を修得している場合は, ②の2単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(美術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
絵画(映像メディア表現を含む。)	絵画基礎Ⅰ	2	A・B美S	中高(美術)
	絵画基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
彫刻	彫刻基礎Ⅰ	2	A・B美S	
	彫刻基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
デザイン(映像メディア表現を含む。)	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	
美術理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	西洋美術史概論	2	A・B美S	中高(美術)
	美学	2	A美SA B美S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等美術科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(美術)
	中等美術科教育法Ⅱ	2		
	中等美術科教育法Ⅲ	2		
	中等美術科教育法Ⅳ	2		
合	計	26		

①上記26単位を全部修得する。

②更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」から2単位以上,
併せて28単位以上修得する。

③更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(美術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上, 併せて36単位以上修得する必要がある。

$$(計算式 \quad ①26単位(22+4) + ②2単位 + ③8単位以上 \geq 36単位)$$

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(美術)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「絵画」「彫刻」「デザイン」「美術理論」「美術史」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等工芸科教育法Ⅰ」「中等工芸科教育法Ⅱ」を修得している場合は、③の8単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(工芸)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
図法及び製図	図法・製図	2	AB美SA	高(工芸)
デザイン	デザイン基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術)
	デザイン基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	高(美術)(工芸)
工芸制作(プロダクト制作を含む。)	工芸基礎Ⅰ	2	A・B美S	中(美術)
	工芸基礎Ⅱ	2	A美SA B美S	高(工芸)
工芸理論, デザイン理論及び美術史(鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。)	日本東洋美術史概論	2	A・B美S	中(美術) 高(美術)(工芸)
	工芸・デザイン理論	2	A・B美SA	高(工芸)
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等工芸科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(工芸)
	中等工芸科教育法Ⅱ	2		
合 計		18		

①上記18単位を全部修得する。

②更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」から6単位以上,
併せて24単位以上修得する。

③更にA類美術, B類美術に開設している高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」や, 高等学校(工芸)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から12単位以上, 併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①18単位+②6単位+③12単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(工芸)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「図法及び製図」「デザイン」「工芸制作」「工芸理論」「デザイン理論」「美術史(工芸用)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等美術科教育法Ⅰ～Ⅳ」を修得している場合は, ③の12単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考	
	授 業 科 目	単位数	開設場所		
体育実技	器械運動A 器械運動B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	中高(保健体育)	
	陸上A 陸上B } 1科目選択	1	A保体S B保体S		
	水泳A 水泳B } 1科目選択	1	A保体S B保体S		
	バスケットボールA バスケットボールB } 1科目選択	1	A保体S B保体S		
	サッカーA サッカーB } 1科目選択	1	A保体S B保体S		
	ソフトボールA ソフトボールB バレーボール ソフトバレーボール } 1科目選択	1	A保体S B保体S B保体S A保体S		
	表現運動 ダンス } 1科目選択	1	A保体S B保体S		
	剣道 柔道 } 1科目選択	1	B保体S B保体S		
「体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育 社会学,体育史」及び運動学 (運動方法学を含む。)	体育原理概論	2	A保体SA B保体S		
	運動方法学総論	2	B保体S		
生理学(運動生理学を 含む。)	人体解剖生理学	2	A・B保体S		
	運動生理学概論	2	A保体SA B保体S		
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S		
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学概説	2	A・B保体S	中高(保健体育) 中高(保健)	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健体育)	
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2			
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2			
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2			
合	計	28			

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類保健体育, B類保健体育に開設している中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」や,
中学校(保健体育)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上, **併せて32単位以上**
修得する必要がある。

(計算式 ①28単位+②4単位以上 $\geq$ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」の категория は, 「体育実技」「体育原理」
「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「運動学」「生理学」「衛生学及び公衆衛生学」
「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※法令上は「体育史」という category も存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」の category は開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
体育実技	器械運動A 器械運動B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	中高(保健体育)
	陸上A 陸上B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	水泳A 水泳B } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	バスケットボールA バスケットボールB } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	サッカーA サッカーB } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	ソフトボールA ソフトボールB バレーボール ソフトバレーボール } 1科目選択	1	A保体S B保体S B保体S A保体S	
	表現運動 ダンス } 1科目選択	1	A保体S B保体S	
	剣道 柔道 } 1科目選択	1	B保体S B保体S	
「体育原理, 体育心理学, 体育経営管理学, 体育 社会学, 体育史」及び運動学 (運動方法学を含む。)	体育原理概論	2	A保体SA B保体S	
	運動方法学総論	2	B保体S	
生理学(運動生理学を 含む。)	人体解剖生理学	2	A・B保体S	
	運動生理学概論	2	A保体SA B保体S	
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S	
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学概説	2	A・B保体S	中高(保健体育) 中高(保健)
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健体育)
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2		
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類保健体育, B類保健体育に開設している高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」や,
高等学校(保健体育)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上, **併せて36単位以上
修得する必要がある。** (計算式 ①28単位(24+4)+②8単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(保健体育)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは, 「体育実技」「体育原理」
「体育心理学」「体育経営管理学」「体育社会学」「運動学」「生理学」「衛生学及び公衆衛生学」
「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※法令上は「体育史」というカテゴリーも存在するが, 本学では開設していない。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
生理学及び栄養学	健康と栄養	2	D養護S	中(保健)
	解剖学	2		
	生理学	2		
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S D養護S	
	保健行動科学	2	D養護S	
学校保健(小児保健, 精神保健, 学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学	1科目選択 2	D養護S	
	学校保健学概説		A・B保体S	
	小児科学	2	D養護S	
	学校安全と危機管理	2	D養護S	
	学校保健基礎セミナー	2	D養護S	
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健)
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合 計		28		

①上記28単位を全部修得する。

②更に学校教育系に開設している中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(保健)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上、併せて32単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①28単位 + ②4単位以上 ≥ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「生理学」「栄養学」

「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校(保健)の必修科目以外の「教科に関する専門的事項」は以下のとおりである。

授 業 科 目	選修(専攻)名・開設状況	対応免許種		免許法上の科目
精神保健学概論	養護専攻(S)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人間の性と健康	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
小児・思春期保健学	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
精神保健学各論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人体解剖生理学	A・B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学 解剖学
運動生理学概論	A保体(SA), B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学
スポーツバイオメカニクス概論	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
運動生理学演習	B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
救急処置法	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健

高等学校教諭一種免許状(保健)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本学の対応する開設授業科目			備考
	授業科目	単位数	開設場所	
「生理学, 栄養学, 微生物学, 解剖学」	健康と栄養	2	D養護S	高(保健)
	解剖学	2	D養護S	
	感染免疫学	2	D養護S	
	薬理学	2	D養護S	
	生理学	2	D養護S	
衛生学及び公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2	A・B保体S D養護S	
	保健行動科学	2	D養護S	
学校保健(小児保健, 精神 保健, 学校安全及び救急 処置を含む。)	学校保健学	1科目選択 2	D養護S	
	学校保健学概説		A・B保体S	
	小児科学	2	D養護S	
	学校安全と危機管理	2	D養護S	
	学校保健基礎セミナー	2	D養護S	
	救急処置の理論と演習	2	D養護S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等保健科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(保健)
	中等保健科教育法Ⅱ	2		
	中等保健科教育法Ⅲ	2		
	中等保健科教育法Ⅳ	2		
合	計	32		

①上記32単位を全部修得する。

②更に学校教育系に開設している高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(保健)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上、併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①32単位(24+8) + ②4単位以上 ≧ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(保健)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「生理学」「栄養学」「衛生学及び公衆衛生学」「学校保健(小児保健)(精神保健)(学校安全)(救急処置)」「微生物学」「解剖学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校・高等学校(保健)の必修科目以外の「教科に関する専門的事項」は以下のとおりである。

授業科目	選修(専攻)名・開設状況	対応免許種		免許法上の科目
精神保健学概論	養護専攻(S)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人間の性と健康	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
小児・思春期保健学	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健
精神保健学各論	養護専攻(SA)	中(保健)	高(保健)	精神保健
人体解剖生理学	A・B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学 解剖学
運動生理学概論	A保体(SA), B保体(S)	中(保健)	高(保健)	生理学
スポーツバイオメカニクス概論	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
運動生理学演習	B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	生理学
救急処置法	A・B保体(SA)	中(保健)	高(保健)	学校保健

中学校教諭一種免許状(家庭)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学	2	A・B家S	中高(家庭)
	家族関係学	2	A家SA B家S	
被服学(被服製作実習を含む。)	被服学Ⅰ	2	A・B家S	
	被服学演習A	2	A家SA	
	被服学実験・実習A	1	B家S	
食物学(栄養学, 食品学 及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	
	食品学概論	2	A家SA	
	食物学実験・実習A	1	B家S	
住居学	住居学	2	A・B家S	
	住居設計製図	1	A家SA B家S	
保育学(実習を含む。)	児童学Ⅰ	2	A・B家S	
	児童学Ⅱ	2	A家SA	
	家庭看護学	2	B家S	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(家庭)
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合	計	31		

①上記31単位を全部修得する。

②更にA類家庭, B類家庭に開設している中学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」や, 中学校(家庭)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上, **併せて32単位以上修得する**必要がある。

(計算式 ①31単位(28+3) + ②1単位以上 ≥ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」の категория は, 「家庭経営学」「被服学」「食物学」「住居学」「保育学」である。

※「教科に関する専門的事項」の категория は開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	家庭経営学	2	A・B家S	中高(家庭)
	家族関係学	2	A家SA B家S	
被服学 (被服製作実習を含む。)	被服学Ⅰ	2	A・B家S	
	被服学演習A	2	A家SA	
	被服学実験・実習A	1	B家S	
食物学(栄養学, 食品学 及び調理実習を含む。)	栄養学概論	2	A・B家S	
	食品学概論	2	A家SA	
	食物学実験・実習A	1	B家S	
住居学(製図を含む。)	住居学	2	A・B家S	
	住居設計製図	1	A家SA B家S	
保育学 (実習及び家庭看護を含む。)	児童学Ⅰ	2	A・B家S	
	児童学Ⅱ	2	A家SA	
	家庭看護学	2	B家S	
家庭電気・機械及び 情報処理	家庭工学	2	A家SA B家S	高(家庭)
	家庭科と情報	2	A・B家専攻SE	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等家庭科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(家庭)
	中等家庭科教育法Ⅱ	2		
	中等家庭科教育法Ⅲ	2		
	中等家庭科教育法Ⅳ	2		
合 計		35		

②更にA類家庭、B類家庭に開設している高等学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(家庭)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から1単位以上、併せて36単位以上修得する必要がある。

高等学校(家庭)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「家庭経営学」「被服学」「食物学」「住居学」「保育学」及び「家庭電気・機械及び情報処理」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

中学校教諭一種免許状(技術)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
木材加工(製図及び実習を含む。)	基礎製図	2	AものSA B技S	中(技術) 高(工業)
	木材加工概論	2	AものSB B技S	
	木材加工 I	1		
金属加工(製図及び実習を含む。)	金属加工 I	3	AものSA B技S	
機械(実習を含む。)	機械工学の基礎	3	AものSB B技S	
電気(実習を含む。)	電気回路	3	AものSB B技S	中(技術)
栽培(実習を含む。)	栽培	3	AものSA B技S	
情報とコンピュータ (実習を含む。)	応用情報処理 I	2	AものSB B技S	中(技術) 高(工業)
	技術・工業と情報	2	AものSB B技SE	
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等技術科教育法 I	2	教育基礎科目	中高(技術)
	中等技術科教育法 II	2		
	中等技術科教育法 III	2		
	中等技術科教育法 IV	2		
合	計	29		

①上記29単位を全部修得する。

②更にB類技術に開設している中学校(技術)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(技術)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から3単位以上、併せて32単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①29単位(28+1)+②3単位以上≥32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(技術)の「教科に関する専門的事項」の категория は、「木材加工」「金属加工」「機械」「電気」「栽培」「情報とコンピュータ」である。

※「教科に関する専門的事項」の категория は開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「工業科教育法 I」「工業科教育法 II」を修得している場合は、②の3単位に含めることができる。

高等学校教諭一種免許状(工業)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
工業の関係科目	基礎製図	2	AものSA B技S	中(技術) 高(工業)
	木材加工概論	2	AものSB B技S	
	木材加工 I	1		
	金属加工 I	3	AものSA B技S	
	機械工学の基礎	3	AものSB B技S	
	電気回路	3	AものSB B技S	
	応用情報処理 I	2	AものSB B技S	
	技術・工業と情報	2	AものSB B技SE	
職業指導	職業指導	2	AものSB B技S	高(工業)
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	工業科教育法 I	2	教育基礎科目	中高(工業)
	工業科教育法 II	2		
合 計		24		

①上記24単位を全部修得する。

②更にB類技術に開設している高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(工業)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から12単位以上、併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①24単位+②12単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(工業)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「工業」「職業指導」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

※「中等技術科教育法 I～IV」を修得している場合は、②の12単位に含めることができる。

中学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
英語学	英語音声学概論	2	A・B英S	中高(英語)
	英文法演習A	2	A英SA B英S	
	英文法演習B	2		
	英語史概論	2		
英語文学	英米文学概論A	2	A英SA B英S	
	英米文学概論B	2		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英会話Ⅰ	1	A・B英S	
	英語読解Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英語読解Ⅱ	1		
異文化理解	イギリス文化概論	2	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(英語)
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類英語、B類英語に開設している中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」や、中学校(英語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から4単位以上、併せて32単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①28単位+②4単位以上 $\geq$ 32単位)

4単位(大学が独自に設定する科目)

中学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
英語学	英語音声学概論	2	A・B英S	中高(英語)
	英文法演習A	2	A英SA B英S	
	英文法演習B	2		
	英語史概論	2		
英語文学	英米文学概論A	2	A英SA B英S	
	英米文学概論B	2		
英語コミュニケーション	英作文Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英会話Ⅰ	1	A・B英S	
	英語読解Ⅰ	1	A英SA B英S	
	英語読解Ⅱ	1		
異文化理解	イギリス文化概論	2	A英SA B英S	
	アメリカ文化概論	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	中等英語科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(英語)
	中等英語科教育法Ⅱ	2		
	中等英語科教育法Ⅲ	2		
	中等英語科教育法Ⅳ	2		
合	計	28		

①上記28単位を全部修得する。

②更にA類英語、B類英語に開設している高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」や、高等学校(英語)の適用を受ける「大学が独自に設定する科目」から8単位以上、併せて36単位以上修得する必要がある。

(計算式 ①28単位(24+4)+②8単位以上 $\geq$ 36単位)

12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(英語)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

高等学校教諭一種免許状(書道)を取得する際の必修科目

教育職員免許法上の 「教科に関する専門的事項」	本 学 の 対 応 す る 開 設 授 業 科 目			備考
	授 業 科 目	単位数	開設場所	
書道(書写を含む。)	漢字研究Ⅰ	2	B書S	高(書道)
	漢字研究Ⅱ	2		
	漢字研究Ⅲ	2	B書SA	
	仮名研究Ⅰ	2	B書S	
	仮名研究Ⅱ	2	B書SA	
	漢字仮名交じり研究Ⅰ	2	B書S	
	篆刻・刻字	2		
	書作品制作研究	2	B書SA	
書道史	書道史研究Ⅰ	2	B書S	
	書道史研究Ⅱ	2		
「書論, 鑑賞」	書論研究	2	B書S	
「国文学, 漢文学」	中国古典文基礎	2	B書S	
	中国古典文学概論	2		
	中国古典文献概論	2		
	日本文学概論Ⅰ	2		
	日本文学概論Ⅱ	2		
	日本文学史Ⅰ	2		
	日本文学史Ⅱ	2		
教育職員免許法上の 「各教科の指導法」	書道科教育法Ⅰ	2	教育基礎科目	中高(書道)
	書道科教育法Ⅱ	2		
合 計		40		

①上記40単位を全部修得する。

(計算式 ① $40(24+16) \geq 36$ 単位)

└
12単位(大学が独自に設定する科目)

高等学校(書道)の「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは、「書道」「書道史」「書論」「鑑賞」及び「国文学」「漢文学」である。

※「教科に関する専門的事項」のカテゴリーは開設授業科目の「免許法上の科目」欄に表示してある。

(6) 各種免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」について

学校教育系各課程において、小学校、中学校、高等学校及び幼稚園教諭免許状の取得に際し「大学が独自に設定する科目」の単位修得が必要である。修得を要する単位数は、小学校教諭一種免許状にあっては2単位、中学校教諭一種免許状にあっては4単位、高等学校教諭一種免許状にあっては12単位、幼稚園教諭一種免許状にあっては14単位である。

学校教育系で免許法上の「大学が独自に設定する科目」として認定される科目「○・・・使用可」

区分	授業科目名	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている	授業観察演習	1	○	○	○	○	共通SE	
	日本教育史	2	○	○	○	○		
	西洋教育史	2	○	○	○	○		
	子ども社会学	2	○	○	○	○		
	現代学校論	2	○	○	○	○		
	学校図書館入門	2	○	○	○			
	学級経営論	2	○	○	○	○		
	教員のメンタルケアの基礎理論	2	○	○	○	○		
	環境と教育実践	2	○	○	○	○		
	教育評価の理論と実践	2	○	○	○	○		
	教室集団の人間関係	2	○	○	○	○		
	子どもの遊びと生活	2	○	○	○	○		
	特別ニーズと教育	2	○	○	○	○		
	外国人児童生徒への日本語教育	2	○	○	○	○		
	教育思想史	2	○	○	○	○		
	国際理解教育論	2	○	○	○	○		
	教職基礎としての子どもの安全管理	2	○	○	○	○		
	小学校におけるプログラミング教育	2	○					
	国際バカロレア教育論	2	○	○	○			
	教育のためのデータサイエンス	1	○	○	○	○		
	社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	1	○	○	○	○		
	学びを支えるファシリテーションの技法	1	○	○	○	○		
	チーム学校と多職種協働	1	○	○	○	○		
	教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	1	○	○	○	○		
	学校教育におけるSDGs	1	○	○	○	○		
	教育評価の理論と実践	1	○	○	○	○		
	環境と教育実践	1	○	○	○	○		
	エコスクール論	1	○	○	○	○		
	地域の環境観測とその実践	1	○	○	○	○		
	子どもの遊びと生活	1	○	○	○	○		
	板書指導と手書き文字	1	○	○	○	○		
	学校におけるプログラミング教育	1	○	○	○	○		
	遊びと発達・発達	1	○	○	○	○		
	学校図書館で深める主体的な学びのデザイン	1	○	○	○	○		
	Lesson Study in Japan	2	○	○	○	○		
	いじめ・不登校と変化する社会	1	○	○	○	○		
	現代の学校と外国人児童・生徒	1	○	○	○	○		
	外国人児童生徒への日本語教育	1	○	○	○	○		
	文字文化と書写指導	1	○	○	○	○		
	不平等と教育	1	○	○	○	○		
	特別ニーズと教育	1	○	○	○	○		
	インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン	1	○	○	○	○		
	未来の学校をみんなで創る	1	○	○	○	○		
	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政A	1	○	○	○	○		
	現代の学校をめぐる諸課題と教育行政B	1	○	○	○	○		

必修科目	教師の省察的実践のための教育思想	1	○	○	○	○		
	現代学校論	1	○	○	○	○		
	教室集団の人間関係	1	○	○	○	○		
	学級経営論	1	○	○	○	○		
	学校経営のための教育経営・教育政策	1	○	○	○	○		
	Education in Japan (A)	2	○	○	○	○		
	Education in Japan (B)	2	○	○	○	○		
	教育の情報化基礎	1	○	○	○	○		
	学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル	1	○	○	○	○		
	教職基礎としての子供の安全	1	○	○	○	○		
	学校教育と地域連携	1	○	○	○	○		
	国語科と情報	2	○	○ 国語	○ 国語	○	A・B類国語 専攻SE	
	国語科教材論A	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	国語科教材論B	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	国語科教材論C	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語教育概論	2	○			○	A類国語S	
	日本語教育方法論	2	○			○	A・B類国語SA	
	年少者日本語教育	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語教育教材開発論	2	○	○ 国語	○ 国語	○		
	日本語政策論	2	○	○ 国語	○ 国語			
	日本語教育と言語学	2	○			○		
	異文化間教育	2	○			○		
	言語習得と発達	2	○			○		
	社会科と情報	2	○	○ 社会	○地歴・公民		A・B類社会 専攻SE	
	社会科カリキュラム論	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科教材論A	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科教材論B	2	○	○ 社会	○地歴・公民			
	社会科授業論	2	○				A・B類社会SA	
	社会科教育実践史	2	○					
	社会科教育研究入門	2	○					
	初等算数科教材論	2	○				A類数学 専攻SE	
	算数科教育臨床	2	○					

区分	「教科又は教職に関する科目」の指定授業科目	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	数学カリキュラム論	2	○	○ 数学	○ 数学		A・B類数学専攻SE	
	数学科教材論	2	○	○ 数学	○ 数学		B類数学専攻SE	
	数学科教育臨床	2		○ 数学	○ 数学			
	数学教育研究	2		○ 数学	○ 数学			
	理科学習指導論	2	○	○ 理科	○ 理科		A・B類理科専攻SE	
	理科カリキュラム研究	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科教材開発基礎Ⅱ	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科教育臨床	2	○	○ 理科	○ 理科			
	科学教材開発研究論	2	○				A類理科専攻SE	
	理科教育測定・評価論	2	○	○ 理科	○ 理科		A・B類理科SA	
	理科教育学概説	2	○	○ 理科	○ 理科			
	現代社会における理科教育	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科における環境教育	2	○	○ 理科	○ 理科			
	自然探究実践法	2	○	○ 理科	○ 理科			
	理科教材開発基礎Ⅰ	2	○	○ 理科	○ 理科			
	音楽科と情報	2	○	○ 音楽	○ 音楽		A・B類音楽専攻SE	
	音楽科教材演習	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽科教材特論	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽授業実践演習	2	○	○ 音楽	○ 音楽	○		
	音楽教育特別研究A	2	○	○ 音楽	○ 音楽		A・B類音楽SA	
	音楽教育特別研究B	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	音楽教育特別研究C	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	音楽教育特別研究D	2	○	○ 音楽	○ 音楽			
	図画工作・美術科と情報	2	○	○ 美術	○美術・工芸		A・B類美術専攻SE	
	図画工作科教材論	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○	A類美術専攻SE	
	図画工作科カリキュラム論	2	○			○		
	美術科教材論Ⅰ（平面）	2	○	○ 美術	○美術・工芸		B類美術専攻SE	
	美術科教材論Ⅱ（立体）	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	美術科カリキュラム論	2		○ 美術	○美術・工芸			
	美術科教育演習Ⅰ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○	A・B類美術SA	
	美術科教育演習Ⅱ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術科教育演習Ⅲ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術科教育演習Ⅳ	2	○	○ 美術	○美術・工芸	○		
	美術家教育と美術科教育	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	美術教育基礎研究	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	鑑賞教育	2	○	○ 美術	○美術・工芸			
	保健体育科と情報	2	○	○保健体育	○保健体育		A・B類保健体育専攻SE	
	保健体育科教材研究	2	○	○保健体育	○保健体育			
	体育科学習評価論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	教科体育・特活指導計画論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	保健体育科カリキュラム開発論	2	○	○保健体育	○保健体育			
	保健体育科模擬授業演習A	2	○				A類保健体育専攻SE	
	保健体育科模擬授業演習B	2		○保健体育	○保健体育		B類保健体育専攻SE	

区分	「教科又は教職に関する科目」の指定授業科目	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
	家庭科教材論Ⅰ	2	○	○ 家庭	○ 家庭		A・B類家庭専攻SE	
	家庭科教材論Ⅱ	2	○	○ 家庭	○ 家庭			
	家庭科カリキュラム論	2	○	○ 家庭	○ 家庭			
	英語科と情報	2	○	○ 英語	○ 英語		A・B類英語専攻SE	
	英語科と異文化理解	2	○	○ 英語	○ 英語			
	英語科教材論	2	○	○ 英語	○ 英語			
	英語教育の現状と課題	2	○	○ 英語	○ 英語			
	第二言語習得	2	○	○ 英語	○ 英語			
大学が独自に設定する科目として指定されている科目	学校教育と情報	2	○	○	○	○	A類学校教育専攻SE	
	教材論	2	○	○	○	○		
	カリキュラム論	2	○	○	○	○		
	授業実践の心理学	2	○	○	○	○	A類学校心理専攻SE	
	教授学習プロセスとその評価	2	○	○	○	○		
	特別支援教育と支援システム	2	○	○	○	○		
	教材論	2	○	○	○	○	A類国際教育専攻SE	
	カリキュラム論	2	○	○	○	○		
	国際教育臨床	2	○	○	○	○		
	教育情報化教材論A	2	○	○	○		A類情報教育専攻SE	
	教育情報化教材論B	2	○	○	○			
	教育情報化臨床	2	○	○	○			
	教育と情報	2	○	○	○		A類情報教育S	
	授業におけるICT活用	2	○	○	○			
	情報教育概論	2	○	○	○			
	情報メディア論	2	○	○	○		A情報教育SA	
	環境教育カリキュラム・方法論	2	○	○	○	○	A類環境教育専攻SE	
	環境教育と情報	2	○	○	○	○		
	ものづくり教育と教材	2	○	○	○	○	A類ものづくり技術専攻SE B類技術専攻SE	
	ものづくり教育臨床	2	○	○	○	○		
	保育者論	2				○	A類幼児教育専攻SE	
	乳幼児心理学	2				○		
	幼児教育学	2				○		
	幼児の健康指導研究	2				○		
	保育原理	2				○	A類幼児教育S	
	幼児教育と情報	2				○		
	科学技術と技術科の授業	2		○ 技術	○ 工業		B類技術専攻SE	
	書道科と情報	2			○ 書道		B類書道専攻SE	
	書道科教材論Ⅰ	2			○ 書道			
	書道科教材論Ⅱ	2			○ 書道			
	書道科カリキュラム・評価論	2			○ 書道			
	特別支援教育と情報	2	○	○			C類専攻SE	
	特別支援教育臨床	2	○	○				
	道徳教育の指導法	2			○	○	ET道徳の指導法	

区分	「教科又は教職に関する科目」の指定授業科目	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
教育基礎科目・教科の指導法の余剰科目（単位）分となる科目	特別支援教育の理解	2	○	○	○	○	EF教育の基礎理論	C類のみ
	特別な教育的ニーズの理解と支援	2	○	○	○	○	C類専攻SE	C類除く
	中等国語科教育法Ⅰ	2	○				中学校各教科指導法	
	中等国語科教育法Ⅱ	2	○					
	中等国語科教育法Ⅲ	2	○					
	中等国語科教育法Ⅳ	2	○					
	中等社会科教育法Ⅰ	2	○		○地歴・公民			
	中等社会科教育法Ⅱ	2	○		○地歴・公民			
	中等数学科教育法Ⅰ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅱ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅲ	2	○					
	中等数学科教育法Ⅳ	2	○					
	中等理科教育法Ⅰ	2	○					
	中等理科教育法Ⅱ	2	○					
	中等理科教育法Ⅲ	2	○					
	中等理科教育法Ⅳ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅰ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅱ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅲ	2	○					
	中等音楽科教育法Ⅳ	2	○					
	中等美術科教育法Ⅰ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅱ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅲ	2	○		○ 工芸			
	中等美術科教育法Ⅳ	2	○		○ 工芸			
	中等工芸科教育法Ⅰ	2		○ 美術	○ 美術			
	中等工芸科教育法Ⅱ	2		○ 美術	○ 美術			
	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2	○					
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅰ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅱ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅲ	2	○					
	中等家庭科教育法Ⅳ	2	○					
	中等技術科教育法Ⅰ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅱ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅲ	2			○ 工業			
	中等技術科教育法Ⅳ	2			○ 工業			
	工業科教育法Ⅰ	2		○ 技術				
	工業科教育法Ⅱ	2		○ 技術				
	中等英語科教育法Ⅰ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅱ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅲ	2	○					
	中等英語科教育法Ⅳ	2	○					

区分	「教科に関する専門的事項」の指定授業科目	単位数	「大学が独自に設定する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
教科に関する専門的事項の余剰科目（単位）	右記の専攻科目の中で「教科に関する専門的事項」に指定されている科目で免許法上の最低修得単位を越えて修得した科目（単位）	小学校の教科に関する専門的事項	○				専攻科目	
		各専攻・選修の専攻に関する科目		○当該免許教科に限る	○当該免許教科に限る			
		幼稚園の教科に関する科目				○		

○高等学校の「中等(教科)教育法」の取扱い(地理歴史、公民、工芸、書道を除く)

本学では、中学校免許と同様に4科目8単位を必修としているが、免許法では、高等学校免許取得に必要な「中等(教科)教育法」の単位は4単位(法定必要単位)となっている。法定必要単位との余剰分である4単位を高等学校の「大学が独自に設定する科目」の12単位に含めることができる。

○選択科目「教育実地研究Ⅱ」の取扱い

選択科目「教育実地研究Ⅱ」を履修した場合、該当の免許取得のために「大学が独自に設定する科目」の余剰科目分として、あてることができる。「○・・・使用可」

	小学校	中学校	高等学校	養護	幼稚園	備考
①A類幼児教育選修の学生	○				○	協力幼稚園での教育実習
②幼児教育選修を除くA類の学生	○				○	協力小学校での教育実習
③B類の学生		○	○			協力高・中等教育学校での教育実習
④D類の学生				○		協力小・高・中等教育学校での養護実習

○学校教育系で免許法上の「教育の基礎的理解に関する科目」の余剰分となる科目「○・・・使用可」

区分	授業科目名	単位数	「教育の基礎的理解に関する科目」の指定学校種				開設場所	備考
			小学校	中学校	高等学校	幼稚園		
	特別支援教育の理解	2	○	○	○	○	E F 教育の基礎理論	※1
	※1 C類生が「特別支援教育の理解」の単位を修得した場合							
	特別な教育的ニーズの理解と支援	2	○	○	○	○	C類専攻SE	※2
	※2 A・B・D類生が「特別な教育的ニーズの理解と支援」の単位を修得した場合							

(7) 特別支援学校教諭免許状取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法

特別支援学校教諭の免許状を取得するには、基礎資格として小学校、中学校、高等学校又は幼稚園教諭
普通免許状を有することが必要である。

① 特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)の3領域を取得する場合

区 分		本学の対応する開設授業科目		履修 方法	備 考	
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最 低修得単位数	授 業 科 目			単位
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修	
第2	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	16	知的障害心理・生理・病理	2	8科目 必修	
			発達障害心理学特論	2		
			肢体不自由心理・生理・病理	2		
			病弱心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育学	2		
			発達障害教育学特論	2		
			肢体不自由教育学	2		
			病弱教育学	2		
第3	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	5	重複障害教育総論	2	必修	
			障害児教育総論	2	必修	
			言語障害教育学特論	2	1科目 選択	
			言語障害心理学特論			
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		言語障害指導法	2	1科目 選択	
			学習障害教育学特論			
			学習障害心理学特論	2		
			学習障害指導法			
	心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧養護学校)	3	必修	
合 計		26単位以上		29単位		

② 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)の3領域を取得する場合

区 分			本学の対応する開設授業科目		履修 方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最 低修得単位数	授 業 科 目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	全科目 必修	
第2	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	8	知的障害心理・生理・病理	2		
			肢体不自由心理・生理・病理	2		
			病弱心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育学	2		
			肢体不自由教育学	2		
			病弱教育学	2		
第3	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	3	重複障害教育総論	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害児教育総論	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧養護学校)	3		
合 計		16単位以上		21単位		

③ 特別支援学校教諭一種免許状(聴覚障害者)(知的障害者)の2領域を取得する場合

区 分			本学の対応する開設授業科目		履修 方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最 低修得単位数	授 業 科 目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	必修	
第2	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	聴覚言語障害心理・生理・病理A	2	8科目 必修	
			聴覚言語障害心理・生理・病理B	2		
			聴覚障害心理学特論	2		
			知的障害心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害教育学A	2		
			聴覚言語障害教育学B	2		
			聴覚障害教育学特論	2		
			知的障害教育学	2		
第3	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5	重複障害教育総論	2	必修	
			障害児教育総論	2	必修	
			言語障害教育学特論	2	1科目 選択	
			言語障害心理学特論			
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		言語障害指導法	2	1科目 選択	
			学習障害教育学特論			
			学習障害心理学特論	2		
			学習障害指導法			
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧聾学校)	3	必修	
合 計		26単位以上		29単位		

④ 特別支援学校教諭二種免許状(聴覚障害者)(知的障害者)の2領域を取得する場合

区 分			本学の対応する開設授業科目		履修 方法	備 考
欄	免 許 法 上 の 「特別支援教育に関する科目」	免許法上の最 低修得単位数	授 業 科 目	単位		
第1	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育概論	2	全科目 必修	
第2	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	8	聴覚言語障害心理・生理・病理B	2		
			知的障害心理・生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		聴覚言語障害教育学A	2		
			知的障害教育学	2		
第3	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	3	重複障害教育総論	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		障害児教育総論	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習 (旧聾学校)	3		
合 計		16単位以上		17単位		

(8) 養護教諭一種免許状の取得に必要な授業科目の履修方法

養護教諭は、D類養護教育教員養成課程(養護教育専攻)のみが取得できる免許状であり、他の専攻・選修の学生は取得できないので注意すること。

免許法上の科目区分		本学の対応授業科目等		履修方法	備考
		授業科目	単位		
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学(予防医学を含む。)	衛生・公衆衛生学	2	必修	養護専攻S
		保健行動科学	2	必修	
	学校保健	小児科学	2	必修	
		学校安全と危機管理	2	必修	
		学校保健学	2	必修	
		救急処置の理論と演習	2	必修	
		学校保健基礎セミナー	2	必修	
	養護概説	養護概説	2	必修	
	健康相談活動の理論及び方法	健康相談活動の理論と方法	2	必修	
	栄養学(食品学を含む。)	健康と栄養	2	必修	
	解剖学及び生理学	解剖学	2	必修	
		生理学	2	必修	
	「微生物学, 免疫学, 薬理概論」	感染免疫学	2	必修	
		薬理学	2	必修	
	精神保健	精神保健学概論	2	必修	
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	臨床医学Ⅰ	2	必修	
		臨床医学Ⅱ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅰ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅱ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅲ	2	必修	
		学校看護学理論と演習Ⅳ	2	必修	
		臨床実習Ⅰ	1	必修	
		臨床実習Ⅱ	2	必修	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	必修	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育の理念と歴史	2	必修	
	幼児, 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2	必修	
	特別の支援を必要とする幼児, 児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の理解	2	必修	
	教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育組織論	2	必修	
道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	初等教育の内容と方法	2	必修	
	育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	中等教育の内容と方法	2	必修	
	道徳, 総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	道徳教育の指導法	2	必修	
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	必修	
	生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含む。の理論及び方法	生徒指導・進路指導の理論と方法	2	必修	
		教育相談の理論と方法	2	必修	
教育実践に関する科目	養護実習	養護実習	5	必修	
	教職実践演習	教職実践演習(養護教諭)	2	必修	
合計			74		

※上記科目を履修することで、「大学が独自に設定する科目」に必要な7単位分も含まれる。

22

資格又は受験資格取得 に必要な科目（諸資格）

資格又は受験資格取得に必要な単位及び履修方法

1 司書教諭

本学の開設授業科目・単位等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位	標準開設学期	開設場所	履修方法	科目	単位数
学校経営と学校図書館	学校図書館・メディアセンターの基礎及び管理運営論	2	V	教職に関する科目 〔選択〕	必修	学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	学校図書館・メディアの種類・特性、及びその選択、収集、組織化	2	V			学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	「情報活用能力」育成のための児童への支援活動 教員に対する支援活動	2	VI			学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	読書活動と読書指導	2	V			読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	情報メディアの種類・特色および学校図書館での活用	2	VI			情報メディアの活用	2

* 司書教諭の資格取得手続き

- 司書教諭資格取得には、法令上基礎となる教育職員免許状(小, 中, 高)のいずれかが必要である。
- **3年次(卒業予定年次の前年度)までに全ての必修科目を取得した者**は、4年次(卒業予定年次)の7月頃に学務課担当窓口に申請すること。
- **4年次(卒業予定年次)までに全ての必修科目を取得した者**は、卒業後(教育職員免許状取得後)の6月初旬頃に本学のホームページを参照し、「学校図書館司書教諭講習」の参加申請をすること。
(書類参加のみ、講習は受講しなくてよい)
- 上記以外の者は、教育職員免許状(幼稚園教諭免許状を除く。)取得後、毎年8月に実施される「学校図書館司書教諭講習」の実施大学に申請すること。(本学は昭和29年度以降継続して講習実施大学である。)

2 保育士

保育士は、A類幼児教育選修の学生のみが取得できる資格であり、他専攻・選修の学生は取得できないので注意すること。なお、資格取得に関する科目は、A類幼児教育選修のみに開設される。

[授業科目名等の記載については省略]

3 司書

本学の開設授業科目・単位数等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準開設学期	履修方法	開設場所	科目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	I	必修	E生涯学習S A・B美術SB E表現教育SB	生涯学習概論	2
図書館情報学概説Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修	E生涯学習SA	図書館概論	2
情報検索技術論	同 左	2	V	1科目選択		図書館情報技術論	2
情報管理技術論	同 左	2	Ⅵ				
地域図書館経営論	同 左	2	Ⅲ	必修		図書館制度・経営論	2
地域図書館サービス論	同 左	2	Ⅳ	必修		図書館サービス概論	2
情報サービス論	同 左	2	V	必修		情報サービス論	2
子ども図書館サービス論	同 左	2	Ⅳ	必修		児童サービス論	2
資料・情報サービス演習	同 左	2	Ⅵ	1科目選択		情報サービス演習	2
情報検索演習	同 左	2	Ⅵ				
メディア資源論	同 左	2	Ⅲ	必修		図書館情報資源概論	2
資料・情報組織法Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	必修		情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅱ	同 左	2	Ⅳ	必修		情報資源組織演習	2
図書館特論	同 左	2	Ⅳ	2科目選択	E生涯学習SA	図書館基礎特論	1
学校図書館サービス特論	同 左	2	Ⅵ		E生涯学習S	図書館サービス特論	1
学術情報メディア特論	同 左	2	V		E生涯学習SA	図書館情報資源特論	1
図書館情報学概説Ⅱ	同 左	2	Ⅳ			図書・図書館史	1
図書館建築論	同 左	2	Ⅲ			図書館施設論	1
図書館情報学演習Ⅰ	同 左	2	V			図書館総合演習	1

* 司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

4 学校司書

本学の開設授業科目・単位数等					「学校司書のモデルカリキュラム」 における文部科学省の提示科目		
授業科目名	単 位 数	標準 開設 学期	履修 方法	開設場所		科目名	単 位 数
学校経営と学校図書館	2	V	必修	教職に関する科目〔選択〕	学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論	2
情報管理技術論	2	VI	1 科目 選択	E生涯学習 SA		図書館情報技術論	2
情報検索技術論	2	V				図書館情報資源概論	2
メディア資源論	2	III	必修			情報資源組織論	2
資料・情報組織法Ⅰ	2	III	必修			情報資源組織演習	2
資料・情報組織法Ⅱ	2	IV	必修			学校図書館サービス論	2
学校図書館サービス特論	2	VI	必修	E生涯学習 S		学校図書館情報サービス論	2
情報サービス論	2	V	必修	E生涯学習 SA			
資料・情報サービス演習	2	VI	1 科目 選択				
情報検索演習	2	VI					
教育の理念と歴史	2	I・II	必修	学校教育系 教育基礎科目	児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論	2
教育心理学	2	III	必修				
特別支援教育の理解	2	I・II	1 科目 選択				
特別な教育的ニーズの 理解と支援	2	V					
初等教育の内容と方法	2	IV	1 科目 選択				
中等教育の内容と方法	2	IV					
学習指導と学校図書館	2	VI	必修	教職に関する科目〔選択〕		学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2	V	必修			読書と豊かな人間性	2

* 学校司書の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「学校司書に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

5 社会教育主事(社会教育士)

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						講習相当科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位数	標準 開設 学期	開設場所	履修方法	科 目	単位数
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	I	E生涯学習S	必修	生涯学習概論	4
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	A・B美術SB E表現教育SB			
生涯学習支援論Ⅰ	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		生涯学習支援論	4
生涯学習支援論Ⅱ	同 左	2	Ⅳ				
社会教育経営論Ⅰ	同 左	2	V	E生涯学習SA		社会教育経営論	4
社会教育経営論Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育演習Ⅰ	同 左	2	V	E生涯学習SA		社会教育演習、社会教育実 習又は社会教育課題研究 のうち1以上の科目	3
社会教育演習Ⅱ	同 左	2	Ⅵ				
社会教育実習A	同 左	1	Ⅲ	E生涯学習SA	1科目以上 選択必修	社会教育実習	1
社会教育実習B	同 左	1	Ⅳ				
現代社会と生涯学習	同 左	2	I	E生涯学習S	4科目以上 選択必修	社会教育特講	8
生涯学習とキャリア形成	同 左	2	Ⅱ				
同和問題と社会教育	同 左	2	Ⅱ				
地域教育基礎論	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA			
コミュニティ形成と社会教育	同 左	2	Ⅲ				
社会教育実践論	同 左	2	Ⅳ				
性と人権	同 左	2	Ⅳ				

＊社会教育主事の資格および社会教育士(養成課程)の称号取得手続き

上記単位を取得した者で資格および称号証明が必要な者は、大学に対し「社会教育主事に関する科目の単位修得証明書」の発行を申請すること。

6 学芸員

本 学 の 開 設 授 業 科 目 ・ 単 位 数 等						学芸員に関する科目・単位数	
授業科目	授業内容	単位 数	標準開 設学期	開設場所	履修方法	科 目	単位 数
生涯学習社会と博物館	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習S A・B美術SB	必修 10 科目 22 単位 以上 と る こ と	博物館教育論	2
博物館学基礎論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA A・B美術SB		博物館概論	2
博物館資料論	同 左	2	Ⅲ	E生涯学習SA		博物館資料論	2
博物館経営論	同 左	2	Ⅲ			博物館経営論	2
博物館実習Ⅰ	同 左	④	ⅤⅥ	E生涯学習SA		博物館実習	3
博物館実習Ⅱ	同 左	②	ⅦⅧ				
博物館情報・メディア論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA		博物館情報・メディア論	2
生涯学習概説Ⅰ	同 左	2	Ⅰ	E生涯学習S A・B美術SB E表現教育SB	1 科目 選 択	生涯学習概論	2
生涯学習概説Ⅱ	同 左	2	Ⅱ	E生涯学習SA A・B美術SB E表現教育SB			
博物館資料保存論	同 左	2	Ⅳ	E生涯学習SA	必修	博物館資料保存論	2
博物館展示論	同 左	2	Ⅴ	E生涯学習SA	1 科目 選 択	博物館展示論	2
博物館と展示の活用	同 左	2	Ⅳ	A環境SA			

*履修上の注意

「博物館実習Ⅰ」は「生涯学習社会と博物館」「博物館学基礎論」の単位取得後に履修すること。

なお、「生涯学習社会と博物館」⇒「博物館学基礎論」の順番に履修すること。

「博物館実習Ⅱ」は「博物館実習Ⅰ」の単位取得後に履修するが、「博物館実習Ⅱ」の履修前までに資格取得に必要な他の科目全てを取得済みであることが望ましい。

*学芸員の資格取得手続き

上記単位を取得した者で資格証明が必要な者は、大学に対し「資格取得証明書」の発行を申請すること。

7 その他

本学は公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成免除適応コースに認定されている。

申請により、「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、公認スポーツプログラマーの専門講習、公認ジュニアスポーツ指導員の専門講習、公認水泳指導員の専門講習が免除され、公認水泳コーチの資格が取得可能。

取得を希望する者は説明会等の掲示を確認すること。

[授業科目名等の記載については省略]

学 生 番 号	氏 名
—	



国立大学法人

東京学芸大学
Tokyo Gakugei University

2019 Study Guide [学校教育系]

平成31年度入学生用

東京学芸大学